### 平成30年3月NHK北海道地方放送番組審議会

3月のNHK北海道地方放送番組審議会は、14日(水)、NHK札幌放送局において、 8人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、前回の審議会での答申を受け「平成30年度北海道地方向け地域放送番組編集計画」を決定したこと、およびこれに基づいて策定した「平成30年度北海道地方向け地域放送番組編成計画」について説明があった。

続いて、知っとく北海道「とことん釧路エリア!鶴居・厚岸」をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、4月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告があり、 会議を終了した。

### (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

委 員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

嘉指 博行 (北海道新聞社論説委員)

齋藤 拓也 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)

蛭田亜紗子 (小説家)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村田 博 ((株)村田商店 代表取締役)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポートステーション総括コーディネーター)

# (主な発言)

- <「平成30年度北海道地方向け地域放送番組編成計画」について>
- 今月の番組審議会の視聴指定番組である「知っとく北海道」は、いつ放送するのか。

# (NHK側)

「知っとく北海道」は土曜日午前10時30分からの「北海道LOVEテレビ」の枠で随時放送する予定だ。「いくぞ~!北の出会い旅」も時刻表には載っていないが、継続して放送する。

○ 「ひるまえナマら!北海道」について、帯広と釧路だけが金曜日に6分間単独で

放送するということだが、放送する局としない局というのはどのように決まっているのか教えてほしい。

### (NHK側)

「ひるまえナマら!北海道」は、今回の改定の大きな方針として、札幌局から全道に向けて放送することにした。その中で各局の気象情報や、お知らせ、イベント情報についても全道に向けて発信する。しかし、それでもローカルで放送したいという意向の局もあったので、帯広局と釧路局については、単独で放送することになった。

<知っとく北海道「とことん釧路エリア!鶴居・厚岸」 (総合 3月3日(土)前10:55~11:45 北海道ブロック)について>

- 新番組ということで、楽しみに見た。どのようにして楽しむことができるのかという視点で情報を提供しており、実際に行ってみたいと思う内容だった。名物を紹介するプレゼンテーションを重ねることで、それぞれの地域で力を入れている新しい取り組みを伝えていたのがよかった。なぜ厚岸町でウィスキーを造るのかという理由を掘り下げていたのもよかった。視聴者が番組にリアクションすることができるシステムは、この番組に合っていると感じた。生放送の会場に鶴居村と厚岸町の住民が来て、視聴者からの質問に答えていたのもよかったと思う。2つの地域を取り上げ交互に紹介することで、番組にメリハリがついていた。今後も期待している。
- 鶴居村や厚岸町の周辺に住んだことがある私でも初めて知ることがたくさんあり、おもしろかった。これからさまざまな地域を取り上げると思うが、このレベルの情報発信を維持できれば、とてもよい番組になると思う。少し残念だったのは、気になる商品が出てきたときに値段が出てこなかったことだ。安いからたくさん売れるのか、それとも高くてもたくさん売れるのかでは印象が違う。値段が高くて興味がなくなるということもあるかもしれないが、金額というのはとても大事な情報だと思う。釧路放送局からのお知らせのコーナーがあったが、手作り感があって好感が持てた。「遙かなる山の呼び声」がリメイクされると聞き、とても楽しみにしている。番組は50分だったと思うが、少し長いのではないかと思った。もう少し短くして、まだ見たかったと思わせるくらいのほうがよいと思う。
- 全体的に好感を持って見た。視聴者からの質問に会場の住民が答えていて、視聴

者と生中継の会場との交流が自然に表現されていた。釧路放送局のお知らせについてだが、いろいろな最先端技術がある中で、あのような手作り感のあるものが出てくると、目を引いて非常によかった。番組審議会の委員になるまでは、NHKの放送局が道内各地にあることを意識したことがなかった。今回、釧路放送局からのお知らせがあることで、釧路地方の情報をどのような形で届けていきたいのかが伝わり、よかったと思う。また、冒頭で番組の概要を明確に示していたのがよかった。北海道の地図が出てきて、14のエリアにわけて紹介していくと説明していたが、北海道が14の振興局に分かれていることは意外と知られていないので、とてもよいと思う。知って得したと思ったら押す「知っとく」ボタンは、楽しい仕組みだと思うが、投票数が出ているのに勝敗を発表しないことを疑問に思った。勝敗を示さないのであれば、投票数を出す必要はないと思う。どちらかにしたほうが、視聴者もすっきりとした気持ちで見られるのではないか。

### (NHK側)

番組を見て、行ってみたいと思ってもらえたことをとてもうれしく思う。 この番組は、「穴場ハンター」の後継番組として来年度から正式にスタート する。多様な地域情報を発信する視聴者参加型の番組を目指している。価格 については、競合するほかの会社やお店があるときには、あえて出さないこ とが多い。しかし、公共性のある取り組みなど、情報を出すことに意味があ るものに関しては、「知って得する」情報を提供するというコンセプトの番 組であるので、なるべく出していきたいと思っている。また、ホームページ などで細かな情報を補足していきたい。50分という放送時間については、 演出の内容や進行のしかたを含めて、長く感じないようにするのか、もしく は適当な時間に短縮するのか、来年度の放送に向けて検討する。会場の住民 が視聴者の質問に答えていたが、どのような質問が来るかわからないので、 観光協会や市町村にお願いして、対応できそうな人に集まってもらった。釧 路局からのお知らせは、地域の情報発信がこの番組の大きな目的であったた めコーナーを設けた。NHKは北海道各地に放送局があるので、それぞれが 地域の課題や話題を発信し、情報を届けるようにしていきたい。今後も取り 上げる地域の放送局に情報を伝えてもらう予定だ。勝敗をつけるかどうかは、 制作側としても最後まで悩んだ。どれぐらいの投票数になるかわからなかっ たので、得票数に差がついて、どちらかが惨敗したという印象を視聴者が持 ってしまうことは避けたかった。あくまでも、プレゼンテーションを進める うえでのモチベーションとして、さらには視聴者の番組への参加感を高める ために「知っとく」ボタンという双方向のシステムを採用した。来年度の番 組でどのようにするのかは、さまざまな意見を参考にしながら検討する。

- 今回の番組で取り上げた情報はどれも新鮮で、興味深く見た。ユニークな話題が多く、しっかりと下調べをしているのが伝わってきて、非常に好感が持てた。リポーターの稲場愛香さんは初々しい感じだったが、ナレーションはとても安定感があって、耳に心地よいかわいらしい声で、ナレーターとして活躍してほしいと思った。「知っとく」ボタンは、操作がシンプルで参加しやすくておもしろいと思う。しかし、得票数によってプレゼンテーションの順番が変わることは、現場は大変だと思うが、視聴者にとってはあまり意味がない試みなのではないかと思った。結果として、2つの地域が競い合う形になるので、いたたまれない感じがした。投票ボタンの活用方法がもっと別になかったのかと思った。今後どのような番組になっていくのか、楽しみにしている。
- データ放送をどのように番組に生かしていくのかにとても関心を持って見た。リモコンの操作方法について詳しく説明していたのはよかった。しかし、冒頭を見逃したので、「知っとく」ボタンを何度も押していいのか、それとも各プレゼンテーションにつき1回なのかがわからず、恐る恐るボタンを押した。正直に言うと、投票数が少ないと感じた。ただ、私を含めテレビがインターネットにつながっていない人が多いと思うので、反映されていないのかもしれない。ボタンを押したときの「知っとく」という声はかわいらしかったが、何回も押すとうるさく感じた。また、番組の音声をかき消してしまうこともあった。地元の人への質問を募集していたが、すぐに質問が思い浮かんでこなかった。慣れるまでは、視聴者にとって質問の投稿は難易度が高いのではないかと思う。釧路放送局からのお知らせはよい雰囲気だったが、「遙かなる山の呼び声」がなぜ紹介されたのかがわからなかったので、もう少し補足説明があればよかった。投票数を表示するモニターが暗くて見づらかった。光の関係だと思うが、工夫してほしい。2つの地域を取り上げていたが、途中でどちらの紹介をしているのかわからなくなり、混乱した。
- 全体として好印象だった。しかし初回だったこともあるかもしれないが、MCも ゲストもとてもテンションが高く、少し疲れる部分があった。ゲストのコメントは とてもよかった。また、グルメリポートでアナウンサーがリポーターを上手にフォ ローしていて、逆によい印象を持った。ただ、リポーターは「おいしい」だけでは なく、もう少し語彙があるとよいと思う。稲場さんのナレーションはとても気持ち よく聞くことができた。

#### (NHK側)

投票数がプレゼンテーションの順番に反映されることは、視聴者としては

あまり関心がないのではないかという意見があったが、確かにそうかもしれ ない。しかし、応援合戦というか、SNSにおける「いいね」のような感じ で、視聴者に参加してほしいという思いで今回は行った。勝敗によって、番 組の何かが大きく左右されるわけではないが、SNSをやっていない人にも、 リモコンのボタンを押すだけで番組に参加することができ、進行が変化する というおもしろさを感じてほしかった。出演者のテンションについての意見 があったが、データ放送で数千の反応が来て、現場のテンションが上がって しまった。モニターについては、会場がかなり外の光が入る場所であったた め、画面が暗くなってしまった。モニターの見せ方、あるいは会場の設定の しかたについて検討していきたい。また、どちらの紹介をしているのかわか らなくなったという意見があったが、投票数によってプレゼンテーションの 順番が変わることもあり、確かにわかりづらい部分があると思う。どちらの 紹介をしているのか、見てすぐにわかるような演出を探っていきたい。「投 票数が少ない」ことについては、指摘のとおり、インターネットに接続され ているテレビからの投票しか反映されないためだ。テレビをインターネット に接続しているところは少ないので、実際の投票数は数倍あったはずだ。一 応そのことについてはことわりとして、データ放送上でも伝えている。これ を機会にインターネットに接続してくれる人が増えれば、テレビの楽しみ方 も変わっていくと思う。

- 元気な雰囲気でリズム感もよく、大いに楽しんで見ることができた。特に稲場さんはグルメリポートもナレーションも雰囲気がよく、とても魅力的で、番組を楽しくするのに大きく貢献していた。どこかに旅行に行く際には、せっかくだから2か所くらい回りたいという人は多いと思うので、2つの地域を取り上げたのはよかった。また、2つの地域を紹介することで、メリハリのある番組になった。紹介したのが、行こうと思えば行けそうな場所だったのもよかった。ただ、値段の話がさきほどあったが、場所の情報についてももう少し詳しく示したほうがよかった。釧路放送局からのお知らせは、放送局の素顔みたいなものが見えて、放送局と地域の人のつながりが深くなるような感じがした。「穴場ハンター」同様、生放送ならではの空気感に好感を持った。私は今回、リアルタイムで視聴することはできなかったが、土曜日の朝にデータ放送に参加しながら見ると、また違ったおもしろさがあるのだろうと思った。
- 明るく、楽しい番組だった。猪飼雄一アナウンサーと鈴木あきえさんの掛け合い はすっかりなじんでいて、違和感がなかった。立川佳吾さんが人形劇俳優と紹介さ れていたが、肩書自体が何なのかよくわからなかった。会場の正面中央は明るかっ

たが、両サイドが陰になっていた。もう少し照明を工夫する必要があったと思う。 釧路放送局からのお知らせは、手作り感満載で非常に好感が持てた。ただ、途中で 違う音声が入り込んできたのが残念だった。双方向の演出もうまく活用できていて、 番組に参加しているという意識が視聴者も持てる作りになっていた。勝敗が重要で はないとわかっていても、自分の応援する地域に勝ってほしいと誰もが思う。勝敗 に対する配慮はあまり必要ないのではないかと思った。グルメ情報に偏ってしまう のはしかたないと思うが、その地域の歴史や文化、人物についてもスポットを当て てほしかった。

### (NHK側)

場所の情報については、もう少し丁寧に伝えるように検討する。放送局の紹介は来年度も継続し、取り上げるエリアの放送局から情報をお伝えする。また、立川さんの紹介については、確かに知らない人からするとわかりづらかったかもしれない。俳優と人形劇師のどちらも立川さんにとって重要な要素であったため、そこを尊重してお伝えしたが、もう少し丁寧な説明があってもよかった。会場の照明については、構造上明るいところと暗いところが同時に画面に存在してしまい、見づらくなってしまった。中継車内に映像を調整する技術者がいるのだが、それでもフォローしきれない部分があった。会場の選考も含めて検討する。釧路放送局の紹介中に音声が混じったのは、技術的なミスだった。今後は気をつけていきたい。グルメ情報に偏っていたという指摘があったが、多面的に地域の魅力を伝えられるように、リサーチを進めていく。

#### (NHK側)

照明については、必ず事前に色と明るさのチェックをするが、太陽の光は一番強く、時間によって光の強さも位置も変化するので、予測が難しい。それをフォローするために中継車の中で明るさを調整するのだが、それにも限度がある。担当者に意見を伝え、今後どのようにすればよいのか検討していきたい。

#### <放送番組一般について>

○ 3月2日(金)の北海道クローズアップ「誰もが安全に暮らすために~札幌 共同 住宅火災から1か月~」を見た。行き場のない人たちの受け皿となる施設が、民間 任せになっている現状を、インタビュー取材や解説を交えて、わかりやすく伝えていた。放送のタイミングもよく、質の高い番組だった。同じようなバックグラウンドを持つ人たちが、火災で多数死亡する事故が続いているので、このような番組が制作されたことは意義のあることだと思う。十勝の本別町の取り組みが新たな可能性を提示していた。スタジオゲストで社会活動家の湯浅誠さんが問題点などをわかりやすく語っておりよかった。記者が直接解説する部分があったが、もう少し落ち着いて、ボードなどを使いながら丁寧に解説してもらえると、よりスムーズに理解できたと思う。

○ 札幌で起きた共同住宅火災について、その背景はよく理解できたが、解決策をどこに求めているのかがよくわからなかった。本別町の取り組みはとても挑戦的で興味深いが、これを札幌市で行うのは難しいと思う。解決策について、少しスタジオゲストに頼りすぎている感じがした。札幌市保護自立支援課の日高浩晶さんが、「それぞれの行政分野の職員が助言・指導を共有する機会があれば、もしかしたら今回の火災を防ぐ一助となったかもしれない」と言っていた。また、「住んでいる建物や管理している方々の実態については、ケースワーカーの範ちゅう外だ」とも言っていた。この発言の中に解決策のヒントが含まれていたのではないかと思ったので、もう少し掘り下げたほうがよかった。

#### (NHK側)

解決策の方向性については、スタジオできちんと押さえることができていなかったと思う。市の職員のインタビューのとおり、さまざまな分野の人が協力して連携を密にすることができれば、新たな解決策の糸口が見つかったかもしれない。そのあたりをスタジオでうまく説明することができればよかった。

#### (NHK側)

市の職員のインタビューをとおして、行政の人たちが情報共有について問題意識を持っていることをお伝えしたかった。ただ、取材期間の関係もあり、深く掘り下げることはできなかった。また、本別町の取り組みについては、高齢者の住まいの問題と空き家をどうするのかという地方の問題を解決する施策として始まった。指摘のように、札幌市のような大都市ではすぐそのまま活用できる事例ではないかもしれない。しかし、生活困窮者の住まいの安全の一助にもなりうるのではないかと思い番組で提示した。

○ 火災が起こってから1か月というタイミングで番組を制作し、ただの火災事故と

して風化しかねない問題にスポットを当てたのは意義のあることだと思う。亡くなった人の写真やその人にまつわる品をスタジオに置き、冒頭に紹介したことで、一人一人の人生が自然と伝わってきた。番組に引き込まれる、とてもすばらしい演出だった。入居者それぞれの事情を説明し、だれにでも起こりうることだと丁寧に伝えようとしていることに好感を持った。また、貧困問題の専門家である湯浅さんがスタジオゲストとして出演したことで、番組に説得力が出ていた。湯浅さんの「暮らすとはどういうことか」という話がとても印象に残った。取材をした記者もコメンテーターとして参加していて、制作側の問題意識の強さが伝わってきた。糸井羊司アナウンサーも冒頭で「現場に行った」と話しており、番組のテーマに対して誠実に向き合っているのが伝わってきて好感を持った。

- 私の周りでは、このような施設に入る人は、生活に困窮しているだけでなく、身 寄りがないというのが一番の特徴だった。保証人をつけることができず、一般のア パートに入れない人が多い。そのため、番組でそのような話題が出てこなかったこ とに疑問を感じた。 3万6,000円という家賃は意外に高いと感じる人が多かったと 思うので、なぜそこに住むことになったのかということをもう少し伝えてほしかっ た。本別町の話は最初飛躍した内容だと思ったが、広い意味でそのような施策が有 効になるだろうと思い、関心を持って見た。社会福祉協議会の職員が定期的に家を 回るという制度にしているのも意欲的な取り組みだと思った。
- 今回の事故の負の副産物として、高齢者が家を借りにくくなるのではないかと思った。これは、生活困窮者の問題であると同時に、高齢化社会にどう向き合うべきかという問題でもあると思った。高齢者の介護というのはとても大変だ。行政にしろ、民間企業にしろ、高齢者への対応は思い通りにいかなくて難しいと思う。これ以上どうにもならなかったという部分もあるかもしれない。そのような視点も番組に必要だったのではないかと思う。

#### (NHK側)

亡くなった11人がどのような人だったのかを自然に伝える方法はないかと考え、あのような演出にした。保証人の話については、確かに保証人がいないために共同住宅に集まってくるという現状があるので、もう少し詳しく伝えることができたらよかった。

○ スタジオに犠牲者のゆかりのものを置き、それぞれの人生について冒頭で触れていたことはとてもよかった。スタジオゲストの湯浅さんの解説がわかりやすく、印象的だった。タイトルについて、「誰もが安全に暮らすために」となっていたが、で

きれば「安心」して、さらに言えば「自分らしく」生きていけるように、これから も取材を続けてほしい。記者の解説はたどたどしい部分もあったが、きりっとした 目線が印象的で、番組への真剣な思いが伝わってきた。

○ オープニングの演出は、改めてそこに一人一人の暮らしがあったということを感じさせてよかった。全体として、今回の共同住宅火災から見えてくるさまざまな社会的なひずみをうまく整理して、問題提起できていた。火災から助かった人の証言をいちいちイメージビデオにしていたが、証言そのものが非常にリアルだったので、中途半端なイメージ映像は必要なかったのではないかと思う。番組の中で、「今回の火災は良心的な施設で起こった」という発言があったが、良心的ではない施設というのがどういうものなのか疑問に思った。記者の真剣さは伝わってきたが、表情にもう少し柔らかさがあればよかった。

### (NHK側)

指摘のとおり、発言がリアルであればあるほど、イメージ映像は多用すべきではないと思う。イメージ映像を使いながら、必要な部分は肉声をしっかりと聞かせるようにした。意見は今後の参考にさせていただく。スタジオゲストの「良心的な施設」という発言についてだが、高齢者に住んでもらって介護点数をもらい、そこで違法なことをやっているところもある。そのような現場と比べて「良心的な施設」という表現をしたのだと思う。しかし、視聴者には唐突な感じもしたと思うので、発言の後で何かしらフォローできればよかった。

○ 2月3日(土)に放送した、ETV特集「長すぎた入院」を見た。原発事故で病院 にいられなくなったことをきっかけに、そもそも入院治療が必要なかったことが判 明するなど、衝撃的な内容だった。長年、国連やWHOなどから勧告を受けている にもかかわらず、このような深刻な人権侵害が日本で行われていることにショック を受けた。日本の精神科病院の問題、ひいては日本社会の構造の問題に切り込んで おり、とても考えさせられた。ぜひ多くの人に見てもらいたい。

3月4日(日)と11日(日)に放送した、「プレミアムドラマ 弟の夫(1)(2)」を見た。LGBTをテーマにしたドラマだったが、現代的な問題意識とほのぼのとした世界観を両立させており、NHKがドラマを制作する意義を感じさせてくれる作品だった。このようなチャレンジングなドラマは、多くの人に見てもらえるよう、総合テレビで放送してほしいと思った。マイク役に把瑠都さんを起用したことは驚きだったが、とても合っていて、見事な配役だと思った。最終回も楽しみにしている。

### (NHK側)

総合テレビでも、「ドラマ10 女子的生活」というLGBTをテーマに したドラマを1月に放送した。

- 東日本大震災の関連について、3月6日(火)のアナザーストーリーズ 運命の分岐点「外国人から見た3.11~あの時 世界はどう動いたか?~」を見た。涙を誘うだけの内容ではなく、反省点などをしっかりと伝えていた。ほかの国で大災害があったときに日本は何ができるだろうと考えさせられた。とてもよい番組だった。また、3月11日(日)の総合テレビの新聞のテレビ欄について、たてに読むと「東北が大好き!」「あの日をわすれないよ」となっており、非常によかった。
- 3月7日(水)に放送した、NHKスペシャル「被曝(ばく)の森2018~見えてきた"汚染循環"~」(総合後10:25~11:15)と、3月10日(土)のNHKスペシャル「誰にも言えなかった~震災の心の傷 母と子の対話~」を見た。東日本大震災から時間がたつことで見えてきた問題を丁寧にたどっていて、震災がもたらした被害状況のいまを伝える優れた番組だった。これらの番組を見て、北海道に避難した被災者たちが今どうしているのかということが気になった。3月12日(月)の「ほっとニュース北海道」でそのことについて伝えており、時間が経過した今、避難者がどのような支援を求めているのかがわかった。

また「ほっとニュース北海道」で、「ストップ暴風雪被害」というテーマで、多角的に暴風雪の注意点を紹介しており印象に残っている。特に3月1日(木)に、防災に関する情報について、テレビ・ラジオ以外にもデータ放送やインターネット、防災アプリで発信していることを伝えており、非常によかった。

### (NHK側)

「ストップ暴風雪被害」は、5年前に9人が亡くなる被害が出たのを機に、毎年冬に行っている取り組みだ。特に今回は5年前に被害があったのと同じ日に同じような状況となる恐れがあった。そのため、今回は1人も死者が出ないように、前日からしっかりと報道に努めた。

震災については、北海道内の人々にも支援の状況などを伝えてきた。この 大震災の教訓をどのように生かしていくかということは、北海道にとっても 重要なことだと思うので、今後も取材を続けていきたい。

○ 3月1日(木)の「ニュースウオッチ9」の途中で、突然「北海道のニュース」が 入ってきた。暴風雪に関する内容だったが、とても緊迫感が伝わってきて、非常に よかった。これを見て、なるべく外出しないほうがよいのだと思った。全国のニュースの最中であっても、必要性があれば北海道から情報を伝えることはよいことだと思った。それだけに、苫小牧市の林道で立往生したNHKの記者が救助を要請し、助けにきたロードサービスの職員が死亡したことは、非常に残念だった。この経験を忘れず、よりよい番組づくりに努めてほしい。

○ 十勝で大雪や季節外れの大雨があり、非常に混乱していて、日常生活に大きな影響があった。ひどく渋滞していて、帰宅に長時間を要したと聞く。なかには帰れない人もいたということだ。不要不急な外出をしないというのはもちろんだが、外出を免れない人もいると思う。視聴者意向の中に「携帯電話などを充電するためにコンセントに人が集まっていたという情報が役立った」とあるが、このような具体的な情報があるとよいと思った。

### (NHK側)

確かに、渋滞など具体的な情報をもっときめ細かく伝えるべきだったと思う。被害があればそちらを優先するが、ライフラインについても高いニーズがあることは強く認識している。引き続き心がけていきたい。

○ 3月7日(水)の「ほっとニュース北海道」で、北見市のテレワーク活用の取り組みについて伝えていた。テレワーク専用のオフィスを紹介したり、学生の生の声を伝えたりすることで、具体的に取り組みについて知ることができた。今後このような取り組みが発展していけばよいと思う。

### (NHK側)

「縮小社会に生きる」というテーマの企画の1つとして紹介した。うまくいかない現状という暗い企画が多い中で、前向きな将来性のある取り組みとして取り上げた。実際に定着するかどうかは今後にかかっていると思うので、推移に注目していきたい。

- ピョンチャンオリンピックの放送について、高身長なアナウンサーが出ており、 他の出演者と一緒に映ったときに身長差が気になった。出演者の画面上のバランス についても、演出的な工夫をするとよいと思う。
- 苫小牧支局の記者の件についてだが、3月2日(金)のNHKのニュースの中で、「シカ撃ちに行っていた」ということが報道されていなかったように思う。また、 私は朝の6時と7時台の全国放送のニュースしか見ていないが、このニュースの最

後の部分で「最初に動けなくなった車の男性は、NHK苫小牧支局の記者で」という表現があった。私はそれを聞いて、同じように動けなくなった車が後続にもいたのだという印象を受けた。ニュース全体としては状況を正しく伝えていたと思うが、誤解を生まない工夫をしてほしい。

# (NHK側)

NHKとしては、その時点でできうる最善の伝え方をしたと思っている。 記者の外出理由がシカ撃ちということは、その時点では把握できていなかっ た。

> NHK札幌放送局 番組審議会事務局

### 平成30年2月NHK北海道地方放送番組審議会

2月のNHK北海道地方放送番組審議会は、21日(水)、NHK札幌放送局において、 9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず「平成30年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について報告があった。次に、「平成30年度北海道地方向け地域放送番組編集計画(案)」の諮問の説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。続いて、放送番組一般について、活発に意見の交換を行った。最後に、3月の番組編成、放送番組モニター報告と視聴者意向報告の説明が行われ、会議を終了した。

## (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

副委員長 豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

委 員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

嘉指 博行 (北海道新聞社論説委員)

齋藤 拓也 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村木 秀雄 (いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポートステーション総括コーテ゛ィネーター)

山下 徹也 ((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)

### (主な発言)

- <「平成30年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について>
- 総合テレビの金曜日午後8時台の定時番組が「チコちゃんに叱られる!」になっているが、今年度と同じように随時ローカル番組を放送できるのか。

# (NHK側)

来年度も今年度と基本方針は変わらない。必要があれば「チコちゃんに叱られる!」を休止して、ローカル番組を編成する。

○ 「平成30年度国内放送番組編集の基本計画」の編集の重点事項の6項目目に「地域放送・サービスを充実・強化し、地域社会に貢献」と挙げられている。北海道地

方では金曜日午後7時半から「北海道クローズアップ」を放送しているが、それだけでは時間が足りないテーマもあると思う。来年度も北海道の人々に考えてもらうべきことがたくさんあると思うので、地域の情報を発信できる時間を多く取ってほしい。

○ ネット連動の番組がとても増えているように感じた。現在がどのようになっているのかきちんと把握していないが、意識的にインターネットに連動した番組を編成しているのか教えてほしい。

### (NHK側)

NHKの視聴者は高齢者が多い。それはとてもありがたいことだが、30代から50代の現役世代の人々にもできるだけNHKを見てほしいと考えている。その世代は、テレビよりもインターネットのほうに親しみを持っている人たちが多いので、できるだけインターネットで話題になった番組を再放送していこうと思っている。来年度に総合テレビで新設する「NETBUZZ」という番組では、インターネットで話題になった番組を戦略的に再放送することにしている。EテレやBS1などにおいても、インターネットに親しんでいる人たちに見ていただけるように工夫していきたい。また、ラジオはインターネットとの親和性が非常に高い。現在インターネットでのラジオ配信を行っているが、それに加えてインターネットで反響のある番組をできるだけ強化していきたいと思っている。インターネットあるいは4K・8Kなどの新しい技術を取り込んで、2020年に「最高水準の放送・サービス」の実現を目指す。

# <「平成30年度北海道地方向け地域放送番組編集計画(案)」について>

○ まず、「北海道 150 年」についてだが、キャッチコピーとしてはよいが、あくまでも「北海道」という名前になってから 150 年ということで、それ以前からアイヌの人々が生活していたことを忘れないでほしい。NHKはこれまでもアイヌのすばらしい文化などを紹介しているので大丈夫だとは思うが、150 年前から北海道が始まったのではなく、その前からずっと文化が続いており、「北海道」という名前がついてから 150 年ということだ。視聴者が「150 年より前は何もなかった」と誤解することがないよう、さまざまな形で北海道の歴史を取り上げるとともに番組制作の際には注意してほしい。

函館放送局の重点事項で防災についての項目があったが、今年は函館で雪がとて も多かった。しかし、除雪についての情報を得ることがとても難しい。限られた人 員で大変だとは思うが、除雪についての情報をNHKで発信してほしい。

最後に、さきほど金曜日の午後8時台にローカルの番組を随時放送してほしいとお願いしたが、北海道内の各放送局の情報発信も減ってきているのではないかと感じている。もちろん札幌からの全道的な情報も必要だが、「地域に貢献する」ということであれば、道内のそれぞれの地域の情報もきちんと伝えることが重要だと思う。

### (NHK側)

アイヌの人々にとっての150年についても伝えたいと考えている。

### (NHK側)

「北海道」と命名されてからの150年だけでなく、150年よりも前から脈々と続いている文化や歴史を踏まえた上で番組を制作したいと考えている。

○ 2つ要望がある。1つ目は、農業災害についてだ。平成28年に十勝を中心に大きな被害があった。現在、土地の形は元に戻ったようになっているが、どのような影響があるのか、いま一度伝えてほしい。

2つ目は、水田についてだ。北海道は今、新潟に次いで全国第2位の水田面積を 有している。北海道で水田に携わる人は、全国第1位となることを目指している。 ここ10年ほどで全国的に認知されるような水田地帯となってきたので、機会があ ればぜひ取り上げてほしい。

○ 釧路放送局の3つ目の重点事項で、「ウィンタースポーツを応援します」と掲げていたのはとてもよいと思う。しかし、あまり頻繁にテレビで放送されないスポーツ同士で視聴の機会を奪い合うことがないように配慮してほしい。

### (NHK側)

マイナースポーツ同士で視聴機会を奪い合うことがないようにとのこと だったが、複数番組を同時放送できるマルチ編成を実施することで、画質は 少し落ちるが、2つの番組を同時に放送することが可能だ。このような手段 を用いながら、編成については気をつけていきたい。

○ 「平成30年度北海道地方向け地域放送番組編集計画(案)」の基本方針で、災害や緊急報道の手段の一つとして、インターネットを活用すると掲げているが、例えば現在はテレビ、ラジオ、データ放送とどのように差異化してインターネットを活用しているのか教えてほしい。また、さらに力を入れていくとすれば、どのようにしてインターネットの利点を生かしていくのかを知りたい。

### (NHK側)

すでに実施していることだが、災害時のニュース原稿は、放送したものを すべてデータ放送とインターネットにアップロードしている。避難する時は テレビを見ることはできない。ラジオを持っている人もそれほど多くはない。 そうなると、スマートフォンで情報を確認する人が多いと思うので、意識し てできるだけ多くの情報をインターネットでも発信するようにしている。引 き続き、強化していきたい。

### (NHK側)

また、テレビだとリアルタイムで放送しているものにしかアクセスできないが、データ放送やインターネットで情報を提供することで、いつでも能動的に情報を得ることができる。

○ スマートフォンで情報を得る人が多いとすると、NHKがどのように情報を提供 しているのかをもっと日常的に周知するべきだと思う。

### (NHK側)

NHKでは、「NHKニュース・防災アプリ」を提供している。これまでもホームページなどで周知を行い、少しずつ見てくれる人が増えてきた。このアプリを活用して、さまざまな情報を伝えていこうと考えている。テレビでは自分の知りたい情報がなかなか出てこないこともあるかもしれないが、アプリでは知りたいところだけを見ることができる。スマートフォンで見ることができるので、持ち運びも容易だ。今後もこの「NHKニュース・防災アプリ」に力を入れていきたい。指摘のとおり、もっと多くの人に知ってもらえるように、周知も続けていきたいと思う。

#### (NHK側)

災害時にはニュースを放送する合間に、インターネット上でどのように災害情報を見ればよいのかを説明する映像を断続的に放送している。指摘を踏まえて、日常的にその映像を放送するかどうか検討する。

○ 「平成30年度北海道地方向け地域放送番組編集計画(案)」の各局の重点事項で、 緊急報道などは全く同じだが、函館放送局であれば北海道新幹線、釧路放送局であ れば北方領土問題など、地域性があってよかった。NHKのあるべき意味は、地域 に根ざしたということだと思うので、今後も地域に目を向けた番組を制作してほし い。

○ 諮問された「平成30年度北海道地方向け地域放送番組編集計画(案)」については、各委員の意見の趣旨が番組編成に生かされることを前提に、原案を可とする答申をしたい。

### ○ 異議なし。

### (NHK側)

答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、3 月の審議会で編成計画についてご説明したい。

### <放送番組一般について>

 $\bigcirc$ 1月19日(金) 北海道クローズアップ「若者大流出~空前の"売り手市場"の 陰で~」を興味深く見た。北海道庁の採用内定者の6割が内定を辞退するという話 があって驚いた。全体として、流出している人数や大企業の動きがよくわかってよ かった。人材紹介会社が非常に手厚いサポートで東京に人材を誘致しており、なか なか対応が難しい問題だと思った。「赤平市はそもそも若者がいないので、流出の実 感がない」というスタジオゲストの発言は番組の流れとずれているように感じた。 「安心安定を求める心理があると、力のある企業が多い大都会に人が流れてしまう」 と解説していたが、北海道庁は安定感のある勤め先であるにもかかわらず、なぜ多 くの人が内定を辞退するのか疑問に感じた。冒頭で北海道庁の内定辞退者の話を伝 えるのであれば、もっとその理由について掘り下げるべきだと思った。また、スタ ジオゲストの鈴井貴之さんが、人材紹介会社が紹介した会社に就職することについ て、「やりたい職種の企業に勤められるかもしれないが、やりたい仕事ができるかは わからない」「入ってからどれぐらい大変な思いをするのかわからない」と言ってお り、そのとおりだと思った。実際に就職した人がどのような状況なのかを伝えなけ れば、人材紹介会社の宣伝のようになってしまうのではないかと思った。

#### (NHK側)

番組に興味を持ってもらうために、北海道庁の内定辞退者が6割という話を紹介した。しかし、北海道庁を受けている人の中には、民間企業や国家公務員を受けている人もおり、そちらに就職する人も多くいる。そのため今回

はこの話題を掘り下げると番組の趣旨からそれる可能性があった。指摘のとおり、人材紹介会社を介して就職した人の実態について掘り下げるというアプローチもあったと思う。ただ、今回は人材紹介会社の取り組みによって道外に若者が流出しているという実情を伝えたかった。私たちも企業宣伝になってしまわないか心配していた。しかし、スタジオゲストの鈴井さんが人材紹介会社の取り組みについて問題提起をしてくれたので、番組全体としてバランスを取ることができたと思う。意見は今後の参考にさせていただく。

- 地方に限らず人材不足という中で、「若者大流出」というテーマはとても興味深かった。北海道庁の内定を6割が辞退することを知り、大変だと思った。しかし、このキャッチーな話題を伝えた理由が番組に興味を持ってもらうためであるなら、インパクトが強すぎたと思う。そこを掘り下げて今回の課題に到達できるのであればよいが、そうでないなら伝えるべきではなかったかもしれない。放送番組モニターの報告で好評度が低いのも、焦点が定まっていなかったからではないかと思った。道外の人が就職を希望するような魅力的な企業や自治体があると思うので、そちらの取り組みを取り上げたほうがよかったのではないか。テーマを明確にして、今後も若者流出についての取材を続けてほしい。
- 北海道庁の内定辞退者の話だが、北海道庁もある程度の内定辞退者が出ることは 想定していると思う。例えば、例年の内定辞退者が1割であるのに対して6割に増 えたということであれば驚くべきことだが、5割が6割になったということであれ ばそんなに驚くことではない。数字を示す時には基準がどのようになっているかを きちんと伝えて、誤解を招くことがないように気をつけなければならないと思う。
- 人材紹介会社の話は興味深く、こんなに丁寧な対応をしている企業があるのかと 驚いた。若者が都会に出て行く話と田舎で移住者を集める話は、全体的にかみ合っ ていない印象を受けた。また個人的には、若いうちに都会に出ることは必要なこと だと思う。一度都会に出てから地元に戻ってくる人も多くいるはずだ。都会に出た ほうが必要なスキルを身につけられるという側面もある。

### (NHK側)

指摘のとおり、数字の使い方については気をつけていきたい。数字が1人歩きすることのないように、客観的に情報を打ち込むことが必要だったかもしれない。

○ 北海道庁の内定を6割が辞退するという話が北海道知事の映像とともに紹介され

たので、北海道庁に何か問題があるのかという印象を一瞬受けた。また、若者が東京に行く理由はほかにもあると思う。若い人の心を捉えきれていない北海道の企業にもまだまだ課題がある。どのようにすれば人材紹介会社の手厚い対応に負けずに、北海道の企業に目を向けてもらえるのかという視点も興味深いと思う。

○ 年間3万人もの若者が道外へ流出し、北海道庁の内定を6割が辞退するという事実はとても衝撃的で、冒頭から興味を持って番組を見ることができた。人材紹介会社が就職に向けた教育やセミナーの費用および東京での滞在費を全て負担していたが、それを可能にする仕組みを番組の中で明らかにすべきだと思った。おそらく採用が決まった会社から人材紹介会社にお金が支払われているのではないかと思うが、外堀を埋められた若者が本音を言うのは難しい。本当に希望している職に就けているのか疑問に思った。スタジオゲストの鈴井さんは若い世代に人気のあるタレントであると同時に会社経営者であり、発言に説得力があってよかった。スタジオゲストが2人だったが、カメラアングルによって姿が重なってしまうことがあったので工夫が必要だと思った。

### (NHK側)

人材紹介会社の取り組みを可能にする仕組みを明らかにすべきという意見は、確かにそのとおりだと思った。仕組みとしては、人材の欲しい企業が資金を提供し、それによって必要な費用が賄われているということだ。視聴者が知りたい情報を提供できるよう、今後も考えていきたい。

○ 北海道庁内定者の6割が辞退という話題を伝えた理由を聞き、とても残念に思った。番組とあまりかみ合わない情報を興味を引くためだけに冒頭で紹介し、詳しく説明もしないのは少し無責任だと思う。その話題についてしっかりと説明できない、あるいは紹介する理由づけができないのであれば、それは番組の中で伝えるべきではないと感じた。放送番組モニターの報告でも、「北海道庁の内定辞退者の話題についてもっと掘り下げてほしかった」という意見がある。

1点聞きたいことがある。人材紹介会社の取り組みについて、スタジオゲストの 鈴井さんが少し批判的なコメントや疑問を提示していたが、これは事前に打ち合わ せし、このような趣旨の発言をしてほしいとお願いしているのか。

#### (NHK側)

事前の打ち合わせはもちろん行っており、スタジオゲストに発言の内容を 指示することはないが、どのような発言をするつもりなのか確認はしている。 ○ では、鈴井さんが批判的なコメントをしなければ、人材紹介会社に対する問題提起なく番組が終わる可能性もあったのではないか。スタジオゲストの発言だけでなく、キャスターが人材紹介会社の成り立つ仕組みや就職後のミスマッチや苦労について伝え、番組としての姿勢を示すべきだったと思う。そうでなければ、企業宣伝になってしまいかねないと感じた。

### (NHK側)

今回はスタジオゲストが言っていることも含めて、番組全体としてバランスが取れているかどうかということを考えた。意見は今後の参考にさせていただく。

○ スタジオゲストが人材紹介会社の取り組みについて問題提起はしていたが、番組としてその問題を掘り下げてはいなかった。疑問を呈するだけでは解決にはならない。その問題について言及しないまま話題が変わってしまったので、もやもやした気持ちが残った。また、流出というよりもそもそも若者がいないという話について、機会があれば都会に出て行きたいという人もいれば、地元で働きたいがなかなか仕事に就けないという人もいる。そこの違いが明確になっていなかった。

### (NHK側)

番組放送後に放送番組モニターの報告も参考にしながら、番組について議論した。その中で、若者が道外に流出しているという問題に対して、具体的にどのような解決案があるのかを提示できればよかったという話になった。全国から人材が集まってくるような魅力的な北海道の会社を紹介することもできたと思う。また、負の側面の話ばかりになってしまったのも少しよくなかったかもしれない。指摘のあった北海道庁の内定辞退者の話について、興味を向けてほしいという意図で紹介し、消化しきれないまま次の話題に移ってしまったことについては重く受け止めている。

### (NHK側)

内定辞退者の割合は例年多いが、年々増加傾向にあることも事実だ。その 全員が大都市圏に流出している訳ではないと思うので、さまざまな理由があ るということは伝えたほうが公平だったかもしれない。今後の参考にさせて いただく。

○ もう少し深刻に意見を受け止めるべきだと思う。番組が成り立たなかった可能性 もあるのではないだろうか。この番組を見て人材紹介会社をよいと思って利用した 人から、苦情がくることもあるかもしれない。その際にスタジオゲストが批判的な コメントをしていたことは番組として問題提起していたことにはならないと思う。

2月2日(金)の北海道クローズアップ「輝け!"どさんこアスリート"」を見た。この番組のおかげで、とても興味を持ってピョンチャンオリンピックを見ることができた。まず、スキージャンプの伊藤有希選手がとてもすばらしい人だった。ピョンチャンオリンピックでは納得のいかない結果になってしまったが、ひと言も弁解しなかった。さらに、髙梨沙羅選手がメダルを取った時には、一番に駆け寄っていき喜んでいたのが印象的だった。また、岡部孝信さんの解説がとてもよかった。伊藤選手のきれいな飛型が子どものころに慣れ親しんでいたジャンプ台が少し変わった形だったために生み出されたという話がとてもよかった。岡部さんの紹介が「実業団スキー部コーチ」となっていたと思うが、企業名を出してはいけないのか疑問に思った。企業名も情報としてあってもよいのではないかと思った。スピードスケートのパシュートという種目についてよくわかっていなかったが、スタジオゲストの三宮恵利子さんの解説がとてもわかりやすく、よく理解できた。しかし、髙木菜那選手と髙木美帆選手の姉妹について、菜那選手が体全体を鍛えることや美帆選手が理想のフォームを追求したことで、何がよくなったのかということを知りたかった。

〇 ピョンチャンオリンピックに出場する 124 人の選手のうち、6 5人が北海道にゆかりがあるということで驚いた。また、環境や施設が整っていることが重要なのだと思った。伊藤選手の地元である下川町の中継があった。旭川放送局のキャスターが現地のリポートをしていたが、スタジオとのやりとりがうまくいっていなかった。新人なのかもしれないが、少し気になった。

### (NHK側)

岡部さんの肩書については、どのように紹介するかとても悩んだ。今回のスタジオゲストは2人で、どちらも企業に所属していた。しかし、三宮さんについては「スピードスケート解説者」ということで情報が十分だと考えたので、岡部さんだけに企業名を出すことはバランスが悪いと思い「実業団スキー部コーチ」とした。肩書についてはいつも神経を使う部分であるが、単純に所属を示すために企業名を出すことはNHKでも日常的に行われている。ただ今回は2人の紹介のバランスを考えて企業名はお伝えしなかった。指摘のとおり、どこに所属しているかということは、時と場合によっては必要な情報になると思うので、今後も紹介の仕方については気をつけていきたい。下川町の中継については、少しうまくいかなかった。事前のリハーサルではうまくいっていたのだが、マイナス20度という状況で、寒くて口が回

らなかったという事情もあった。リポーターは1年目の新人で、札幌のスタジオからどんどん質問が入ってくるなど、少し難しいリポートだったかもしれない。

### (NHK側)

道内ではアナウンサー以外に、契約キャスター・リポーターを複数採用しており、身近な情報発信に努めている。契約キャスター・リポーターの育成も当然私たちの重要な責務と考えているので、引き続きしつかりと指導していきたい。

○ ピョンチャンオリンピックの代表選手の中に、北海道とゆかりのある選手がとても多いことに驚いた。番組の構成として、2つの競技に焦点が絞られていた。限られた時間の中でよくまとめられていたと思うが、個人的には駆け足になってもよいので、すべての競技について紹介してほしかった。その方が、ピョンチャンオリンピックの視聴にもよりつながったのではないかと思う。また、メダルへの期待が大きい注目選手については全国放送にまかせて、地域の放送局として全国放送であまり取り上げられないような地元の選手の情報を伝えてほしかった。下川町の中継について、必ずしも地域に行くことが地域の人々に寄り添うということにはならないと思うので、今回は必要なかったのではないかと思う。番組の放送のタイミングは、とてもよかった。

#### (NHK側)

もっと多くの競技を取り上げてほしかったということだが、番組の中で北海道の地図に北海道とゆかりのある選手を全員、顔写真つきで載せた。地図にまとめることで地域ごとの特殊性のようなものも示すことができたと思う。時間の関係もあり、全員を丁寧に紹介することはできなかったが、なるべく多くの選手の顔を見てほしいという意図があった。番組の最後ではテーマソングに合わせて、多くの選手を紹介した。しかし、今回はスタジオゲストとの兼ね合いもあり、スキージャンプとスピードスケートに話題を絞った。意見は今後の参考にさせていただく。

- オリンピックの代表選手になるようなアスリートが育つ町と育たない町の違いという視点の番組もおもしろいと思う。
- 2月4日(日) 目撃! にっぽん「滅びゆく命のバトン〜札幌・円山動物園 本田直 也〜」は、11月3日(金)に放送した、北海道クローズアップ「滅びゆく命のバト

ン〜は虫類 動物専門員 本田直也〜」と同じテーマだった。昨年11月の番組審議会で、「北海道クローズアップ」について、兄だけでなく両親の思いについても知りたいと伝えていたが、この番組でも触れられていなかったのは残念だった。

○ 本田直也さんがとてもおもしろい人だと改めて思った。「北海道クローズアップ」 に対する意見で、帽子が空を飛んでいるシーンについて、よく理解できなかったと いう意見が多くあったが、「目撃!にっぽん」でもそのシーンが生き残っていて驚い た。番組全体はとてもよかった。本田さんの魅力はとてもよくわかったので、次の 機会があれば繁殖についてより詳しく知りたいと思った。

### (NHK側)

帽子のシーンについては議論したが、子ども時代の本田さんを紹介するきっかけとして今回も使用した。子どもの遊び声を加え、コメントを変更するなど、11月の番組審議会での意見を踏まえて工夫した。さらに、番組審議会での意見を参考に、タイトルに「円山動物園」と加えた。

○ 1月20日(土)北海道LOVEテレビ 地方発 ドキュメンタリー「ロージナ(ふるさと) ~北方領土 色丹島のロシア人~」(総合 前 10:06~10:49 北海道ブロック)と地方発 ドキュメンタリー「ツルとともに生きる」(総合 前 10:55~11:38 北海道ブロック)を見た。これらは過去のアーカイブスから選んで再び放送した番組だが、内容が濃く、ふだんなかなか知ることができないことをしっかりと伝えていて、見応えがあった。昔のよい番組を再び放送するのはよい試みだと思う。しかし、せっかく放送するのであれば、再放送する意義を説明できればよかった。現在どのような状況にあるのかなどの情報を加えて、過去と現在を伝えられれば、よりよい取り組みになったと思う。同じように過去のアーカイブスからセレクションした番組を放送している「プレミアムカフェ」という番組では、スタジオゲストとキャスターがその番組について話をする構成になっている。そうすることで、番組への理解がより深まると思う。

### (NHK側)

「北海道LOVEテレビ」の取り組みについてだが、編成担当者が知恵を 絞ってラインナップを決めている。指摘のとおり、番組を編成した意図を示 すような枠づけがあったほうがよいと思うので、新年度に向けてどのような ことができるか検討していきたい。

○ 1月21日(日)のNHKスペシャル「光と影 ふたりのダンサー〜紅白 舞台裏

のドラマ〜」は、非常によい番組で感動した。しかし、タイトルに「光と影」とうたい、それぞれを辻本知彦さん、大前光市さんとするのであれば、この2人が歩んだ人生を同列に扱うべきだったのではないかと思った。

12月31日(日)に放送した、第68回NHK紅白歌合戦「夢を歌おう」で、けん玉のギネス記録に挑むという演出があったが、あの演出にはがっかりした。一方で、平井堅さんが歌っている横で踊っていた大前さんの姿は非常に感動的で、多くの人が勇気づけられたと思う。

○ 1月24日(水) 時論公論「"オウム"は今」について、短い時間の中でポイントをよく押さえた番組だった。「ほっとニュース北海道」でもオウム真理教について取り上げていたが、事件のことを知らない若い人も増えてきているので、事件の教訓を北海道の視点からも伝えてほしいと思った。

### (NHK側)

「ほっとニュース北海道」で、オウム真理教から名前を変えた「アレフ」の勧誘活動についてお伝えした。これは記者が書店の宗教コーナーに若い人がいると勧誘されるという情報を得て、みずから宗教コーナーで待ち、声をかけられたところから取材が始まった。「アレフ」は現在広報部門がないので、取材をするのが難しいというのが現状だ。引き続き取材を続けていきたい。

- 1月26日(金) 北海道中ひざくりげ「"鉄路"のあとに宝あり~旧標津線沿線~」を見た。「北海道中ひざくりげ」ではSLが取り上げられることが多いが、今回は電動化して誰でも動かせるということで、動く仕組みについてもきちんと説明していたのがよかった。旅人の木花牧雄アナウンサーが常に笑顔で、顔を見ているだけでその場所に行ってみたいと思わせてくれて、とてもよかった。
- 1月27日(土) ニッポン印象派「いのちの海」(BSプレミアム 後 11:00~11:29) について、美術が好きだったので、「印象派」という言葉に興味を持ち番組を見た。正直に言うと、私の期待していた番組とは違っていて残念に思った。「印象派」というのであれば、空間と時間による光の質の変化や、季節による色彩の変化を強調したほうがよかった。さらに科学的な分析のようなものがあれば、今までの知床の番組とは全く違う視点の番組ができたのではないかと思う。初めて見た人は感動したかもしれないが、知床のシャチの番組を何度も見ている私にとっては、見たことのある映像ばかりで新鮮みに欠けた。そのため、時間がとても長く感じた。「命の躍動」「自由」などスケールの大きい言葉で語られていたが、今まで見たことのある映像

を言葉に貼り合わせたような印象を受けた。言葉のスケールと映像、ナレーションのトーンがミスマッチだと思った。人間が受ける印象に作用する自然の要素や色彩の性格など新しい発見があると、もっと心を弾ませる番組になったと思う。また、最後のエンドロールが流氷の白と重なって非常に見づらかった。

### (NHK側)

今までの知床のシャチ関連の番組と、どのようにテイストを変えるのか非常に悩んだ。始まってまもない番組なので、どのようにしていくのか試行錯誤している。北海道には自然の絶景が多くあるので、引き続き「ニッポン印象派」でどのようなことができるのか考えていきたい。

○ 1月29日(月) プロフェッショナル 仕事の流儀「ワンちゃんスペシャル」(総合 後7:30~8:42.45)は、とてもおもしろく見応えのある番組だった。犬に関わるプロフェッショナルとして3人が紹介されていたが、多すぎたのではないかと思う。最後に出てきた訓練士の中村信哉さんの話がとても感動的で、もっと中村さんの活動や信念について知りたいと思った。中村さんが「犬そのものは変化していない。犬に対する概念と飼い方が変化したのだ」と言っていたが、そのとおりだと思った。人間のエゴによって犬の立場が悪化していることを別の番組で取り上げてもよいのではないかと思った。「プロフェッショナル」は人間の仕事を取り上げる番組だが、犬は人間にとって身近な存在なので、介護犬など犬の「プロフェッショナル」というのもおもしろいと思う。

#### (NHK側)

昨年の2月13日(月)に放送した、プロフェッショナル 仕事の流儀 特別企画「ただ、ひたすら前へ~競走馬・オグリキャップ~」が馬を主役とした「プロフェッショナル」だった。

- 2月5日(月)から9日(金)まで「ゴー!ゴー!キッチン戦隊クックルン」で北海 道が舞台となっていた。教育番組で地域のことを取り上げるのは、子どもにとって も親にとってもよいと思う。
- 2月9日(金) ピョンチャンオリンピック「開会式」(総合 後 7:30~10:17)で気になったことがある。子どもたちが参加したパフォーマンスの時に、「韓国が外国からの侵略など苦難にさらされてきた」という発言があった。わざわざ侵略の歴史に触れたのであれば、日本が韓国を併合したということにも言及したらよかったのではないかと思った。韓国併合について知らない若い人も多いと思うので、知るきっか

けとなったのではないかと思う。

○ ピョンチャンオリンピックについて、髙木美帆選手が「スピードスケート 女子 1500m」で銀メダルを取ったことを、NHKのニュースで「金メダルに0.2秒及 ばず」という言い方をしていた。髙木選手としては悔しかったかもしれないが、銀 メダルもすごいことで、あの時点ではオリンピックにおける日本のスピードスケート女子の個人種目の中で最高のメダルであったのだから、もう少し前向きな言い方 をしたらよいのではないかと思った。アスリートに対しても失礼だと思う。

### (なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた)

- 「ピョンチャンオリンピック」について、メダルに届かなかった選手について も、もう少し取り上げてほしかった。
- 2月10日(土)に、フランスでの北海道の日本酒の市場調査について報道された。 私はその現場にいたのだが、報道がとても早くて驚いた。現地にはNHKの記者は いなかったのだが、そのような場合には情報の正確性をどのように担保するのか疑 問に思った。

#### (NHK側)

現地にいた北海道庁の職員が撮影したスマートフォンの映像を使っている。そのために通常よりも早く報道できた。事実関係についても、北海道庁の職員に確認した。人権に関わるようなこと、あるいは特に公平公正を保たなければならないようなセンシティブな内容についてはもちろん当事者に直接取材を行うが、今回についてはよさを知ってもらう調査ということだったので、北海道庁の職員への確認で放送した。

- 「ピョンチャンオリンピック」を見ていた時に、突然マルチ編成の案内が始まって驚いた。子どもが操作を行ってくれたが、私はどうすればよいかわからなくて戸惑った。また、画面が切り替わってしまったあとには何も説明がなかったので、切り替わったあともマルチ編成の説明があったらよいと思った。高齢者の人は特に混乱してしまうと思う。今回マルチ編成を初めて知った視聴者は多いと思う。オリンピックというのは特別で、こんなにテレビを注視することはあまりないと思う。東京オリンピックに向けて、対応を検討してほしい。
- 1月31日(水)に札幌市の共同住宅で火災があり、11人が亡くなった。出火の 原因なども重要だが、どうしてあのような場所に住まなければならなかったのか、

そこに住んでいた人たちがどのような人生を送って、なぜあのように亡くならなければならなかったのかについて取り上げてほしい。北海道だけでなく、全国的な課題でもあると思う。

○ 今まであまり目を向けてこなかった生活困窮者について、今回のことが図らずも 目を向けるきっかけとなってしまった。この機会をむだにせず、しっかりと報道し てほしい。

> NHK札幌放送局 番組審議会事務局

### 平成30年1月NHK北海道地方放送番組審議会

1月のNHK北海道地方放送番組審議会は、17日(水)、NHK札幌放送局において、 11人の委員が出席して開かれた。

会議では、北海道クローズアップ「半崎美子 ふるさとに歌う」をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

続いて、2月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告があり、 会議を終了した。

### (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

副委員長 豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

委員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

嘉指 博行 (北海道新聞社論説委員)

齋藤 拓也 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)

蛭田亜紗子 (小説家)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村木 秀雄 (いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長)

村田 博 ((株)村田商店 代表取締役)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポートステーション総括コーディネーター)

山下 徹也 ((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)

### (主な発言)

<北海道クローズアップ「半﨑美子 ふるさとに歌う」(総合 1月5日(金))について>

○ 半﨑美子さんをあまり知らない人でもわかりやすい内容になっていたと思う。右上のテロップが番組の構成をわかりやすく伝えていた。半﨑さんが長い時は3時間にもわたって、サイン会で観客の話に耳を傾けるという話がとても印象的だった。下積み時代のつらい経験があるからこそ、自分の歌を必要としている人々と真剣に向き合うことができるのだと納得した。後半では下積みを支えた家族の愛が描かれていたが、主に父親の光男さんとの話だったので、父親以外の家族がどのように17年を過ごしてきたのかについても知りたかった。また、やや演出が押しつけがましいと感じる部分があった。特に最後のライブのシーンで、半﨑さんの後ろにいた人たちの表情が硬く、緊張しているのを感じた。父親のコメントもとてもぎこちな

く、模範的に答えなければと感じているように見えた。しかし、全体としては半崎 さんの歌とこれまでの歩みがよく伝わった。シンガーソングライターとしてどのよ うな曲作りをしているのか、北海道にどんな思いを持っているのか、半崎さんのこ とをさらに知りたいと思った。

- 番組が始まり、「半崎さんとはどのような人なのだろうか」と思って見ているのに、 キャスターがすでに半崎さんのことをよく知っているような感じで進行しており、 ついていけなかった。私がまず知りたかったのは、どうして人々がショッピングモ ールで半崎さんの歌を聴いて涙を流すのか、人になかなか言えない重大な悩みをど うして彼女に打ち明けたくなるのか、ということだった。そのようなことをもう少 し詳しく説明してくれたら、最後の歌ももっと違って聞こえたのではないかと思い、 もったいなく感じた。
- テレビ塔をバックにしたオープニングは、2018年最初の「北海道クローズアップ」 という晴れやかな雰囲気でよかった。「北海道クローズアップ」に対して、生放送の 必然性をいつもあまり感じなかったが、このオープニングは非常に生放送らしくて よかった。番組の内容については、焦点が定まっていないように感じた。複数のエ ピソードがあったが、そのどれも掘り下げが足りず、もの足りなさが残った。短い 時間の中で伝えたい情報をいかに見せるのか試行錯誤した結果だと思うが、短いか らこそ話題を絞ったほうがよかった。番組の中で再現ドラマがあったが、番組の雰 囲気と合っていないように感じた。当時の写真や本人のインタビューなどで構成す ればよかったと思う。全体として、番組の半﨑さんへの思い入れが強く、あまり興 味を持っていなかった身としては置いてきぼりにされているような感じがした。長 年苦労してようやく報われた半﨑さんへの共感や応援を前提とした語り口で、見て いてだんだんとしらけてしまう部分があった。もちろん取材対象に思い入れを抱く ことは大事だが、番組としてはもう少し客観的に語ってほしかった。また最後の歌 の場面で、キャスターが子どもやライブハウスの人、父親の光男さんから言葉を引 き出そうと若干空回りしていたのも、ドキュメンタリーの雰囲気とのギャップを感 じた。

# (NHK側)

「ショッピングモールの歌姫」として、北海道だけでなく全国的にも注目されていた半崎さんに焦点を当てたいということで番組を制作した。意見を伺い、取材を深めていく中で制作担当者が半崎さんに共感し、のめり込んでしまった部分があったかもしれないと思った。押しつけることなく、自然と共感を持って視聴者に見てもらえるように、一歩引いた客観的な視点を持つ

ように心がけたい。ドキュメンタリータッチの番組の中に再現ドラマをいれるかどうかは、いつも悩むところである。どのようにすれば効果的なのか、全体としてそぐうのか、今後も慎重に考えて手法を選びたいと思う。

### (NHK側)

半崎さんには、昨年7月28日(金)に放送した「北の大地コンサート2017~夏だ!十勝だ!どさんこフォーク~」(総合後7:30~8:43 北海道ブロック)にも出演いただき、インターネットを中心に全国的に反響を呼んだ。また、7月13日(木)と9月14日(木)の「NHKニュース おはよう日本」でも「ショッピングモールの歌姫」として2回取り上げられた。その内容とかぶらないように意識していた部分があったと思う。そこで、ローカル放送ならではの視点で、「ふるさとへの凱旋(がいせん)」という雰囲気の番組を制作した。意見を伺い、今回の番組で半崎さんを初めて知った人のことを考えると、内容が重複したとしても、なぜショッピングモールでこれだけの感動を呼んでいるのかを伝えるべきだったと思った。

### (NHK側)

少し補足すると、「NHKニュース おはよう日本」とは別に、11月12日(日)目撃!にっぽん「ショッピングモールの歌姫」でも半崎さんを紹介した。「目撃!にっぽん」では、ショッピングモールの人々が半崎さんの歌を聴いてなぜ泣くのか、どうして悩みを打ち明けるのかに焦点が当てられていた。この番組も併せて見ていただけたら、よりわかりやすかったかもしれない。ただ「目撃!にっぽん」は完全にドキュメンタリーだったので、1曲全て歌を流すことはなかった。「北海道クローズアップ」では、歌と合わせて今まで一度も出演したことがなかった父親の光男さん、母親の静子さんに生放送で出演いただき、住み分けを行った。

#### (NHK側)

指摘のとおり、「なぜ人々が泣くのか」ということがわからなければ、内容が入ってこないところがあったと思う。半崎さんを初めて見る視聴者にとっては、置いてきぼりな感じがしたかもしれない。

○ 「凱旋」という言い方をしていたが、何を経て「凱旋」なのかがよくわからなかった。

#### (NHK側)

確かに、「凱旋」という言い方は少し合わなかったかもしれない。しかし 昨年レコードデビューし、全国的に活躍するようになった半崎さんが、初め てふるさとに帰ってきた。それをまたここから応援しようという思いで制作 した。

- 「目撃!にっぽん」を見たが、自分で「半﨑美子さんのご登場です」と言って出てきたシーンがとてもおもしろくて、印象に残っていた。父親との関係が出てきたのは、出身地ならではでよかった。半﨑さんを知っている人にとっても新しい情報だったのではないかと思う。最後に父親の光男さんが、「私の言うことを聞いてくれなくてよかった」と言っていて共感した。子育て世代にとっては、夢を追う子どもについて共感を持って見た人が結構いるのではないかと思う。ただ再現ドラマについては、私も違和感を覚えたので、必要なかったと思う。最後に子どもたちを出演させたのは、ふるさとに帰ってきたという演出だと思うが、見ていて恥ずかしくなるような感じがした。生放送で歌を交えての放送は、「北海道クローズアップ」として実験的な試みだったと思うが、このような番組は難しいと思った。
- 私は半崎さんをこの番組で初めて知った。半崎さん親子の絆や、彼女のファンへの優しさあふれるメッセージに、明るい気持ちになった。「北海道クローズアップ」は問題提起型の社会的な内容が多いが、今回は新春を飾るにふさわしい明るい題材でよかった。今までの「北海道クローズアップ」でも思っていたが、制作側の強い思いが表れ過ぎていて、演出過多な部分があったと思う。制作担当者がなぜシンパシーを感じたのかを追求したほうが、より訴求力のある番組に仕上がったのではないだろうか。また、どうしてわざわざ何時間も並んで、半崎さんに自分の悩みを伝えたいと思うのかが知りたかった。「お弁当ばこの歌〜あなたへのお手紙〜」はすばらしい歌だと思った。「みんなのうた」でも放送したらいいのではないかと思う。
- 半崎さんの歌唱力、歌詞の内容などが多くの人の共感を呼んだ番組だと思う。特に、両親の思い、家族愛がよく伝わってきた。また、17年間苦労して、今ふるさとで歌える喜びが番組に出ていた。なぜショッピングモールで半崎さんの歌を聴いて涙を流す人が多いのか、長時間待って半崎さんに話を聞いてほしいと思うのか疑問に思った。最後に北海道の歌を作っているという話があったが、きっと北海道を代表するようなよい歌が期待できると思う。

#### (NHK側)

今回の「北海道クローズアップ」は、音楽・芸能系のプロデューサーたち と一緒にチームを作り、一緒に制作を行った。そういう意味で確かに実験的 な試みであった。今回半崎さんに焦点を当てたのは、ショッピングモールで多くの人たちを涙させ、共感を呼んでいる背景に一体何があるのかということを伝えたかったためだ。しかし指摘のとおり、ほかの番組で紹介されていたために、少しその経緯を省略してしまった部分があった。やはりそこはしっかりと伝えるべきだったと思う。ただ 2018 年最初の「北海道クローズアップ」ということで、視聴者に元気や勇気、前向きな気持ちで今年も頑張ろうというメッセージを送りたいという思いもあった。

### (NHK側)

「お弁当ばこの歌~あなたへのお手紙~」についてだが、もともと「みんなのうた」のために作った曲である。

- とてもすばらしい歌声だった。しかし、生放送だったことも関係しているかもしれないが、制作担当者の半崎さんへの思い入れが番組に表れ過ぎていた。取材対象に思い入れを抱くことは大事なことだ。それだけ取材対象が魅力的だったということだと思う。ただ親しくなるにつれて感情移入してしまったのではないだろうか。番組の中で父親への手紙を読む場面があったが、半崎さんが泣いていたので成り立っていたが、少し演出し過ぎている感じがした。本人が書きたかったのか、制作側が書いてほしかったのか疑問に思った。また「感謝の根〜winter ver.〜」を歌うシーンについて、半崎さんとゆかりのある人たちが半崎さんを後ろから眺める形になっていたが、正面から聴いてもらったほうがよかったと思う。そのほうが今までお世話になった人たちに向けて歌うという雰囲気が出たのではないだろうか。タイトルが「半崎美子 ふるさとに歌う」だったが、番組の中で「ふるさと」というテーマがあまり主張されていなかった。また、なぜショッピングモールで歌うことになったのかについて知りたかった。
- 2018 年最初の「北海道クローズアップ」で半崎さんを取り上げたのはよかった。 しかし、半崎さんの魅力を伝えきれていなかったと感じている。なぜあれほど聴い ている人々の琴線に触れるのか。17年間の下積みを経て時代がどのように変化し、 なぜ半崎さんの歌が人々の共感を呼ぶようになったのか。なぜショッピングモール で歌うのか。そのようなことをもっと深く取材したほうがよかった。率直に言うと、 家族の話は必要なかったと思う。自分の子どもが芸能界に入るのを心配すると同時 に、陰で応援するというのは親として特別なことではない。手紙も予想できる内容 で、逆にしらけてしまった視聴者もいるかもしれない。家族の話よりはもっとしっ かりと歌を聴かせて、視聴者がまるでショッピングモールで半崎さんの歌を聴いて いるような気持ちになるような番組にしてほしかった。もう少し焦点を絞って番組

を制作するべきだったと思う。また1月12日(金)に、北海道クローズアップ「どこにも属さないあなたへ 音楽ユニット『IMERUAT』のメッセージ」が放送されたが、音楽のテーマが2週続いたことはあまりよくなかったのではないかと思う。

- 半崎さんがとてもすばらしい人だった。半崎さんの生きざまとこれからが伝わり、 涙なくしては見られない番組だった。番組の中で引っかかった点は特になく、気持 ちよく見ることができた。半崎さんのようなすてきな人が北海道出身ということに、 非常に勇気をもらった。今後も地元のすばらしい人材を見つけて、紹介してほしい。
- 半﨑さんの人柄がとてもよく表れていて、歌声も歌詞もとてもすてきだった。「お 弁当ばこの歌~あなたへのお手紙~」は知っていたが、初めて最後まで聴けてよか った。子どもや若い世代にこの歌が響くということをうれしく思った。全体として 違和感はなかったが、父親の光男さんがあまりにも多く登場した印象を受けた。ま た最後の歌の場面で、子どもたちがカメラを意識し過ぎて、動きが大きくなってし まっていた。それと対照的に大人たちが緊張して無表情になっており、そのことが 気になって歌に集中できなかった。幅広い世代に愛され、ふるさとで歌っていると いうことを表現したかったのだと思うが、うまく伝わらなかったのではないかと思 う。それよりは17年間の軌跡を映像として見せたほうがよかった。もしくは聴い ている人々を見せるのであれば、もっと飾らない顔を見せたほうがよかった。最後 に、なぜ彼女が今注目されているのか、どのようにして彼女の歌が広まったのかな ど、現在に至るまでのプロセスをもっと知りたかった。
- 私は「目撃!にっぽん」を見ていたので、大変興味を持ってこの番組を視聴した。しかし半崎さんを知らない人は、「ショッピングモールの歌姫」と呼ばれている理由や、17年間諦めずに歌い続けることができた理由などを疑問に思うだろうと感じた。彼女の歌が人々の共感を呼ぶ背景をきちんと説明しなければ、なぜ半崎さんを取り上げたのか視聴者は理解できないと思う。「目撃!にっぽん」と違う視点で番組を制作したいという意図は理解できるが、その背景を省いてしまうと半崎さんの魅力を十分に伝えられないと思うので、もう少しうまく説明できればよかった。父親の光男さんが半崎さんを思う気持ちは、画面からとてもよく伝わってきた。手紙を読むシーンは、思わずもらい泣きしてしまった。今回の番組は、半崎さんの遅咲きのメジャーデビューを支えた、光男さんの物語だったのだと感じた。しかし短い時間の中で、伝えたいことは歌なのか、それとも親子関係なのか、半崎さんが「ショッピングモールの歌姫」となったゆえんなのか、焦点が定まっていない感じがした。ただ、今回は生放送であることが生かされていてよかった。最後の「感謝の根~

winter ver. ~」の歌詞のスーパーが歌と2回ほど合わなかったのは、残念だった。また、「みんなの歌」のために作った「お弁当ばこの歌~あなたへのお手紙~」を取り上げたい気持ちはわかるが、視聴者をより感動させたいのであれば、「サクラ~卒業できなかった君~~」を歌ってもらうべきだったと思う。

### (NHK側)

半崎さんについて伝えたいことが多くあり、番組に詰め込みすぎてしまったのかもしれない。今回は、通常の「北海道クローズアップ」より5分延長して、30分の番組にした。歌を2曲じっくり聴いてもらい、半崎さんの魅力を伝えるために25分では短いと思ったためだ。しかし、焦点を絞れていなかったという意見を伺い、どこに重点を置くのかもっと突き詰めて考える必要があると思った。番組を制作するとき、NHKの中で同じテーマの番組があれば、それとは違う切り口、手法で制作しようと考える。今回はそれを意識し過ぎてしまったかもしれない。また手紙についてだが、半崎さん自身が「書きたい」という気持ちがあったため、あのようなシーンを撮影した。しかし人によっては、お涙頂戴な雰囲気でわざとらしく感じたかもしれない。意見は今後の参考にさせていただく。

#### <放送番組一般について>

○ 北海道クローズアップ「どこにも属さないあなたへ 音楽ユニット『IMERU AT』のメッセージ」を見た。最初の数分を除いて、テーマがタイトル通りで一貫しており、この音楽ユニットが何を大事にして音楽を作り、その音楽を必要としている人たちがどのように受け取っているのかをとても丁寧に伝えていた。番組の中に登場するファンの人たちはとても重い経験を語っていた。これだけ内面をさらけ出してくれたのは、時間をかけて関係性を作った結果ではないかと思う。ディレクターの語りも入っていたが、番組の流れを妨げるようなものではなかった。最初から最後までぶれることなく、どのように受け取られるかを意識した番組の作りに好感を持った。冒頭と最後が野良猫への餌やりのシーンだったが、人間だけでなく動物も「どこにも属さないあなた」に含まれていることを伝えていて、広がりを感じた。1つだけ気になったのは、番組の冒頭で「『IMERUAT』が6年前ポーランドでデビューした」と言っていた。もしかすると放送の時期がずれたのかもしれないが、デビューは2011年5月なので、「6年前」というのは誤りではないかと思う。

○ 『IMERUAT』の酒井美直さんがアイヌの人だと聞いていたので、アイヌ文化を伝えようという活動なのだろうと思って見ていた。アイヌである前に人間であり、どこにも属さないことを受け入れて生きていこうという強いメッセージが番組と酒井さんから伝わってきて、予想とは違っていたがよかった。1つ気になったのは、『IMERUAT』の作詞と作曲を担当する浜渦正志さんの思いについて、簡単な説明しかなかったので、浜渦さんの背景についても説明があればより深く理解できたのではないかと思った。「アイヌ」にこだわるのではなく、自分らしい音楽を貫いている姿を描いているところに好感を持った。一緒に見ていた子どもが食い入るように番組を見ていて、少し難しいテーマだと思っていたので驚いた。感想を聞くと、「差別はいけないことだと思った」と言っていた。私は差別があることを前提として見ていたので、「どこにも属さない」という部分に共感したが、子どもが見ると、根本にある差別に対して強い印象が残ったのだと思い、見る人によって受ける印象が全く異なるのだと思った。

### (NHK側)

意見を伺い、番組で訴えたかったことがそのまま伝わっていてよかったと思う。『IMERUAT』の2人は、「動物のケアも含めて、自分たちの曲に関係している」「アイヌだけを全面に押し出して曲を作っているわけではない」と言っていた。実際、ファンも2人の音楽性そのものに共感し、曲に託されたメッセージに共感している。デビューが「6年前」となっていたことについてだが、制作が昨年の12月だったために誤ってしまった。デビューは2011年なので、放送時は「7年前」が正しい。今後このようなことがないよう注意する。

- テーマが先走ってしまったと思う。音楽やファンを1つの型にはめようとしているように感じ、見ていて違和感を覚えた。北海道クローズアップ「半﨑美子」でも感じたことだが、番組の伝えたいことが全面に出過ぎてしまっていた。音楽というのは聴く人が自由に感じられるものだと思う。特に『IMERUAT』の音楽は抽象的な雰囲気があり、受け取る側が好きなように解釈できる余地があると思うので、番組でその音楽を定義してしまうことは『IMERUAT』の魅力を損なう結果になってしまったのではないだろうか。また番組に登場するファンのエピソードも、番組のテーマを前提とした感じがした。それよりも酒井さんと浜渦さんについて掘り下げたほうが、自然と伝わってくるものがあったのではないかと思う。目の前の取材対象を観察するよりも、頭の中で組み立てた番組という印象を受けた。
- 『IMERUAT』のことを番組で初めて知り、興味深く見た。「もし君が孤独(ひ

とり)だったら」という歌詞が繰り返されていたが、非常に効果的だった。『IME RUAT』が発信したいメッセージと、それに共感するファンとの関係がよく伝わった。私も音楽を含めて芸術というのは、受け取る側が自由に解釈するものだと思う。解説が加わると、その解説に共感しない人は引いてしまうのではないか。

○ この番組は、何を伝えるべきなのか丁寧に時間をかけて考えられた番組だと思った。学校で自分の居場所を見つけられなかった発達障害の女性が、『IMERUAT』の音楽を通して「自分は自分のままでよいのだ」と気づいていく話は、非常に共感できた。私はアイヌの差別をあまり目にしたことがなかったので、思い出の料理をお店で出すことをためらってしまうような心の傷を負っている人がいることは衝撃的だった。今の時代に必要なのは寛容性なのではないかと考えさせられた番組だった。このような題材を今後も取り上げてほしいと思う。

### (NHK側)

音楽は聴く側が自由に解釈するものであり、番組が定義するのはふさわしくないのではないかという意見について、重く受け止めている。今回の番組とは違う解釈をしているファンももちろんいると思うので、今後とも慎重に番組を制作していきたい。

- 北海道クローズアップ「半崎美子」とはまた少し違う角度で取材されており、興味深く見た。改めて、歌手の力の大きさを感じた。テーマもしっかりしており、民族の課題や障害についてなど、さまざまな要素が含まれていたと思う。見方を変えると、属することによって流されること、自分を強く見せることに対する皮肉のようなものも感じ、興味深かった。
- 心地のよい余韻が残るすてきな番組だった。最初は、なぜポーランドでデビューしたのか、路上で野良猫の餌づけをしていいのかと思っていたが、見ていくうちにその疑問を忘れるほど『IMERUAT』の世界観に引き込まれた。ファンの話も番組を構成する上で欠かせないもので、自分はほかと違っていいのだということに改めて気づかされた。最近は、アイヌの伝統的な文化や習慣にスポットライトが当てられることが多いが、この番組はアイヌにルーツを持つ人の、民族としての生きづらさや心の葛藤を伝えており、非常によかった。見終わって初めて、タイトルの「どこにも属さないあなたへ」という意味がふに落ちた。このタイトルはとても秀逸だったと思う。最近の「北海道クローズアップ」は従来にない意欲的な番組作りをしていると感じる。今後も続けてほしい。

# (NHK側)

アイヌの伝統文化にスポットを当てた番組は何度か作ってきたが、今生きているアイヌの人がどのような思いでいるのかということも、とても大事なテーマだと思っている。今後も伝えていきたい。また、路上で野良猫に餌をあげていたことについてだが、これは「地域猫」といって増えないように去勢した猫で、地域の人たちの理解を得て餌を与えているということだ。ただ、そこを説明し過ぎると長くなるので、番組では割愛した。疑問に思う人もいると思うので、今後の参考にさせていただく。

- $\bigcirc$ 1月13日(土)の北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ 「今日はとことん! 北見・留辺蘂」(総合 前 10:05~11:00 北海道ブロック) を見た。 「北海道中ひざくりげ」がとてもおもしろく、感動した。不況の林業の町への22 年ぶりの訪問ということで、あまり楽しくない再会が待っているのではないかと思 っていたが、見事に裏切られた。北海道中ひざくりげ「山里に年輪きざむ名人芸~ 留辺蘂町~」(総合 1995年7月16日(日)後 6:10~6:38 北海道ブロック)で紹介し た木のおもちゃが、今も作り続けられていることに驚いた。先がどうなるかわから なくても懸命に作り続けてきたことに好感を持った。また木のおもちゃに真剣に取 り組んでいることをナレーションで説明するのではなく、会話を通して伝えている のがよかった。南こうせつさんの「北の旅人」が流れていた場面は、歌の力も加わ ってより一層胸にしみた。さらに番組の後半で、22年前の「北海道中ひざくりげ」 では木のおもちゃを作る工場の跡取りとして期待されていた菅慎一さんが亡くなっ ていたことを知り、驚いた。慎一さんが「もう少し仕事したかった」というメッセ ージを携帯に残していて、本当に仕事に打ち込んでいたのだと思うと同時に、仕事 とは何なのか考えさせられた。最近は残業時間の制限が強く要求されているが、残 業時間を制限することでできなくなってしまうものもあるのではないかと思った。 さまざまなことを考えさせられるすばらしい番組だった。
- 「木の砂場」という遊具は子どもたちがとても好きでいつも遊んでいたが、留辺 薬町のものだということは初めて知った。子どもたちもいつも遊んでいる遊具が出 てきたので、とても興味を持って番組を見ていた。22年前から木のおもちゃが作 り続けられていることに感銘を受けた。亡くなった慎一さんの思いを、父親である 義則さんがかなえたいと思っているのが伝わってきて、とても感動的な番組に仕上 がっていた。これからも地域密着の番組を作っていってほしい。「ひざくりげ」で昔 と今を取り上げているのはとてもおもしろいと思う。大変だとは思うが、今後も取り組んでほしい。「穴場ハンター」について、今回で終わることを初めて知り、驚いた。最終回であるにも関わらず、藤岡みなみさんが出演しなかったことがとても気

になった。番組の中では理由に触れていなかったが、8年間続いた番組の最終回に MCである藤岡さんが出演できなかったことは、よい番組だっただけに非常に残念だった。もう少し簡単にでも理由を説明してほしかった。

# (NHK側)

「北海道中ひざくりげ」について、留辺蘂町は「木の町」として、とても誇りを持っていて、22年前の「北海道中ひざくりげ」に出演した、菅嘉美さんを含め伝説的な木こりの話がいまだに語り継がれている。さまざまな困難がありながらも今もその誇りが引き継がれていることを伝えたいという思いで制作した。「穴場ハンター」については指摘のとおり、8年間続いた看板番組にもかかわらず、藤岡さんが不在で終わってしまったことは残念だった。しかし、体調不良という事情だったため、お手紙を寄せていただく形にした。

- 「穴場ハンター」をとても楽しく見た。ヤキニキストの西野寛明さんが七輪を前に抱えて焼き肉をしており、衝撃的だった。「北海道中ひざくりげ」は、留辺蘂町の優しい雰囲気がとてもよく伝わっていた。「木の砂場」が長い時間をかけて全国に広がったことを、家族の物語とともに伝えていてよかった。留辺蘂町への愛着が深まった番組だった。
- 「穴場ハンター」のオープニングで、アナウンサーが牛乳を飲むシーンがあった。 320 円と紹介していて高い牛乳だと思っていたが、売店の前に 1 杯 130 円と書いてあった。320 円というのは飲み放題の値段だったのかと気づいたが、少し混乱した。「北海道中ひざくりげ」では、町全体が地元の産業とうまく調和しており、さらに活性化を図るため、それぞれの立場で工夫していることが伝わってきた。また、「穴場ハンター」ではユニークな発想で町を盛り上げようとしている人たちを紹介しており、まちづくりのために活躍してほしいと思った。最後に、8年間番組に出演していた藤岡さんが顔を見せずに終わったことについては大変残念に思う。手紙ではなく、生の声を聞かせてほしかった。

# (NHK側)

指摘のとおり、飲み放題の値段が320円だ。番組でも伝えていたが、今後もきちんと伝えるように心がける。今回は藤岡さんから手紙を頂いたが、確かに電話でつないで生の声を届けるという方法もあったと思う。制作担当者に伝え、今後の参考にさせていただく。

- 12月31日(日)の「紅白、はじめます。~直前スペシャル~」(総合後5:00~6:00、6:05~6:50)について、1年の最後の日に伝える内容がもっとほかにあったのではないかと思った。12月31日(日)の第68回NHK紅白歌合戦「夢を歌おう」の宣伝のような番組だったが、「紅白、はじめます。」を放送することで、出演者の負担が増しているのではないかと思う。「紅白歌合戦」で出演者が倒れたことも、大みそかのため多忙だったこともあるとは思うが、負担を強いた影響もあるのではないかという気がした。
- 「紅白、はじめます」は、内輪で大騒ぎしている感じで、逆に「紅白歌合戦」を 見る気がなくなった。事前に宣伝したいのであれば、もっと違う手法でおもしろさ を伝えるべきだと思う。例えば、同じような直前のスペシャルでも、1月2日(火) に放送された、あなたが主役 50ボイス「西郷どん ボイス」(総合後6:05~6:48)は、「西郷どん」が見たくなる番組だった。また、大みそかであれば「紅白歌 合戦」を宣伝することよりもほかに伝えるべきことがあると思う。しかし、「紅白歌 合戦」そのものは内村光良さんの総合司会がすばらしく、とても楽しかった。

1月2日(火)の「恋するシャチの物語」(BSプレミアム後7:30~8:59)は、11月3日(金)の北海道スペシャル「知られざるシャチの楽園〜知床羅臼〜」(総合後8:00~8:43 北海道ブロック)に新しい話題が加わっており、より興味深いものになっていた。「北海道スペシャル」ではナレーションが少し大げさな部分があったが、「恋するシャチの物語」では表現が落ち着いていて、感動やすごさがより伝わってきた。

○ 「北海道スペシャル」よりも時間が長くなったので、新たな話題が追加されて、 見応えが増してゆったり堪能することができた。シャチの生態について、何が知り たくて調査をしているのかが丁寧に伝えられていた。研究成果を海外とも共有し、 ますます研究が展開されていくことを知り、とても楽しみに思うと同時に、ぜひ知 床に行きたいと思った。1点気になったことがある。海洋ジャーナリストの斎野重 夫さんがご自身も100頭ほどの群れを見たと言っていたが、カメラに収まりきらな かったと言っていた。それは写真を撮ったがあまりにも頭数が多く収まりきらなか ったのか、それとも撮らなかったのかを知りたかった。

# (NHK側)

「北海道スペシャル」でいただいた指摘を踏まえて、ナレーションをどうするかを考えた。伝えたいという思いの強さのあまり、表現が大げさになることがないよう、抑制気味に淡々と伝えるよう心がけた。斎野さんについてだが、80~100頭のスーパーポッドに圧倒され、撮ることを忘れて見続け

ていたとのことだ。今後も取材を続けていきたいと考えている。

○ 1月5日(金)新日本風土記「石狩川」を見た。石狩川の過去と現在の人間の営みを紹介していて、非常に引き込まれた。特に挫折して帰郷した開拓者の親に取り残されアイヌに預けられた子どもたちの話は、今までそのような状況があることを知らなかったので、とても興味深かった。「新日本風土記」は初めて見たが、地域に根ざした古い文化や風習をひもとき、それを未来にどのように生かしていくかを問いかけるような内容で、味わい深い番組だと思った。

### (NHK側)

この番組は約5か月かけて取材した。取材範囲も広く、とても大変だった。 しかし、1つの川にこだわって番組を制作することができたのは、本当によ かったと思う。今回の取材で培ったノウハウを今後に生かしていきたい。

- 長期にわたった撮影だということが伝わってきて、とても見応えがあった。私は サケがぶら下がっているシーンがとても好きだった。このように時間をかけてじっ くりと作る番組を今後も制作してほしい。
- 12月23日(土) ETV特集「老いて一人 なお輝く〜一人芝居 50年〜」について、役者の坂本長利さんのすごさを知った上で番組を制作する、制作担当者の 覚悟を感じた。坂本さんの圧倒的な存在感が画面から伝わってきて、1時間があっという間に過ぎてしまった。
- 12月29日(金) BS1スペシャル「デナリ 大滑降 完全版」(BS1 後 10:00~10:50、11:00~11:49)を見た。映像が大変美しく迫力があり、私の家のテレビではもったいないほどだった。現在のNHKが持つ映像技術が集結されていて、見応えがあった。家でテレビを見ているだけなのに、スキーヤーの佐々木大輔さんが感じているスリルをリアルに体験しているような臨場感があった。機材を抱えながら、急斜面を滑りおりるのを撮影するのはとても大変だと思う。インターネットでディレクターのインタビューがあり、撮影のスタッフについても紹介していた。番組の中でもそのような話を伝えているとよりよかったと思う。番組で背景に人がたくさん映っていたが、具体的な紹介はなかったので、舞台裏が気になった。

1月4日(木) ダーウィンが来た!生きもの新伝説・選「大変身!北海道 雪になった虫」(総合後6:10~6:37.30北海道ブロック)はとてもおもしろかった。雪虫についてあまり知らなかったが、とても不思議な生態に引き込まれた。1年をかけて雪虫の変化を撮影した映像は、鳥肌が立つような気持ち悪い場面もあったが、それよ

りも生態のおもしろさが勝り興味深く見た。長年にわたって雪虫を研究している北 海道大学の秋元信一教授が今まで見たことがなかった、雪虫の幼虫とアリが土の中 で共存している様子も見ることができ、とても心が弾んだ。

- 1月4日(木)湯けむり人情バラエティー お風呂頂きます「兵庫県 新温泉町編」 (総合 後 10:00~10:49)を見た。お笑い芸人が一般人の家のお風呂を借りるという 番組だったが、民間放送にありがちな内容でNHKが制作すべきものではないと感じた。
- 1月6日(土)「北の文芸館〜朗読と音楽のライブセッション〜」(総合 前 10:05 ~11:00 北海道プロック) を見た。朗読というのは、ただ本を読むということではなく、「演じる」ことなのだと感じさせられた。

### (NHK側)

この番組のねらいは、多々ある北海道ゆかりの文学作品を紹介し、興味を 持ってもらうきっかけとすることだ。

○ 12月28日(木)「ほっとニュース北海道」では、翌年の北海道の中で重要だと位置づけられる出来事を紹介していた。今どのようなことが起きているのかを伝えることも大事なことだが、1年の締めくくりに今後の見通しを示すという取り組みも非常に重要だと感じた。また「展望2018」というシリーズで、将来につながる今年の重要なことを紹介しており、それも興味深かった。さらに1月11日(木)に、北海道において大地震が発生する可能性が示唆されたことを踏まえて、冬の大津波を想定した避難訓練について取り上げていた。札幌における冬の都市災害の注意点についても紹介していてよかった。札幌は地震の心配がないと思っている人も多いと思うので、札幌のような寒い地域で冬に災害が起こった場合、どのような問題が生じるのか注意喚起することは、とても重要だと思った。

### (NHK側)

東日本大震災では、救助を待っている間に低体温症で亡くなった人が多くいたという指摘もある。北海道で大きな地震や津波があった場合に、どのように逃げるのか、あるいは救助するのかということは大きな課題となる。そのため、先日は避難訓練と札幌での都市災害対策の課題をお伝えした。潜在的リスクがあると言われている断層もあるので、今年はさらに力を入れて地震と津波対策について伝えていきたい。

- 北海道のコメの生産量の目標が約 5,000 トン増産という報道があった。この報道 が間違っていた訳ではないが、「北海道は面積を増やすのか」という抗議が複数の府 県からあったと聞いている。誤解を招くようなことがないよう、報道の仕方につい ては今後とも気をつけてほしい。
- ある新聞で、NHKの収入が過去最高であることに伴い、公共メディアとしての あり方について記事があった。その中で、「NHKは視聴率で競争するよりも質の高 い番組作りを徹底すべきだ」という意見があった。改めて、視聴率を追うことより も根本的に大事なことがあると思うので考えてほしい。

### (NHK側)

先月の番組審議会で頂いた質問にお答えする。11月23日(木)にっぽん紀行「ヒグマ番屋よ いつまでも~世界遺産・知床の老漁師~」(総合後6:05~6:38)について、8月4日(金)の北海道クローズアップ「ヒグマを叱(しか)る男~世界自然遺産と漁師~」を再構成した番組であるのに、方向性が異なっていたという指摘をいただいた。まず、「にっぽん紀行」を制作するにあたって、「北海道クローズアップ」の放送後に追加で取材を行っている。その取材の中で新たな情報があったため、番組をどのように制作するか再度検討した。ヒグマ番屋の漁師である大瀬初三郎さんへのインタビューで、大瀬さんがディレクターを叱る場面については、番組の構成に必要だと思い放送した。ただ指摘のとおり、ディレクターの聞き方には課題があったと思う。今後は踏み込む取材をしなければならない時には、どのように聞くのがよいのか慎重に考えながら行いたい。今後も北海道地方で放送したものを再構成し、全国放送する機会はあると思う。どちらの番組も見た人が違和感を覚えることがないよう、どのような表現がふさわしいのか考えて制作するように心がける。

### (NHK側)

12月11日(月)「ニュース シブ5時」の「お仕事図鑑」というコーナーで取り上げられていた、白糠町の親子についてだが、保健所の食肉処理業の許可は得ている。指摘があったエゾシカ肉処理施設認証制度については確かに申請を行っていないが、これは道が安全なエゾシカ肉を推進するために作った制度で、信頼性を高めるためのものであって必要不可欠なものではない。白糠町の親子を取り上げたのは、白糠町が道内でもエゾシカの被害が大きく、エゾシカの頭数を調査する地域となっていることが理由だ。さらに、白糠町役場への取材を行い、「ふるさと納税」でその親子が営む会社の肉が

使われていることや、ハンターの高齢化が進む中で、若い人の活躍を紹介したいという思いがあった。また、北海道庁環境生活部環境局エゾシカ対策課にも取材を行った。

12月11日(月)に再放送した、プロフェッショナル 仕事の流儀「独り、山の王者に挑む〜猟師・久保俊治〜」の中で、生のシカ肉を食べている映像が注釈なく流れているのはよくないのではないかという指摘を頂いた。4月の番組審議会で指摘されたときに制作担当者には伝えていたが、今回の放送で指摘が反映されていなかった。本当に申し訳なく思っている。12月の審議会で指摘を頂いたあと、ホームページで注意喚起を行った。今後も頂いた指摘は制作担当者に伝え、きちんと反映させたいと思っている。

NHK札幌放送局 番組審議会事務局

# 平成29年12月NHK北海道地方放送番組審議会

12月のNHK北海道地方放送番組審議会は、20日(水)、札幌グランドホテルにおいて、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、議事に先立ち、若泉局長から12月1日付で新たに委員に就任した村田博 氏の紹介とあいさつがあり、議事に入った。

議事はまず、北海道スペシャル「拓銀破綻から20年~あれから、私たちは~」をは じめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

続いて、平成30年1月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告があり、会議を終了した。

# (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

副委員長 豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

委 員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

嘉指 博行 (北海道新聞社論説委員)

齋藤 拓也 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)

蛭田亜紗子 (小説家)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村田 博 ((株)村田商店 代表取締役)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポートステーション総括コーディネーター)

山下 徹也 ((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)

## (主な発言)

< 北海道スペシャル「拓銀破綻から20年~あれから、私たちは~」 (総合 11月17日(金)後8:00~8:43 北海道プロック)について>

○ とても興味深く見た。特に、転職した拓銀マンの話にとても引きつけられた。その中の1人である佐々木俊克さんの話を聞いていると、この人は北海道拓殖銀行を辞めたことで、かえって人生が充実したのではないかと思った。北海道拓殖銀行が経営破綻したことで被害を受けた人はたくさんいると思うが、北海道拓殖銀行が破綻してよかったという視点も成り立つのではないかと思って見ると、この番組がとてもうまくまとまっている気がした。最後のほうで、金融業の本分は自らの利益を追求することではなく、社会を豊かにする支えとなることだと言っていたが、北海

道拓殖銀行が破綻当時、それと逆のことをやっていたという印象を視聴者が受けた としたら、かわいそうだと思った。例えば、番組で北海道拓殖銀行の破綻の大きな 要因として、新興企業への巨額の融資が挙げられていた。その一つとして紹介され ていた企業が経営するホテルは、確かに私にとってはバブルの象徴というイメージ だったが、私の知人がそのホテルに泊まりたくて今年北海道を訪れたという話を聞 いた。ホテルを作った人たちは、私腹を肥やそうとした部分もあったかもしれない が、北海道の誇れるものを作ろうという意志もあったのではないかと思う。もう一 つ気になったのは、北海道拓殖銀行の店舗網についてだ。首都圏にもたくさん店舗 を出しており、私も千葉のあまり活気がない駅の近くで支店を見たことがあった。 こんなところに支店を出して赤字にならないのかと思っていた。しかし例えば、も ともと北海道で働いていて北海道拓殖銀行を利用していた人が、転勤のために多く そこに移住してきて、フォローのために出店したのかもしれないという話を聞いた。 社会のため、人のために出店する範囲を広げたという側面もあったのではないかと 思った。ある会社の経営者夫婦の手紙で、「北海道拓殖銀行、誰一人として破綻など 考えた人がいたでしょうか」とあったが、本当は何となく危険そうだとみな気づい ていたのではないかと思う。しかし、「誰かが助けてくれる」「国が助けてくれる」 と思い込もうとして、見て見ぬふりをしていたのではないだろうか。あの手紙をも っと教訓を示すように紹介することができなかったのかと思った。

- 私は当時まだ10代だったので、北海道拓殖銀行の破綻について、あまりよく理解していなかった。導入の部分で、破綻がなぜ起こったのかをわかりやすくまとめていて、やっとこの出来事について理解することができた。その後の構成も、基礎情報がない私のような人が見ても、多様な視点からわかりやすくまとまっており、一つ一つの長さも適切で、飽きることなく見ることができたと思う。特に衝撃的だったのが、美深町の話で、本当にこれが現実なのだということを突きつけられた。北海道拓殖銀行の従業員は個人的に借金を負うこともなく過ごしているのに対し、北海道拓殖銀行の破綻が原因で倒産してしまった会社の経営者夫婦が、いまだに借金の返済に追われているという話を聞き、経営者夫婦の気持ちを考えると、最後までやりきれない思いで番組を見た。道内の中小企業を支援することを目的としたファンドの話など、非常に明るい話題で番組は終わったが、私は経営者夫婦のことが最後まで気がかりだった。しかし、このような取り組みに北海道拓殖銀行の破綻から得た教訓が生かされているのではないかと思うと、少し明るい気持ちになった。
- 大正時代の札幌の映像など、NHKだからこその貴重な映像を交えながら破綻について追っていて、非常に引き込まれた。特に、大正時代の映像は興味深く、短い映像ではあったが、巻き戻して何度も見た。美深町という一つの地域での影響や、

北海道拓殖銀行に勤めていた人のその後など、意図的に小さな点に的を絞って、20年後の今がどうなっているのかを番組の中心に据えていたと思う。確かにそれぞれの話はとても興味深かったが、北海道拓殖銀行の破綻とは何だったのか、全体を改めて総括する内容があってもよかったのではないかと思う。破綻に大きく関わった企業の名前が具体的に出てきたにもかかわらず、その企業の話を追わなかったことは、少し拍子抜けする感じがあった。当時をよく知っている人にはいまさらなのかもしれないが、私は当時まだ高校生だったので、破綻についてあまり理解していなかった。数年がたち、興味が出てきていろいろと調べてみても、皮膚感覚でわかるというところまでは至らなかったので、大局的な取り上げ方をする番組も需要があるのではないかと思う。北海道拓殖銀行の破綻による余波は道内外にあると思うので、現代の視点から改めて振り返ってほしかった。元拓銀マンの2人を取り上げた後で、佐々木さんの姿から「"少しずつでも、前に進む"ということの大切さが伝わってきた」とアナウンサーがまとめていたが、少し押しつけがましい感じがした。もう少し視聴者に委ねる感じがあってもよかったのではないかと思う。また、破綻前日に大量の札束が用意されたという話はとても臨場感があり、印象に残った。

### (NHK側)

まず、今回の番組の趣旨についてお話したい。破綻からちょうど20年の 日に「北海道スペシャル」の枠があるということで、NHK札幌放送局とし てぜひ取り組まなければならない内容だと思い、取材を始めた。さらに、「北 海道 戦後70年」というシリーズに取り組んだ際、北海道の人々が最も印 象に残っている出来事が北海道拓殖銀行の破綻だったこともあり、今回取り 上げた。北海道拓殖銀行の破綻の原因について、どこまで細かく取り上げる べきなのかというさじ加減が難しかった。構成を組んでいく中で、最初にあ る程度総括しないと、その後の話が理解しにくいのではないかと思い、冒頭 で破綻の原因について総括を行った。その一方で、美深町の話や元拓銀マン のその後の話題に行くまでに、あまり時間を取ってもいけないということで、 あの分量になった。今回のテーマは、この20年を個人それぞれがどのよう に過ごしてきたか、どういう思いで破綻を受け止めてきたのかということだ ったため、破綻の原因やあの破綻は何だったのかということについては突き 詰めなかった。みんなが何となく北海道拓殖銀行が危ないと気づいていたの ではないかということだが、最後まで国が守ってくれる、と思っていた人も 多かったと思う。この点については、制作担当者の間でも意見が分かれた部 分だった。大正時代の映像については、「北海道 戦後70年」の時に、N HKが持っている昔の映像についてご好評を頂いたので、なるべくそのよう な映像を生かしたいと思い、使用した。元拓銀マンの2人については、北海

道クローズアップ「元拓銀マン 信金での再出発 ~新規融資を獲得せよ ~」(総合 1998 年 8 月 1 日(土)後 6:10~6:38 北海道プロック)で取材しており、破綻当時と今を対比できる人ということで、今回取り上げた。アナウンサーのまとめについてだが、話が複雑で、テンポよく展開していたので、ついていけない人もいるのではないかと思い、まとめを行った。指摘は今後の参考にさせていただく。

- 道外出身の私にとっては、北海道拓殖銀行の破綻は身近な出来事ではなかった。  $\bigcirc$ しかし、この番組を見て、破綻の一因である巨額融資の実態、当時の雰囲気、破綻 による道内企業への影響を知ることができた。古い映像を交えながら、破綻後の関 係者の生き方や今なお抱えている思いを伝えており、悔しさ、やりきれなさが伝わ ってきた。捨てられずに保存されていた天塩川木材の不渡り手形は、特に印象的だ った。さまざまな視点から、当時や今の思いを浮かび上がらせており、非常に見応 えがあった。「アナウンサーがまとめ過ぎていた」という指摘があったが、私も一般 化し過ぎていたように思った。しかし全体としては、アナウンサーはナビゲーター として落ち着きがあり、話し方もテーマや内容に合っていてよかった。北海道拓殖 銀行から営業を譲渡された銀行の頭取で、自身も北海道拓殖銀行に勤務していた石 井純二さんが、「北海道の産業構造を変えなければならない」「物作り企業をどんど ん増やしていく」という話をしていて、希望を感じた。その一方で、北海道経済が 活性化を目指しながらも20年にわたって実現できていないという事実を、非常に 重く感じた。当時のことをよく知らない人間としては、過去にあったことを理解す るために、一人一人のその後を詳しく知ることができたのはよかった。しかし、な ぜ破綻したのか、当時経営をしていた人たちにもう少し聞くことができたのではな いかと思った。
- 北海道拓殖銀行の破綻は、とても大きなテーマで、どのような切り口でも取材できるものだったと思う。1つの番組としてまとめるのはとても困難だっただろうと見ていて感じた。北海道拓殖銀行が破綻したという事実をテレビで知り、とても衝撃を受けたことを覚えている。
- 重々しいタイトルであったので、硬い内容なのだろうと思って見た。途中までは 義務感で見ていたが、元拓銀マンの佐々木さんと川合雅之さんの話から、とても引 き込まれた。以前取材したときから約20年も経っているので、もう一度協力して もらうのは大変だっただろうと思った。2人の話があることで、この番組を身近な ものとして見ることができた。苦労して取材をしたけれども残念ながら放送できな かった話が、きっと多くあったのではないかと想像した。

# (NHK側)

明るい話題ではないので、あまり思い出したくないという人が多く、取材は難航したと聞いている。また、別の名前で営業しているホテルなどもあり、現状に影響を与えることがないよう、紹介の仕方には気を配った。今回に関しては、私たち自身がこのことから何を学ぶのか、このことが何を意味しているのかということを考えながら制作を進めた。伝えきることができたのか今も悩む部分はあるが、視聴者に北海道拓殖銀行の破綻についてもう一度振り返っていただき、それぞれが破綻からの20年を考えるきっかけになればよいと思う。

- 北海道拓殖銀行が破綻した時のことは、とても記憶に残っている。番組はとても 丁寧に作り込まれており、完成度も高かった。まず冒頭の 100 年前の映像から、北 海道拓殖銀行が当時どのような存在だったのかが伝わってきた。番組の中で、拓銀 マンの「使命感」「誇り」というような表現が出てきたが、それが過剰になって、破 綻に向かったという側面もあったのではないかと思った。犯人探しや破綻の原因を 追及するのではなく、破綻に関わっていた人々がどうなったのかに焦点を当てたの はよかった。北海道クローズアップ「元拓銀マン 信金での再出発」で取り上げた 2人を再び取材することができたのは、この番組にとって大きなことだったと思う。 どのようにすれば地域のためになるのかを考えるよいきっかけとなる番組だった。
- 私自身、北海道拓殖銀行の破綻にはとても衝撃を受けた。明るいテーマではなかったが、悲壮感だけにとらわれることなく、NHKらしく事実を淡々と伝え、視聴者それぞれに感じてもらえるように問題提起していたのがよかった。元拓銀マンの佐々木さんと川合さんの話も短いながらも、とてもよく構成されていた。石井頭取の言葉はとても重みがあった。これからの北海道は産業構造を変えていく必要があると言っていたが、この考え方を受け入れていかなければ北海道の未来はどんどんなくなってしまうと感じた。北海道は来年、命名から150年を迎える。北海道には100年企業がたくさんあるが、時代にあった変化を追求していかなくては減っていくだろうと思う。北海道拓殖銀行の破綻の時のように、銀行が破綻したから自分も破綻するということにならないように、私たち自身も考えていかなければならないと思う。
- 破綻から20年という節目で番組を放送できたのがよかった。北海道拓殖銀行の破綻は、当時とても話題になっていたが、時間がたつと忘れてしまうものだなと思うと同時に、改めて忘れてはならないと感じた。佐々木さんと川合さんの話は、彼

らが20年の歳月の中で何を思い、何を学んだのかということがとてもわかりやすく伝えられていた。川合さんの話で、地域のために何ができるかを考え続けていると言っていたが、これは経済界においてだけでなく、さまざまな仕事において重要なキーワードだと感じた。後半の中小企業を支援するためのファンドや石井頭取の話は、とてもよくまとまっていた。特に、ファンドについて詳しく説明されていたのはよかった。番組は、破綻の原因を取り上げるというよりは、その教訓をどう今に生かすかということを取り上げていたと思う。しかし、例えば「産業構造を変えなければならない」と言っていたが、それが具体的にはどういうことなのか私にはわからなかった。現在どういう状況にあるのか、そして具体的にどうしなければならないのか視聴者が理解しやすい形で提示できればよかったと思う。

○ 今までの意見を聞いて、北海道拓殖銀行の破綻も立場によってさまざまに見えてくるのだと思った。私は経営者の視点から、この番組をとても期待を持って見たのだが、私が知りたかったこととは大きくかけ離れた内容だった。あれだけ大きな衝撃を与えた事件だったのだから、もう少し多方面から切り込んで、一歩踏み込んだ新たな取材があってもよかったのではないかと感じた。佐々木さんと川合さんの話は、過去に取り上げたから追ってみようというのが、とても安易に思えた。さらに、佐々木さんについて、北海道拓殖銀行破綻の被害者のように描かれていたが、これにはとても違和感を覚えた。破綻で人生を狂わされたのは圧倒的に中小零細企業であると思うので、そのあたりをもう少し考慮して番組を制作してほしかった。石井頭取の話も、とってつけたように感じられ、期待外れだった。新興企業への過剰融資が破綻の引き金になったと説明していたが、バブルに踊り、地域金融機関の本来の使命から大きく逸脱したことが原因だと私は思っている。そしてそうであるならば、そういう意味で、当時の拓銀マンたちが何を考えたのかが問われるべきで、もっと人間の内心に迫ってほしかった。また、当時の経営陣への取材を期待した視聴者も多かったのではないかと思う。

### (NHK側)

意見のとおり、破綻当時の経営陣へのインタビューというアプローチもあったと思う。深く受け止め、今後も取材を続けていきたいと思う。「産業構造を変える」ということについてだが、ほかと同じでは生き残ることができないので、固有の強みを持つ会社をどんどん支援し、増やしていきたいということだと思う。

#### (NHK側)

北海道拓殖銀行の破綻は、地域に大きな影響を与えた出来事だ。20年た

っても、なぜ破綻が起きたのか知りたい気持ちは変わらないと思う。石井頭 取へのインタビューをもう少し掘り下げることができればよかったと思う が、石井頭取も当時経営の中枢にいた訳ではないので、残念ながら深いとこ ろまでたどり着くことができなかった。このテーマは私たちにとって重要な ものだと考えており、今後も報道する意味が十分にあると思っている。

## (NHK側)

当時何が起きていたのかを正確に知っているのは、当時の経営陣だけだと思う。そのため、経営の中枢にいなかった石井さんに、北海道拓殖銀行の破綻についてどう思うかと聞くことは、少し的外れだったかもしれない。そういう点で、番組が必ずしも視聴者の期待に応えている形にはなっていなかったと反省している。取材力をさらに磨き、よい番組を制作できるよう努めていきたい。

○ 石井頭取へのインタビューで、ファンドについて、やっていることが北海道拓殖 銀行の試みと似ているように感じると言及していたのは、よかったと思う。

## <放送番組一般について>

○ 12月8日(金)北海道クローズアップ「過疎の町に"出店ラッシュ"~スーパー・コンビニ新時代~」を興味深く見た。紋別市にあるコンビニの話で、客の声をもとに商品を検討しているのを知り、やはり役に立つのは人の力なのだと感じた。コンビニの商品管理は機械が中心のイメージだったが、システムをありがたがるだけでなく、人の力を合わせていかなければならないのだと思った。北海道に拠点を置くコンビニチェーンの事業持株会社の社長である、丸谷智保さんにインタビューをしていたが、もっと話を聞きたかった。採算がとれるか心配になるような場所になぜ出店するのか、過疎地でのビジネスを行おうと思ったきっかけは何かについて、聞いてほしかった。番組を見ていて、疑問に思った点が二つある。一つ目は、滝上町のスーパーの話で、このような町は人間関係が密接なので、中心部のスーパーが閉店する前から後継者がいないことはわかっていただろうと思った。もしそうであれば、2億円もの税金をつぎ込むことなく、中心部のスーパーがなくなる前に対処できたのではないか。また、税金を投入したスーパーを月9万円という破格の値段で貸し出しているということだったが、賃料の相場はどれくらいなのか、町の負担がどれほどなのかも知りたかった。二つ目は、その格安で貸し出しているスーパーの

経営者について、町内の人なのか町外の人なのかを教えてほしかった。格安賃料で商売をしているこのスーパーと他のスーパーでは全く競争にならないと思うが、それをどのように納得させたのか、他の店舗との公平性をどのように保っているのかがわからなかった。

- 北海道クローズアップ「過疎の町に"出店ラッシュ"」と、12月15日(金)の北海道クローズアップ「緊急報告 北朝鮮木造船~日本の海で何が~」は、とてもよいタイミングでの放送だった。また、北海道クローズアップ「過疎の町に"出店ラッシュ"」にスタジオゲストとして出演していた、小樽商科大学副学長の近藤公彦さんの話が、端的でわかりやすく、非常によかった。
- 北海道クローズアップ「過疎の町に"出店ラッシュ"」を見たが、パネルの使い方が効果的で、伝わりやすくなったと感じた。自治体が税金を投入して店を誘致するという形は、今後ますます深刻化していく北海道のインフラの問題に対して、先んじて1つの答えを提示していると感じた。過疎地でのコンビニ営業について、コストの抑え方の例として、既存の物流網の活用と営業時間の短縮を挙げていたが、ほかにもさまざまな工夫を行っているので、もっと紹介してほしかった。最後に出てきた「課題解決先進地」という言葉がとても印象に残った。北海道では先んじて問題が起こるので、それをどう解決していくのかが今後さらに大事になると思った。

#### (NHK側)

丸谷社長の話をもう少し聞きたかったということだが、1つの会社だけを 取り上げるのではなく、過疎地の問題解決のヒントとなる取り組みを紹介す るようにしたため、あの分量になった。指摘は、今後の参考にさせていただ く。また、滝上町のスーパーの賃料、後継者の話については、紹介が足りな かった面があると思うので、制作担当者に伝える。

○ 過疎地への出店ラッシュについて、そのような事例があることは新聞などで知っていたが、視点がほかと違っていて興味深かった。行政と民間が力を合わせて過疎への対策を行っていることを、さまざまな例を出して紹介していてよかった。また、スタジオゲストの近藤さんの解説がとてもわかりやすかった。「課題解決先進地」という言葉が出てきたが、この問題に限らず、当てはまるだろうと思った。パネルの「解決」という言葉が書き足したようになっていて、少し見にくかったので、あえてそのようにしたのか、間違えたのかが気になった。あるコンビニについて、「一部税金による補助を使っている」というコメントがあったが、どのような仕組みなのか知りたかった。また、これから税金を投入したコンビニやスーパーが、どうなっ

ていくのか興味が湧いた。さまざまなコンビニの取り組みを紹介していたが、説明 がわかりづらい部分があった。

### (NHK側)

インフラの課題解決の推進について、引き続き力を入れて番組を制作したいと考えている。パネルの文字については、制作担当者に確認する。

## (NHK側)

スタジオゲストには、当日の打ち合わせの時などに、その場でパネルを書いてもらうことがしばしばある。今回は、「解決」を目立たせようとする意図があったのだと思う。

- 冒頭から真っ赤な北海道の地図が出てきて、引き込まれた。過疎の自治体が赤く 塗られていたが、ここも過疎地ではないかと思われるところが赤くなっていなかっ た。過疎地の条件は何なのか、その説明があってもよかったのではないかと思う。 アナウンサーの進行やオープニングのコンビニの自動ドアが開くような映像など、 全体としていつもより明るい雰囲気でよかった。「食料品アクセスマップ」が紹介さ れていたが、とても興味深く自分でも調べてみようと思った。また、滝上町の新し いスーパーの経営者について、もう少し詳しく知りたかった。近藤さんの説明に出 てくるキーワードがとてもおもしろかった。パネルも単純だけれど工夫されており、 わかりやすくてよかった。
- 深く考えさせられる番組だった。北海道に拠点を置くコンビニチェーンの事業持株会社の「原則、自治体からの出店依頼を断らない」という経営姿勢を知り、地域のニーズに応えることで他とは一線を画し、生き残ろうとしているのだと思った。しかし、そのコンビニチェーンが他と異なる品ぞろえをしていることは今に始まったことではないので、それを紹介することは企業宣伝のように感じられた。地方自治体が税金を投入してコンビニを誘致するという内容ならば、もう少し自治体の意思決定のプロセスや具体的にどれぐらい税金を投入しているのかについて切り込んだほうがよかった。
- 過疎地でのコンビニ展開について、具体的にどのような仕組みなのか、採算を取るためにどのような工夫をしているのかは何となく理解できたが、本当に採算がとれるのか疑問に思った。買い物をする場所がなくなるというのは、北海道の多くの地域が抱えている問題であり、コンビニがどのようにニーズに応えて、地域を活性化できるのかは大事なテーマだと思う。しかし、過疎化や高齢化という問題の根本

を考えると、買い物に行けなくなった時にどうしていくのか、本当の意味で健康を 守っていくためには、店ができれば万全ということではないのではないかと思った。 税金を使って店を誘致するだけでなく、自治体が独自にどのような取り組みを行う のか、違う視点で取り上げていく必要があると思う。また、最後のまとめかたにつ いて、少し急いでしまった印象を受けた。「課題解決先進地」という言葉はよかった が、課題と解決方法についてもう一度具体的に伝えたほうがよかったと思う。

## (NHK側)

過疎地を示す地図については、総務省の過疎対策室で作成した地図を使用 した。過疎というのは非常に複雑で、自治体によっては違和感があったかも しれない。短く説明することが困難であったため、あのような演出になった。

○ 北海道クローズアップ「過疎の町に"出店ラッシュ"」と「緊急報告 北朝鮮木造船~日本の海で何が~」について、視聴者からのコメントが表示されていなかったが、やめたのか、それとも今回は生放送ではなかったのかが気になった。個人的にはコメントがないほうが番組に集中できたのでなくてよいと思ったが、視聴者の反応が気になった。

## (NHK側)

「緊急報告 北朝鮮木造船~日本の海で何が~」は生放送の番組で、大きな問題になっていたために、急きょ制作を決定した。

#### (NHK側)

今回は視聴者ではなく、キャスターの自然な疑問などを専門家にぶつける 形にしたのだと思う。

○ 北海道クローズアップ「緊急報告 北朝鮮木造船~日本の海で何が~」は、すばらしいタイミングでの放送だった。今回はアナウンサーが直接現地に赴いており、いつも以上に伝わるものがあった。冒頭で実物大の木造船のパネルが出てきて驚いたが、船の大きさがリアルにわかり効果的だった。木造船についてだけでなく、漂着した松前小島が松前の人たちにとってどれだけ身近な存在なのかについても伝えていたのがよかった。報道局国際部の高野洋記者が、「工作員が乗る船とは違う」ということを論理的に説明し、とても冷静に、注意しなければならないことをきちんと伝えていた。

### (NHK側)

アナウンサーには、今後もテーマによって直接現地を取材してもらい、いるんな演出をしてみたいと考えている。

## (NHK側)

地元の人たちが強い不安感を持っているということを取材を通して実感していたので、そのことを軸に番組を制作した。本人の希望もあったが、住民の人々に寄り添うという意味で、アナウンサーが現地に行って取材をする必要があると考えた。

11月23日(木)にっぽん紀行「ヒグマ番屋よ いつまでも~世界遺産・知床の  $\bigcirc$ 老漁師~」(総合 後 6:05~6:38) を見た。これは、8月4日(金)の北海道クローズ アップ「ヒグマを叱(しか)る男~世界自然遺産と漁師~」の取材を元に、再構成 した番組だと思う。同じ素材でもどういう意図で制作するかによって、見え方が全 く異なることに驚き、興味深く思うと同時に、メディアの持つ力の怖さを改めて感 じた。「にっぽん紀行」では、ヒグマ番屋での半年を追う構成となっており、個人的 には「北海道クローズアップ」よりもおもしろかった。案内人の加藤登紀子さんが 番組に自然に溶け込んでおり、音楽もとてもよく、全体的にブラッシュアップされ た印象を受けた。「北海道クローズアップ」では「働ける限り伝統の漁を続けていく」 という終わり方だったのに対し、「にっぽん紀行」では高速船を購入しており、話が 違って混乱した。番屋で最年少の吉田篤弘さんについても、「北海道クローズアップ」 と異なる描かれ方をしていて、同じ期間に取材したはずなのに事実関係がぶれてい るのは、作り手として不誠実ではないかと思った。また、これからヒグマ番屋がど うなっていくのかがはっきりとわからなかったので、もやもやした。しかし、ヒグ マ番屋の昔から変わらない暮らしぶりは胸に迫った。いずれなくなってしまうかも しれないヒグマ番屋の風景を残したことについても、とても意義があったと思う。

### (NHK側)

同じ素材を使って別の番組を制作するときには、恣意(しい)的な取り上げ方によって事実と違うものが見えることがないよう、肝に銘じるべきだと考えている。やり方に不足があったという指摘を厳粛に受け止め、今後の番組制作に生かしていきたい。

○ 私もテーマが変わった影響もあるとは思うが、同じ映像を使っているのに、内容が異なっている部分があり、違和感を覚えた。自然に寄り添うというスタイルは大事に守り続けながらも、変わらざるを得ない部分もあるのだと感じた。そしてこのテーマはこれからどんどん突きつけられてくるのではないかと思った。ヒグマ番屋

の漁師である大瀬初三郎さんへのインタビューで、とても険悪な雰囲気になってしまう場面があった。あのシーンは本当に必要だったのか疑問に思った。リアルさはあったが、見ていてとてもドキドキした。また、質問の言葉があまりにもストレートで、デリカシーがなかった。最後の部分で、「今年の漁を終え、番屋を離れることになった」に続いて、「時代とともに使われなくなる番屋。それでも番屋を板で覆い雪やヒグマから守ります」というナレーションがあったが、シーズンが終わったから離れるのか、それとも本当に番屋を畳んでしまうのかがわからなかった。

# (NHK側)

インタビューについては、あえて放送した。効果的ではなかったという指摘については制作担当者に伝えさせていただく。

○ 11月4日(土)のブラタモリ「#89 洞爺湖」と11月25日(土)「#91 室 蘭」を見た。短い期間に同じ地方が取り上げられることはあまりないと思う。タモ リさんの知識の豊富さ、見識の高さを改めて感じた。それぞれの土地の魅力を再発 見することができた。

## (NHK側)

基本的には、1つの地域に対して2か所を取材し、番組にしている。

- 11月17日(金)北海道クローズアップ「樺太 悲しみの大地 72年目の遺骨 収集」を見たが、非常によい番組だった。しかし、結果的に1体の遺骨も収集できなかったにも関わらず、このようなタイトルになっていることに違和感を覚えた。本来であれば国が行うべき事業を民間で行っており、さらに樺太出身の高齢者に委ねられている現状と、戦後72年間放置されてきたもどかしさを強調するタイトルであるべきだったと思う。番組のタイトルは視聴するかどうかの動機づけとなるものであるから、今後も工夫してほしい。
- 11月25日(土)北海道LOVEテレビ 美の壺「北海道の駅」(総合 前 11:20 ~11:49 北海道プロック) を見た。駅を見ることで、その地方の歴史がわかるというのが非常に興味深かった。北海道のさまざまな駅を巡ってみたいと思った。
- 12月4日(月) 鶴瓶の家族に乾杯「内山理名と愛知県瀬戸市ぶっつけ本番旅」について、ゲストの服装が気になった。瀬戸市に行くのであれば、窯元を訪ねることは当然想定できたにも関わらず、ひらひらとした服を着ていて非常識だと思った。番組側が選んだ衣装なのか、出演者が選んだ衣装なのかはわからないが、服装につ

いてもっと配慮すべきだと思った。

○ 12月11日(月)「ニュース シブ5時」の「お仕事図鑑」というコーナーで、 白糠町の親子が取り上げられていたが、彼らは道が運用する安心安全なエゾシカ肉 を推進するための、エゾシカ肉処理施設の認証を受けていなかったと思う。人選と 内容について、道のエゾシカ対策課に問い合わせや取材などを行ったのか教えてほ しい。

12月11日(月)にプロフェッショナル 仕事の流儀「独り、山の王者に挑む~猟師・久保俊治~」の再放送を見た。厚生労働省のガイドラインで野生鳥獣の生肉摂取について注意喚起されているにも関わらず、生のシカ肉を食べている映像が注釈なく流れているのはよくないのではないかと4月の番組審議会でお伝えした。しかし、今回の再放送で意見が反映されることはなく、何の注記もなかった。今後の対策をお願いするとともに、なぜ反映されなかったのかをお聞きしたい。

## (NHK側)

「ニュース シブ 5 時」で取り上げた親子が、道のエゾシカ肉処理施設の認証を受けているかどうかについて、制作担当者に確認する。「プロフェッショナル 仕事の流儀」に関しては、制作担当者に番組審議会での意見をすでに伝えている。今回の再放送において、なぜ意見が反映されなかったのかについては改めて確認する。

#### (NHK側)

重要な指摘だと感じている。重く受け止め、速やかに確認する。

- 報告が行われていたにも関わらず、対応されていなかったことに驚いている。N HKは公共放送という立場上、規範を示す姿勢が重要だと思う。
- 視聴者はそれぞれに番組を解釈すると思うので、シカ肉は生で食べるのが一番おいしいと思ってしまう可能性もある。基準についてお伝えすることは必要なことだと思う。
  - 12月12日(火)の「ごごナマ」について、横浜赤レンガ倉庫のクリスマスマーケットを紹介していたが、リポーターの態度がとても失礼だった。
  - 12月15日(金) Wild Hokkaido!「小樽の海」(総合後8:25~8:44 北海道プロック)の再放送を見たが、身近な観光地である小樽の知らなかった魅力が引き出されていて、とてもよかった。最初のほうで、シャーロット・ケイト・フォックスさんが小樽を「札幌の北西」と英語で正しく紹介していたが、日本語の

テロップが「北東」になっていた。

## (NHK側)

「ごごナマ」のリポーターについて、非常に重要な指摘だった。最近はフレンドリーであろうとするあまり、基本的なところを軽視する傾向がないとは言えない。リポーターとしての基本的な礼儀を保つよう、改めて制作担当者に伝える。

# (NHK側)

「Wild Hokkaido!」の「北西」と「北東」の誤りについては、確認する。

- 12月17日(日) 俳句王国がゆく「北海道北見市」(Eテレ 後2:30~3:29) をとても楽しく見た。地元密着の番組で、季節に合った話題を取り上げていてよかった。
- 「ほっとニュース北海道」で、JR北海道の赤字路線見直し問題について、さまざまな動きが報道されていて、非常によかった。特に、「存廃の方向性を1年以内に出すべき」という第三者委員会の期限を示す動きに対して、番組の中で路線見直しの状況を解説し、自治体首長の声を紹介した上で、問題として本質的な議論に至っていないことを指摘していたのが、すばらしかった。また、JR北海道再生推進会議の宮原耕治議長へのインタビューで、道のリーダーシップや、今後の縮小社会を見据えた全国の先例になるケースであるという姿勢が伝えられており、改めてこの問題を考える視点が提示されたと感じた。また、道が市町村の理解を得られるのか、国の支援を引き出せるのか引き続き取材を行ってほしい。

11月22日(水)の「ほっとニュース北海道」で、室蘭工業大学が博士課程の大学院生の就職を後押しする取り組みを紹介していた。大学院の修士課程や博士課程は、学士課程と比べて取り上げられることが少ないので、現状を理解するよい機会だと思った。1点気になったことは、「大学院で学ぶドクター」という表現があったが、ドクターは博士課程を学び終えて博士になった人のことなので、適切ではなかったと思う。

# (NHK側)

JRの問題は、地域の足である公共交通がどうなるかという非常に重大な 案件なので、継続取材したいと考えている。室蘭工業大学の「大学院で学ぶ ドクター」という表現についてだが、「大学院で学ぶ学生」など言いかえる ことができたと思うので、指導を徹底する。

NHK札幌放送局 番組審議会事務局

# 平成29年11月NHK北海道地方放送番組審議会

11月のNHK北海道地方放送番組審議会は、15日(水)、NHK札幌放送局において、 10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、北海道クローズアップ「滅びゆく命のバトン~は虫類 動物専門員本田直也~」をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、12月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告が行われ、会議を終了した。

# (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

副委員長 豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

委 員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

嘉指 博行 (北海道新聞社論説委員)

齋藤 拓也 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)

中田久美子 (東海商事株式会社 取締役社長)

蛭田亜紗子 (小説家)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村木 秀雄 (いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポートステーション総括コーデ・ィネーター)

### (主な発言)

< 北海道クローズアップ「滅びゆく命のバトン~は虫類 動物専門員 本田直也~」 (総合 11月3日(金))について>

○ 私は、は虫類にあまり興味がないので、もしこれが視聴指定番組でなければ、このタイトルだと視聴しなかったと思う。例えば、タイトルに「円山動物園」と入っていれば、視聴する人が増えたのではないかと思う。番組を見ると、このタイトルにした理由はよく理解できた。しかし、より多くの視聴者に見てもらうためには、タイトルをもう少し工夫したほうがよかったのではないかと思う。また、番組が一人称の語りで進められていたが、最初誰なのかわからなかった。ぼくとつとした職人かたぎな動物専門員の本田直也さんの雰囲気と、語りの小林エレキさんの雰囲気が異なっていたが、語りが少年時代の本田さんが話しているようで好感を持った。音楽と語りもよく合っていた。途中で何度か帽子が空を飛んでいる映像が流れたが、

意図がよくわからなかったので、なくてもよかったのではないかと思う。番組そのものは、とてもよかった。本田さんの人柄がすばらしく、言葉の一つ一つが印象に残った。本田さんが、「あと何種類の動物の繁殖をすることができるのか、時間が足りない」と話しているのを聞き、農家の人たちが同じように「あと何回、畑を耕すことができるのか」と言っていたのを思い出した。1つのことに精通した人は同じ境地にいくのだと感じると同時に、自分も時間を大切に生きていかなければならないと思った。本田さんの兄、本田育也さんが出演していたのもよかった。家族が温かく支えているのだとわかり、非常にほほえましかった。この番組のすばらしかったところは、個人に焦点を当てながらも、動物園の存在意義について、強いメッセージを示したことだと思う。円山動物園はさまざまな問題があったので、この番組でよい面が取り上げられ、うれしく思った。ぜひ、引き続き取材するとともに、広く全国に発信してほしい。

- 私自身は、は虫類に関心があり興味深く見たが、は虫類が苦手な人はあまり見たくない映像が多かったと思う。しかし動物園のバックヤードで行われている繁殖の作業について、知る機会、見る機会はほとんどないので、番組を通して、とてもユニークで実績のある動物専門員が円山動物園にいることを始めて知ることができ、よかった。動物を飼育し見せるだけでなく、繁殖させて、なくなりゆく種をつなぐ役割を果たそうとしているのを知り驚いた。コミュニケーションの難しい、は虫類の繁殖に成功しているのは、しっかりと観察し、よく調べて考えているからなのだと、番組を通してよくわかった。また、兄の育也さんが語っていた内容も印象的で、本田さんが動物専門員として活躍しているのは、家庭環境の力も大きかったのだと思った。一人の人物に密着し、その人となりを見せるという手法がとてもよかった。欲を言えば、北海道が直面する課題を取り上げる「北海道クローズアップ」で扱うのであれば、この活動が北海道にとってどのような意義があるのかを示してほしかった。
- 私自身は子どものころ動物が苦手だったので、本田さんが子どものころから、自分の部屋でさまざまな動物を飼っていたという話を聞いて、とても驚いた。家族のあり方や、仕事とは何か、小さいころから本当に好きだったものを一生の仕事にできた人がどれだけ幸せなのかが、とてもよく伝わってきた。本田さんが話していたことは、動物を飼育するうえでだけでなく、人生論や仕事論としても興味深かった。また、動物園というと、パンダなどがよく取り上げられるが、は虫類などあまり目立たない動物たちを飼育する意味について知ることができ、とてもよかった。語りに違和感はなかったが、帽子のシーンは少しメルヘンチック過ぎだと思った。それならば、帽子のシーンの代わりに、ひと言でも多く本田さんの言葉を聞きたかった。

いずれにしても、とてもよかったので、全国の人にも見てほしい。

# (NHK側)

番組を一人称の語りにすることについては、とても迷った。この番組は、 「北海道クローズアップ」での放送ということで、当初は、動物園の存在意 義や、は虫類の生息地の減少についてなど、ジャーナルな視点で制作する予 定だった。しかし、実際に取材を行い、本田さんの個性と魅力を伝えたいと いう思いが強くなり、方針を変えた。また、祝日での放送ということで、家 族で見てほしいと思い、物語形式にした。帽子のシーンについては、裏テー マをタイムマシーンとしており、タイムマシーンであの帽子とともに本田さ んの少年時代に時系列が移動していくイメージだった。「北海道クローズア ップ」で、このような物語形式の番組を放送することについては、現場でも 議論を重ねたが、本田さんの個性を最も効果的に伝えるためには、この形式 が適切だと判断した。ただ、地球が今、大絶滅時代にあり、その中で動物園 がどのような存在意義を果たしていくのかという大きなテーマについては、 しっかりと伝えるべきだと考えた。かつて、円山動物園ではマレーグマが死 亡する事故があり、北海道クローズアップ「動物の事故死をどう防ぐ~円山 動物園 改善計画~」(総合 2015 年 10 月 16 日(金) 後 7:30~7:55 北海道 ブロック)で取り上げた。この番組を担当したディレクターが今回の番組も担 当している。この番組では、円山動物園のマイナスの部分について取り上げ たので、ぜひ別の形で円山動物園について番組を制作したいと取材を継続し、 今回につながった。家族との関係については、取材をするなかで、本田さん の少年時代が非常に興味深かったので、追加で取材を行った。また、祝日と いうことで、動物園の存在意義だけでなく、仕事や子育て、家族というテー マについても伝えたいと思った。放送後、子育てをしている母親からの反響 が多かったと聞いている。

○ 動物園はただ動物を展示するだけでなく、生物の多様性を守るという意義を最近特に帯びてきているように思う。なぜ元の場所に戻すことができないのに、遠く離れたアフリカの生物を日本の動物園で保護して繁殖させるのか、それが生態系の何に寄与するのか、疑問に思う人もいると思う。それは今回のテーマではなかったが、そのようなことを考える一助にもなったのではないかと思った。全体として非常に引き込まれる番組だった。本田さん1人にスポットを当てたのはよかったと思う。音楽も番組と合っていて、かっこよく仕上がっていた。ただ、帽子の場面については、先ほど説明にあった、タイムマシーンという意図は全く気づかなかったので、少し違和感を覚えた。番組の最後で、「好き」というだけでなく、自分にできること

に対して最大限よい結果を出そうという思いでやっているという本田さんの言葉を聞き、自分の人生に照らし合わせて、考えさせられるものがあった。

- とても面白い子育て論、教育論になっていると思ったので、母親から反響が多かったと聞いて、納得した。AIの発展など、これから社会が変化していく中で、教育のあり方も変わってくると思う。どのように育てれば、本田さんのような突出した才能の持ち主になるのか興味深かった。兄の育也さんの話を聞いて、家族が無理やり型にはめることなく、見守っていたから、本田さんが才能ある人に育ったのだと思った。これからの教育のあり方についての問題提起になっていたと思う。一つ気になったのは、どうして本田さんは、は虫類が好きになったのかということだ。ほかにもさまざまな動物がいる中で、なぜは虫類に興味を持ったのか知りたかった。また、本田さんがどのようなところで幼少時代を過ごしたのかも教えて欲しかった。一人称の語りは、若々しい声で、夢の途中という感じがしてよかった。また、見せ方がとても工夫されていたと思う。私は、は虫類がとても苦手なのだが、全く嫌な気持ちになることなく、すっと見ることができた。番組の後半で、ベーレンパイソンという蛇が出てきたが、そのときには美しいと思うほどだった。
- 本田さんがとても魅力的に紹介されており、は虫類を深く愛していることが伝わ  $\bigcirc$ ってきて、とても引き込まれる番組だった。動物の命のバトンをつなぎたいという 本田さんの使命感から、絶滅危惧種の問題が自然と提起されていた。また、本田さ んの言葉がとてもよかった。音楽もとても合っていた。私も、は虫類が好きなのだ が、特にベーレンパイソンが美しかった。円山動物園というと、私はマレーグマの 事件が真っ先に頭に浮かんでしまい、あまり冷静な気持ちで見ることはできなかっ た。今回の、は虫類・両生類館の人たちとは直接に関係はないかもしれないが、何 らかの言及があってもよかったのではないかと思う。マレーグマの事件について、 動物園の内部の人の意見を聞いてみたかった。語りについて、本田さんの声と語り の人の声の雰囲気がとても異なっていて、慣れるのに時間がかかった。もう少し声 が近い人を語りに選んだほうがよかったと思う。しかし、一人称の語りそのものは モノローグ風で、とても情緒があった。成田の税関で保護されたヒラタヤマガメを、 一度冬眠させて生き延びさせたという話がとてもおもしろく、飼育の工夫や苦労に ついて、もう少し知りたかった。また、本田さんはたか匠の資格を持っており、そ のことについても自分の考えをしっかりと持っている。本田さんについての番組を 別の機会にすることがあれば、ぜひその話も聞きたい。繰り返しになってしまうが、 私は一連の動物の死亡事故の報道が出てから、円山動物園の印象が悪くなり、行か なくなってしまった。円山動物園がどのように変わっていこうとしているのかを紹 介する番組も見てみたいと思う。

# (NHK側)

動物を保護して最終的にどうするのか、ということだが、一度日本に入っ てしまうと、伝染病の問題などがあるので、二度とふるさとに戻すことはで きない。しかし、生態がほとんどわかっていない生物について調べることが でき、種として根絶せずに守ることできる。本田さんは今後、この飼育の技 術や生態を現地の飼育員に伝える取り組みを行い、本来の生息地の環境改善 や、繁殖の促進につなげようとしている。全国放送の話が何度か出たが、こ の取り組みなども踏まえて、いつになるかはわからないが、次の番組を制作 できないか検討している。なぜは虫類を好きになったのかという質問だが、 本田さんは北海道で生まれ、幼少期、野山で捕まえられる虫や両生類、は虫 類が好きだったそうだ。また、は虫類や両生類は環境に適応するために極限 まで特定の機能を研ぎ澄ますため、環境が変わるとすぐに死んでしまう、と ても弱い生物なのだと本田さんが言っていた。その「もろくて美しい」とこ ろに、大人になってからみいられたそうだ。当初はこの話もしようと思って いたが、物語形式にした段階であえて取り上げないことにした。マレーグマ の話については、今回は25分という番組の中で、何を伝えるのかを検討し た結果、あえてそのことには触れず、本田さんの物語に集中しようというこ とになった。しかし、マレーグマの話が少し入ることによって、本田さんの 取り組みの意味合いが深まったかもしれない。今後の参考にさせていただく。 たか匠のシーンも撮影していたが、今回はあえて放送しなかった。語りと本 田さんの声のギャップについては、かなり議論した。今回は、あえて声の質 を変えることで、どちらも一人称であるインタビューと語りをはっきりと仕 分けて聞くことができるのではないかと思った。飼育の工夫についてだが、 両生類やは虫類の生活サイクルは、私たちが想定している番組制作やロケの スケジュールと全く違っていた。例えば、カメの卵がかえるかどうかは2か 月後かもしれないし、あしたかもしれない。そのため、本当はアメリカドク トカゲの卵がかえるところまでを放送したかったのだが、それはできなかっ た。そのために飼育の工夫について、あまり番組で取り上げることができな かった。

○ 子どものころからの夢を一貫して追い続けた本田さんと、それを支えた家族に驚きを感じた番組だった。普通であれば、子どもがは虫類や両生類を飼おうとすれば、親は反対することが多いと思う。家族の理解があって、今日の本田さんがあるのだと思った。兄の育也さんが本田さんの幼少時代について話していたが、母の敬子さんの話も聞いてみたかった。また、動物園というと、飼育した動物を多くの人に見

せることが目的だと思っていたが、絶滅危惧種を救う役割を担っていると知ることができ、非常によかった。成田で保護された、衰弱したヒラタヤマガメを、冬眠させることで救った話を聞き、経験があってこその発想がすばらしいと思った。動物園は派手な面と地味な面があると思うが、その地味な面に関心を持つ、よいきっかけとなった。また、音響効果が今までになくすばらしかった。

- 私も、は虫類が苦手なのだが、見てよかったと思う。一人称のナレーションもすばらしく、育也さんの深い言葉もよかった。このような家族だから、本田さんのような人が育つのだと思った。しかし、画面の右上の「円山動物園」という文字を見ると、一連の動物の死亡事故のことを思い浮かべてしまったので、私はあまり「円山動物園」と出さないほうがよかったのではないかと思っていた。しかし、今までの話を聞いて、その意図がよくわかった。また、帽子のシーンについてだが、私も意図がよくわからなかった。タイムマシーンのイメージということだが、全く思い浮かばなかったので、不思議に思った。アメリカドクトカゲの卵がふ化したのか気になったので、教えてほしい。何度か、スタッフの質問が聞き取りにくいところがあった。答えている人の声は聞き取れるのだが、質問しているスタッフの声は紛れてしまって聞き取りづらかった。何を尋ねているのかがわからない状態で、答えを聞いてしまい、どちらも中途半端になった。もう少し、質問する人の音声にも配慮が欲しかった。
- 私も小さいころに、コウモリやカラスを飼っていたのだが、ネズミを捕まえて家に持ち帰ったときに、姉に怒られたのを覚えている。本田さんの家族の話を聞いて、家庭環境の影響は大きいと思った。本田さんの言葉と語りと音楽の雰囲気がとても心地よく、よい印象を持って見た。本田さんの言葉の一つ一つに、はっとさせられた。限りある時間の中で、限りある命に真剣に向き合っている本田さんだからこその、重みと奥の深さを感じた。また、日常生活で、「絶滅危惧種」について考える機会はあまりないと思う。番組の中でヒラタヤマガメが絶滅に追い込まれていった経緯が紹介されていて、人間社会と環境のつながりについて、考えるきっかけとなるのではないかと思った。1つ気になったのは、番組の終わり方で、唐突な感じがした。これで終わりなのかと驚いてしまう終わり方だったので、もう少し工夫したほうがよかったと思う。
- 私もあまり動物に興味はないが、身近な動物園にこんなにすばらしい飼育員がいたと知ることができ、思わず引き込まれるように楽しく番組を見た。本田さんの幼少時代のエピソードや、兄の育也さんの話、妻の明理さんの証言を交えての番組構成は、本田さんの実直さ、生き物に対しての愛情の深さを伝えるうえで、とても効

果的だった。ただ、職場での本田さんがどのような人なのか伝えられていなかったので、同僚や上司から話を聞いてもよかったのではないか。また、は虫類が滅びていく原因が、乱獲なのか、環境破壊なのか、因果関係の説明が乏しく、説得力に欠けていたように思う。落ち着いた語りは、番組の雰囲気と合っていてよかった。カメの体内に卵があるのか調べる機械が出てきたが、動物園にこうした近代的な装置が常備されているのだと知り、驚いた。最後に、私も帽子の場面については、脈絡がなく不要だと思った。タイムマシーンということだったが、意図が伝わらなかったのであれば、試みとしては失敗ではないかと思う。今後は、もう少しわかりやすい工夫を期待する。

### (NHK側)

まず、アメリカドクトカゲの卵については、まだふ化していない。スタッフの質問が聞き取りづらかったという指摘については、そのとおりだと思う。基本的にマイクは取材対象者に向けており、質問するディレクターの声は使わないことも多いので、クリアに音がとれていなかった。テロップで補足はしていたのだが、質問内容が明確でないとわかりにくいこともあると思う。今後の参考にさせて頂く。番組の終わり方については議論したのだが、本田さんのとらえどころのない魅力と個性を印象づけるために、あえてあのようなインタビューを最後に使用した。職場内での評価については、本田さんの実績や、動物園の世界でどのような位置づけなのか、表現するのが難しかった。しかし、意見を伺って、周りの人にインタビューをすれば、客観的に本田さんの位置づけを示すことができたと反省している。絶滅に追い込まれた理由については、ヒラタヤマガメは食用に乱獲されたのが1番の理由だが、種類によって経緯はさまざまである。今回は時間の関係もあり、網羅的にはお伝えしなかった。

○ タイトルと内容にギャップを感じた。親子で見てほしかったと言っていたが、「は 虫類」とタイトルに入っている時点で、多くの母親は敬遠すると思う。さらに、こ の硬いタイトルでは、子どもたちは見ようとしない。もう少し、タイトルを柔らか い感じにしていれば、広く見られたのではないかと思う。タイトルを「滅びゆく命 のバトン~は虫類 動物専門員 本田直也~」にした理由を教えてほしい。

### (NHK側)

かっこいいタイトルをつけたくなるのは、制作者の悪いところだと思う。 私たちがタイトルを決めるときに1番に考えるのは、番組のテーマが何なの かということだ。今回のテーマは、動物園の存在意義を本田さんの人生を借 りて語るということだった。そのためこのようなタイトルにしたが、家族に見てもらうためには、わかりづらかったかもしれない。新聞の番組表では、多くの人に見てもらうことを意識して、「円山動物園」というキーワードを入れていた。

○ タイトルは番組のことを知る最初の情報源なので、どのような番組なのか想像する大きな要因となる。「滅びゆく命のバトン」と聞いて、とても壮大なテーマだと思ったので、個人に密着するタイプの番組だとは思わなかった。そのため、タイトルの印象と番組の内容にギャップを感じた。

# <放送番組一般について>

- 11月3日(金) 北海道スペシャル「知られざるシャチの楽園〜知床羅臼〜」(総合後8:00〜8:43 北海道ブロック)を見た。シャチについての知識は全くなかったが、多様な視点の映像と、専門家の人の適切なコメントに、とても引きつけられた。子どもと一緒に見たが、妹は映像に興味を持ちながらも、途中で飽きてしまったのに対し、姉は食い入るように見ていた。すばらしい映像が多かったので、子ども向けに「ダーウィンが来た!生きもの新伝説」など、全国放送でも取り上げてほしいと思った。羅臼に住む友人から、番組の感想を聞いたので紹介する。今までに見た羅臼のシャチ特集とは、一線を画していた。映像はもちろん、調査メンバーも精鋭だとわかった。すばらしかっただけに、北海道ブロックでのみの放送ということが残念だ。これから魚に頼ることのできない羅臼にとって、シャチは羅臼の活性化につながる、非常に重要な存在だ。世界的に見ても貴重な瞬間が収まった番組だと思うので、ぜひ全国放送してほしい。
- 世界屈指の密度で羅臼にシャチがいることは全く知らなかったので、本当に興味深く見た。ドローンを使っているのだと思うが、今まで見ることができなかった角度からの映像を見ることができ、迫力を感じた。ただ、ナレーションで「奇跡の光景」とか「奇跡の大群」と言っていたのだが、「70頭から80頭ぐらいの群れを見たことがある」と聞いたあとで、26頭の群れを「奇跡」と言うと、もの足りない感じがした。映像自体はすばらしかったので、ナレーションを盛り過ぎたために、そのような印象を与えてしまったと思う。十分に魅力ある映像だったので、もう少し冷静に語ればよかった。日本でもトップクラスの研究者の人たちが船に乗っていたが、NHKが番組を撮るということで集まったのか、それとも研究があるのを知

って番組を制作することにしたのか教えてほしい。例えば、深海に入って狩りをする映像など、ほかにも撮るべきものがたくさんあると思うので、ぜひ第2弾を制作し、より多くのことが解明されることを期待している。

# (NHK側)

企画が始まったのは、昨年の11月ごろで、約1年をかけて、ようやく番 組を放送することができた。「奇跡の大群」が盛り過ぎではないかという意 見だが、率直に反省したいと思う。しかし、4Kドローンという新たな技術 を用いて、あれだけ克明に撮れたのは世界でもほぼないということで、つい つい「奇跡」と表現してしまった。今後はコメントを書く際に注意する。全 国放送としては、11月23日(木)の「NHKニュース おはよう日本」で 取り上げる。また、1月2日(火)には「恋するシャチの物語」(BSプレミアム後 7:30~8:59) が放送される。羅臼の海では、冬に流氷がやってきて、オホー ツクやアムール川などから栄養分を運び、アイスアルジーというさまざまな 動物プランクトンのえさとなるものを生み出していく。流氷を含め、羅臼の 四季折々を取り上げながら、番組を制作したいと考えている。また、来年も 引き続き取材し、シャチが深海で何を食べているのか、それを映像に撮りた いと思っている。来年の挑戦として、シャチに吸盤で取り付けるカメラを4 Kにしようと検討している。NHKと研究者の関係についてだが、基本的に は研究チームが羅臼に入って研究するのに、同乗させてもらった。撮影につ いては、相談しながらNHKで工夫して行った。

- 小さい画面で見たことを後悔している。映像を楽しむ番組だったので、大画面で 見るべきだった。大群については、私もとても驚いた。
- わからないことがこんなにおもしろいということに驚いた。とても賢そうな研究者の人たちが出てきて、謎が解明されるのかと思いきや、結局わからないことが多かった。しかし、それが全く消化不良にならない伝え方に、とても感心した。映像がとてもきれいで、北海道の新しい魅力を発信することができたと思う。また、私は研究者が使っている道具に興味を持った。何百メートル下の深海も撮れる、とても高度な機械なのに、回収するためには地道に探さなければならないのがおもしろかった。
- 生態のごく一部がようやく見えてきたという段階だと思うので、来年以降の研究 も追ってほしい。制作担当者はもっと大きな発見を期待していたのだと思う。番組 のあおりと実際の成果にギャップを感じた。結局シャチにつけたカメラで捕食シー

ンを撮影することはできず、交尾についても確証は持てなかったので、次回に期待している。ドローンの映像は、とてもきれいでよかった。ドローンのおかげで、テレビの映像のレベルは飛躍的に向上したと思う。また、今回は研究者グループの調査船を追っていたが、地元の漁師や観光船の関係者など、ふだん羅臼のシャチに接している人たちの話も聞きたかった。いつからシャチが現れるようになったのか、シャチと共存していく中での問題点や漁業への影響など、地元の人の視点で掘り下げてもよかったのではないかと思う。

# (NHK側)

今回は研究者の人たちに密着したが、意見のとおり羅臼の人たちもさまざまな情報を持っている。今後、地元の人から聞いた情報や、シャチが羅臼の人たちにとって、どのような存在なのかについても、番組にうまく取り入れていきたい。

- 北海道に、シャチが集まる世界屈指の場所があることに驚くとともに、シャチが 羅臼に集まる謎について興味深く見た。今後、さまざまなシャチの謎について解明 されていけば、知床あるいは羅臼の知名度がより上がるのではないかと思った。ま た今回、ドローンを使って今までにない映像が撮られており、生態系を解き明かす うえで、大きな進歩となるのではないかと思う。ドローンについて、あれは大学が 持っているものか、それともNHKのものなのか教えてほしい。今後も取材を続け、 より貴重な映像を撮ることを期待している。
- 冒頭を見て、もっと謎が解明されるのだと思ったので、最終的に何も解明されないことに少し不満を感じた。しかし、シャチ26頭が1列になっている迫力ある映像や、疑似性行動の珍しい映像などはとても楽しめた。これからの取材で、謎が解明されることを期待している。
- 映像のスケールと、研究者の興奮度合いから、この映像が世界的に貴重であること、調査がシャチの生態を解明するうえで重要なものであることが伝わってきた。 糸井羊司アナウンサーの語りが、いつもの落ち着いた雰囲気とは違い、軽快で抑揚 のある感じで番組と合っていた。また、26頭でもとてもスケールが大きく見えた ので、80頭という数字には誤りがあるのかもしれないと思った。「知られざるシャ チの楽園~知床羅臼~」というタイトルだったが、ほかの場所とは違う、羅臼固有 のシャチの生態があるのかどうかが気になった。

#### (NHK側)

ドローンの撮影についてだが、ドローン撮影にたけた会社と協力して、一緒に行っている。ドローン操縦のエキスパートに来ていただき、そこにNH Kの映像取材のチームが入って、相談しながら共同で撮影した。なお、国土交通省への手続きと局内の手続きを行い、安全性に配慮して撮影を行った。それから、シャチの群れについては80頭、中には100頭の群れを見たことがあるという証言が地元にはある。しかし、映像が撮影できたことはまだない。今年は26頭が限界だったが、来年は証言にあるような頭数の群れを撮影したい。

- Wild Hokkaido!「知床 ヒグマ暮らす渚」(総合 11月4日(土)前 11:00~11:19 北海道プロック)と「羊蹄山 夏」(総合 11月11日(土)前10:50~ 11:09 北海道プロック)を見た。どちらの番組も、北海道の大自然を見事に映し出していて、圧倒的な映像美があった。ほとんど英語なのが新鮮で、英語を学ぶのにも役立つと思う。先日、仕事でフィリピン、香港に滞在していたが、現地の人たちは北海道に憧れを持っており、1度は訪れてみたいと言っていた。それを聞いて、このような番組を通して、海外の人が北海道を知り、インバウンドにつながっているのだと確信した。これからもぜひ、北海道の魅力を全世界に向けて発信してほしい。
- 私も「羊蹄山 夏」を見たが、映像がとてもきれいなのに、作りがとても単調な気がした。あれだけすばらしい映像があるのだから、もう少し構成を工夫すれば、外国の人にもより興味を持ってもらえるのではないかと思った。とても美しい山頂の映像があったのだが、「山頂の雪どけ水が数十年かかって、湧き水となる」と言っていた。ならば、羊蹄山の伏流水が湧出する「ふきだし公園」の映像とつなげて、飲んでいるのが、頂上にあった水の何十年後の水だとわかれば、神秘さが伝わると思う。本当にきれいな映像だったので、作り方に工夫が足りなかったことが残念だった。

### (NHK側)

「Wild Hokkaido!」は、過去に制作した「さわやか自然百景」を使用しており、「さわやか自然百景」の部分はほとんど編集していない。意見のとおり、「ふきだし公園」とリンクさせれば、わかりやすく、魅力的な構成になったかもしれない。今後の制作の参考にさせていただく。また、英語の勉強にも役立つという意見については、大変うれしく思う。制作担当者にも伝えさせていただく。

○ 11月5日(日) うまいッ!「ほくほく感&甘み!北の名品"ゆり根"~北海道幕

別町~」は、国内産のゆり根の 99.8%が北海道で生産されていることなど、知らなかったことばかりで驚いた。ゆり根を使った料理がいくつか登場したが、素揚げ以外は具体的な作り方が伝えられておらず、残念だった。もっと身近にゆり根を食べてもらおうということであれば、料理の紹介だけでなく、作り方までしっかりと説明すべきだと思った。

○ ゆり根農家の紹介で「12ヘクタールの畑でゆり根を生産。毎年、およそ20万個を収穫している」と言っていたが、農業について全く知識がない人間であれば、「12ヘクタール全部がゆり根畑で、そこで20万個作っている」と思うかもしれない。「12ヘクタールの畑のごく一部でゆり根を生産している」ということをきちんと説明すべきだったと思う。また、ゆり根を白くするための方法として、水で洗うことが紹介されていたが、それだけではゆり根は白くならない。ゆり根を白くするためにはとても手間がかかっている。そこをもっとしっかり伝えてほしかった。

## (NHK側)

レシピの紹介が素揚げしかなかったということだが、制作担当者に意見は 伝えさせていただく。12ヘクタール全部がゆり根畑だったのかと、水を流 しただけではゆり根は白くならないという意見については、これも制作担当 者に伝えさせていただく。

○ 10月29日(日)の小さな旅 山の歌・秋「神々遊ぶ庭で〜北海道 大雪山国立 公園〜」を見た。初めて番組を見たが、懐かしい感じがした。非常に美しく、見応 えのある映像で、一緒に登山をしているような気持ちになった。番組の中で、ヒグ マについて語っており、「大雪では植物がヒグマの主食」であると話していた。私は そのことを初めて知ったのだが、地域によってヒグマの主食が違うのかどうか気に なった。また、番組の中で、人を紹介するとき、名前と年齢が出ており、いつも年 齢を紹介していただろうかと思った。どの番組でも年齢を伝えているのかどうか教 えてほしい。

### (NHK側)

ヒグマの食べ物は、季節によって異なるが、植物が多く、冬眠前にはサケなどの動物性たんぱく質を取る。

### (NHK側)

年齢についてだが、番組によって出すかどうかは異なっていると思う。その人を紹介するうえで必要だと判断した場合には、出している。確かに年齢

に対して、外見が若いと違和感を覚えて、番組に入り込めないことがあるので、そのようなことも考慮しながら判断している。

○ では、同じ番組であっても、人によって、年齢を出すときと出さないときがある のか。

### (NHK側)

年齢を出すか出さないか、一律に決まっているわけではない。

### (NHK側)

本人が年齢を出すということを望まないこともあるので、そのような場合は控えている。今回は年齢も大事な情報ということで、本人の了解を得たうえで紹介した。

○ 11月4日(土)の北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ 「今日はとことん!安平町」(総合 前 10:05~11:00 北海道ブロック) について、司会 を務めている藤岡みなみさんが今回はお休みしており、もの足りなさを感じた。や はり藤岡さんがいたほうがこの番組はおもしろいと思う。先月の番組審議会で、「北海道中ひざくりげ」に対して、「機関車を動かす場面での説明がもっと欲しかった」 という意見が出ていたにもかかわらず、「穴場ハンター」の中で特に補足で機関車の 話題について触れることがなかったのが残念だった。

#### (NHK側)

機関車の動かし方について事実関係を説明すると、石炭をくべて動かしているのではなく、環境に配慮してコンプレッサーの圧力で動かして、ディーゼル車で後ろから押すという方法をとっている。やや複雑だったために、「穴場ハンター」では紹介しなかった。しかし、指摘のとおり、間に合うのであれば、今後は検討していきたい。

○ 11月4日(土) ブラタモリ「#89 洞爺湖」を見た。「ブラタモリ」というタイトルから、タモリさんが気の向くままに旅をするのだと思っていたが、ルートが決まっているようだったので、少しタイトルとの間にギャップを感じた。北翔大学の横山光さんが、落語をやっていたというだけあって、よい表情と語り口で進行しており、とてもおもしろかった。番組の中で、「断層崖」という言葉が出てきたが、タモリさんがすでに知っていたためなのか、説明があまりなかった。私は聞いたことがない言葉だったので、もう少し補足してもよかったのではと思った。洞爺湖に

はあまり訪れたことがなかったが、番組を通して、もっと見てみたいと思った。また、昭和新山の成長過程を記録した話は、とても興味深く引きつけられた。

### (NHK側)

今まで「ブラタモリ」で北海道を取り上げた回はいくつかあったが、今回は初めて札幌局が制作を行った。タモリさんはとても知識の深い人で、番組では先に答えを言ってしまうことも多い。知らない人にとってはもう少し詳しい説明が必要という意見は、制作担当者に伝えておく。

○ 11月5日(日)さわやか自然百景「北海道 朱太川」を見た。貝の化石から溶け 出す大量のカルシウムによって、独自の環境を有する朱太川の生態系を、14分と いう短い時間の中でコンパクトにまとめて伝えていた。構成もとても工夫されてお り、朱太川のすべての生物が生態系の中でつながっていることがよくわかった。

## (NHK側)

すべてがつながっているというテーマで制作を行ったので、その意図が伝 わってよかったと思う。

○ 11月7日(火)~9日(木)の「ほっとニュース北海道」で、JR北海道の中間決算と今年度収支見込みについて取り上げていた。2年連続100億円以上の赤字ということで、この問題を非常に早く取り上げていたのがよかった。これまで協調していた道の立場が変わったということを、わかりやすく解説していたのが印象に残った。また、北海道新幹線が札幌に延伸した場合に考えられる問題についても触れられており、現状と今後の問題を理解するのに非常に役立つと思った。しかし、重要なニュースであるのに、新聞の番組表で、JR北海道について伝えるということが書かれていなかったので、もったいないと感じた。

### (NHK側)

記者の取材で、この問題に対して道が踏み込んだ新たなスタンスを示す可能性があるということがわかっていたので、11月6日(月)の週に、集中的にJR北海道の現状と今後について伝えようと考えていた。その意図が伝わっていたことを大変うれしく思う。新聞での周知については、締め切りもあって、今回はそのことに触れることができなかった。間に合う場合には詳しく内容を伝えるよう努めている。JR北海道の問題は、これからが正念場だ。引き続き深く取材を行っていきたい。

- 11月10日(金)に再放送された、BS1スペシャル「サハリン残留 家族の歳月」(BS1 後8:00~8:50、9:00~9:49) を見た。資料提供がしっかりと表示されており、よかった。
- 11月12日(日)目撃!にっぽん「ショッピングモールの歌姫」を見た。たまたまテレビをつけたのだが、番組から歌声が流れてきた瞬間に涙があふれて、仕事に行かなければならないのに、ずっと見てしまった。本当に心をわしづかみにされた。再放送の予定があるのか教えてほしい。私は、この番組を香港で見たのだが、海外にこのようなすばらしい番組が発信されていることを、日本人として誇りに思う。これからも日本のすばらしい文化を世界に伝えてほしい。

出演していた半崎美子さんは札幌出身である。この番組は東京で制作が行われたのだが、札幌局でも、半崎さんの番組を制作したいと考えている。あの音楽、あの歌を聴いた人の多くが心を揺さぶられると思うので、ぜひ放送できるように努めたいと考えている。

## (NHK側)

先月の番組審議会で頂いた質問にお答えする。まず、10月13日(金)の北海道中ひざくりげ「故郷つなぐ SLのまち~安平町~」について、子どもたちのSLのスケッチがとてもうまかったが、SLを見学した際に下描きをして、教室で完成させたとのことだ。また、半月に1度のSLの公開時に見物客が映っていなかったという意見だが、実際には見物客がおり、時間の関係で割愛した。次に、10月7日(土)の北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ「今日はとことん!芽室町」(総合前 10:05~11:00 北海道ブロック) について、冒頭の野菜の詰め放題の値段は 300 円だった。制作担当者には、料金の紹介も検討するように伝えた。

NHK札幌放送局 番組審議会事務局

### 平成29年10月NHK北海道地方放送番組審議会

10月のNHK北海道地方放送番組審議会は、18日(水)、NHK札幌放送局において、 10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、北海道クローズアップ「北朝鮮ミサイル"新たな脅威"に私たちは」 をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、11月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告が行われ、会議を終了した。

## (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

副委員長 豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

委 員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

嘉指 博行 (北海道新聞社論説委員)

齋藤 拓也 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)

中田久美子 (東海商事株式会社 取締役社長)

蛭田亜紗子 (小説家)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村木 秀雄 (いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長)

山下 徹也 ((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)

## (主な発言)

< 北海道クローズアップ「北朝鮮ミサイル"新たな脅威"に私たちは」 (総合 9月22日(金))について>

○ 北海道に住んでいる人たちにとって、最も知りたいタイミングでの放送でよかった。扱いが難しいテーマだったと思うが、恐怖心をあおり過ぎず、しかし注意喚起も怠らず、さじ加減に気を遣って制作されていた。番組の中で「冷静に」という言葉が多かったことに、非常に好感を持った。津屋尚さんの解説がとてもわかりやすかった。画面下に視聴者からの質問が出ていたが、それに対しても適宜わかりやすく答えていた。しかし、ミサイルの高さについて、「宇宙空間の非常に高いところを飛んでいる」と言っていたが、もう少し視覚的にわかりやすく伝えてほしかった。実際にどれくらいの高さを飛んでいるのか想像がしづらかった。北海道は防災行政無線のない自治体が多いという話があったが、この問題に関しては、北朝鮮のミサ

イル発射時だけでなく、災害が起きたときにも重要だと思うので、今後も取り上げてほしい。ミサイル落下の際に、周辺の海域で水産高校の生徒たちが実習していたという話を知り、生徒も学校も大変だっただろうと思った。校長を取材することで、一般の人たちのミサイルへの思いがわかったのでよかった。冷静に事実を積み重ねて、どのように行動すればよいのかを教えてくれる番組だった。

- 私も放送のタイミングがとてもよかったと思う。津屋さんの説明もとてもわかり  $\bigcirc$ やすかった。ただ、「冷静に」という言葉に関して、途中まで好感を持ったが、あま りにもこの言葉の使用が多く、冷静になるとは具体的にどうすればよいのか、わか らなくなった。「出かけていいのかどうか悩んだ」という意見が出ていたが、これが 一般人の等身大の悩みだと思う。例えば、Jアラートが鳴ったことによる遅刻は、現 状では社会的に認められないのではないかと思う。そのような状況で、「冷静な判断」 の基準とは何なのか、よくわからなくなった。スタジオゲストとして出演した、東 洋大学教授の中村功さんが「被害の規模を想像できないことが不安をあおる一因と なっているので、被害の想定を国などが示すことが重要だ」と言っていたが、その とおりだと思う。中村さんは「国などが」と言っていたが、想定でかまわないので、 番組内でイメージ映像などを使って示すことはできなかったのかと思った。具体的 な被害の想定がなかったので、「冷静に」と言われても、よくわからなかった。水産 高校の校長が、「教育活動に影響が出ていることに非常に憤りを感じる」と言ってい たが、視聴者の意見を代表した言葉だと思った。特に学校など公的機関は、迅速に 対応する必要があるので、非常に大きな影響があるのではないかと思う。最後に、 番組の途中で二度、番組スタッフの人影が出てきたが、どうして映り込んでしまっ たのか説明してほしい。
- この番組の中で1番注目していたのは、Jアラートが鳴って数分後には北海道の上空をミサイルが通過するという中で、短時間での避難のあり方、あるいは情報伝達について、どのように取り上げるのかということだった。これに関して、極端に言えば、不安をあおる一面があったのではないかと思っている。さらに、この番組がミサイルの問題に対して、効果があったのか疑問である。水産高校の生徒たちが乗っていた実習船の話では、通過地点の陸上と落下地点の海上での緊張感の差を感じた。また、番組の途中で二度人影が映っていたが、編集の段階で消すことはできなかったのか。防災行政無線については、北朝鮮のミサイル問題においてだけでなく、さまざまな災害がある中で、行政がしっかりと見直していかなければならないと思った。また、北海道内で自治体ごとに異なる対応をしていては、いろんな問題が起きるのではないかと思う。

今回1番難しかったのは、どのくらいリスクがあり、そのリスクに対して どこまで向き合わねばならないのかを示すことだった。不安をあおりすぎて もいけないので、バランスをとるのが難しかった。リスクにどう向き合うの かを冷静に考えるためのきっかけとなる番組にできればという思いで制作 した。構想を立ち上げてから放送まで、わずかな時間しかなかったので、準 備不足の部分があったと思う。議論していく中で、リスクを正確に認識する ことを重要と考えると同時に、不安をあおりすぎてはいけないと思ったので、 「冷静に」という言葉を何度も使った。ミサイルが北海道のどこかに落下し、 人間に被害を与える確率はきわめて低い。しかし、全くないとは言えない。 その伝え方にはとても悩んだ。ミサイルの高さについて視覚的に提示してほ しかったという意見については、資料は用意していたが、時間の関係で今回 は取り上げなかった。意見は今後の参考にさせていただく。防災行政無線に ついては、今回調べていく中で、札幌のような大都市ほど設置されていない ということがわかった。大都市であるがゆえに、市民全員に聞こえるように 整備するためには莫大な予算がかかる。意見のとおり、防災行政無線はミサ イルだけでなく、ほかのさまざまな災害においても重要なので、新たなテー マとして今後も取材を続けていきたい。最後に、二度人影が映ってしまった 件について、生放送であったため、ファックスやメールをキャスターに持っ て行く時に、ディレクターが慌ててしまった。今後このようなことがないよ う、再発防止に努める。

#### (NHK側)

被害想定をもっと具体的に説明することができなかったのかという意見だが、そもそも北朝鮮のミサイルの規模や、どのような燃料をどのくらい積んでいるのかは公開されていない。どのくらいの燃焼力があるのかが正確にわからないので、物理的にシミュレーションすることはできなかった。また、ミサイルが地上に落下する際には、迎撃ミサイルで撃ち落とすことになっているので、考えられるのは撃った後の破片が燃料とともに落ちてくるという可能性だが、その想定はさらに難しいというのが現状である。

○ 解説委員の津屋さんが、「北朝鮮は北海道を狙ってミサイルを撃っている訳ではなく、ミサイル開発の一環として太平洋に着弾させることを目的としている」ということを冷静に伝え、無意味に不安感をあおらないようにしていたのは、正しい姿勢だったと思う。迎撃ミサイルで撃ち落とせるかどうかは別として、大気圏外からあれだけの飛しょう体が落下してきた場合、着弾点付近にいる人々が助かることは難

しいのではないかと思った。また、札幌に防災行政無線がないことを初めて知った。 携帯を持っていないことで、1番に被害に遭ってしまうのではと心配している女性 が出てきたが、なぜ携帯を買わないのか不思議に思うと同時に、日本人は危機を自 分のものとしてとらえることが苦手なのではないかと思った。ミサイルが発射され て日本に到達するまで、時間の余裕は数分しかない。行政任せにするのではなく、 住民一人一人がどのように動くべきか考えなくてはならないと思う。「水爆実験の可 能性は低い」と津屋さんは言っていたが、もし本当に実験が行われれば、さらに大 きな問題となる。ミサイルが発射されているという事実を、日本国民がどう考えて いるのか、非常に気になった。しかし、北朝鮮のミサイル問題という点では、視聴 者に十分な注意喚起がなされており、訴求力のある番組だった。

- 北朝鮮のミサイルにより立て続けにJアラートが鳴る中で、素早くこの問題に取り組んだのはよかった。特に北海道では、襟裳岬の上空を通過したため、不安や戸惑いの声が多く上がっていた。津屋さんが、北朝鮮の行動には彼らなりの論理があることを明らかにし、危険性が低い理由を具体的かつ丁寧に説明していたのは非常によかった。少し気になったのは、津屋さんが「ほとんど危険がない」と説明したあとで、防災行政無線が整備されていない問題などを取り上げていたことだ。危険がないのであれば防災行政無線は必要ないのではと思ったので、放送の順番を逆にすればよかったと思う。中村さんが、「重要なのは被害の想定を示すことだ」と言っていたが、そのとおりだと思う。この問題に対する不安の根底には、被害がイメージできないことがあると思うので、想定が示されなければ、このように番組で取り上げても不安の声はなかなか消えないと思う。合理的な対応を考えるために、できるだけ情報を集めて被害の想定を示してほしい。
- 番組冒頭で、解説委員の津屋さんが過度の心配が不要である理由を、具体的に説明していたのはとてもよかった。しかし、今のところ過度の心配が不要なのはわかったが、今後北朝鮮がどのような行動をとるかはわからないので、不安が消えることはなかった。Jアラートの情報伝達については、私も最初のミサイルのときに全く通知がなかったので、情報が得られない人は思っている以上に多いのではないかと思った。防災行政無線が全国の約8割に設置されているのに、北海道では半数に満たないという話には驚いたが、確かに北海道で屋外のスピーカーを見かけることはあまりないと思った。防災行政無線はミサイル以外にも必要とされる場面が多々あると思うので、今後どのように整備していくのか、活発に議論する必要があると思う。番組は丁寧に制作されていたが、結局1番知りたいことがわからなかった。その原因は、万が一ミサイルが落下した場合の被害想定がわからないという1点に尽きると思う。数年前にロシアにいん石が落下したが、そのときの被害状況など、ミ

サイルの破片の落下に類似した例を出して説明することができたらよかったのではないか。しかし、これは番組の責任というよりは、国が情報を開示していないという側面も大きいと思う。

## (NHK側)

被害の想定については、情報が少なかったために具体的にお伝えすることができなかった。しかし意見を伺い、何かしら示せるものをもう少し探してみるべきだったと感じている。今も情報がない状態は変わらないが、似た現象を例に挙げるなど、どう行動するべきか指針になるものを示せるようにしたい。番組の構成については、制作している過程で何度も議論を重ねた。「危険がない」と説明したあとで、リスクについての話題を取り上げるという構成については、違和感を覚える可能性も認識していた。しかし、不安をあおらないということを1番に考えて制作を行ったため、あえてこの順番にした。指摘は今後の参考にさせていただく。

- ミサイルが北海道を通過した日は、とてもびっくりしたのを覚えている。Jアラートの通知からミサイルが通過するまでわずかな時間しかないため、避難する間もほとんどないのではないかと思っていたが、「まず屋外から屋内に退避することが重要で、そのために屋外にいる人たちに情報を伝達する手段が必要」という話を聞いて納得した。ミサイル落下地域の近くにいた実習船に対して、どのように連絡があったのかを取り上げていたが、ほかの船にもそれぞれ所属している組織から連絡があったのか、また飛行機への対策がどうなっているのかについても知りたかった。防災行政無線について、札幌や旭川に設置されていないことを初めて知ったが、例えば東京や大阪など、ほかの都市には設置されていないことを初めて知ったが、例えば東京や大阪など、ほかの都市には設置されているのか、設置されていないのであれば、どのように情報伝達を行っているのか教えてほしかった。番組の中で、携帯電話のJアラートの通知の設定方法について説明されていた。設定方法を知らない人は多くいたと思うので、とてもよかった。「イメージがつかない」という表現があったが、これは日本語表現としておかしくないだろうか。「イメージが湧かない」が正しいと思う。また、25分という短い番組なので、スタジオゲストは1人でよかったのではと思った。
- 番組を見る前は、さまざまな可能性が浮かんできて、どのように行動すればよいのかわからなかったが、番組を見て、何を不安に思えばいいのか、そのリスクに対してどのように考え行動すればよいのかがわかった。例えば、ミサイルが北海道に直撃する可能性は低いので、あまり不安に思う必要はない。それよりは、ミサイルの破片が落下する可能性のほうが高いので、その場合の対策を考えるようにすれば

よい。この場合は、屋外から屋内に避難するようにしようと思ったのだが、そうすると札幌が災害行政無線を設置していないという事実が違って見えてきた。札幌が防災行政無線を設置できていない理由は、設置にかかる費用がとても高いこと、そして札幌の住居が寒冷地仕様のため気密性が高く、スピーカーの音が届きにくいことだと、番組の中で説明していた。しかし、まず屋外にいる人が屋内に避難することが重要と考えると、防災行政無線ではないにしても、何かしらの対策が早急に必要だと思った。ミサイルだけでなく、ほかのさまざまな災害にも有効だとすると、なおさら整備しなければならないと思う。また、なぜ北海道の上空なのか疑問に思っていたが、津屋さんの説明がわかりやすく、とてもよく理解できた。ただ、過去のケースでは「人口衛星」と称してはいたが、東北地方と沖縄県の上空を通過しているミサイルもあったので、なぜ今回は北海道なのか、いままでとの違いについても説明してほしかった。

○ 中村さんが「国などが被害の想定を示すことが重要だ」と言っていたが、北朝鮮のミサイル問題はこの言葉に尽きると思った。ミサイルが北海道に直撃する可能性が低いことや、Jアラートの情報伝達の不備については、もちろん重要だとは思うが、それよりも丁寧に説明すべきことがあるのではないかと思った。例えば、Jアラートが鳴ったとしても、どのように行動すればよいのかわからないので、そこをもう少し詳しく取り上げてほしかった。もし大学受験の日に、Jアラートが鳴るようなことがあれば、国はどのように行動するよう指示するのだろうかと思った。そのようなことを先に検討したうえで、情報発信をするべきだと思った。また、Jアラートがどのようなタイミングで鳴っているのか、その仕組みについて知りたかった。キャスターが「平常時に個人でできることは何か」という問いかけをしていたが、それに対しての明確な答えがなかった。

# (なお、欠席の委員より、文書で次の意見が寄せられた)

○ 素早い報道に驚いた。タイトルを見たときは、北海道クローズアップで取り上げるべき話題なのか疑問だったが、ミサイルの目的、経緯、自治体の対策、個人の対策などが網羅されており、短い時間で見応えがあった。解説委員の津屋さんが、大げさに恐れなくてもよいことを具体的な理由を挙げて説明すると同時に、万が一の対策は必要であることも言及しており、視聴者のミサイルへの姿勢について、一定の道筋をつけてくれたように思う。また、他の災害においても、この考え方は同じであることを念押ししていたのもよかった。私の住む地域は防災行政無線が導入されていることになっていたが、実際は災害の危険性が高い一部の地域のみで、他の地域についてはメール送信のみとなっている。そして、この事実を知らず、警報が鳴ると思っている人は多いと思う。ミサイルの脅威などあってほしくはないが、こ

れを機に、災害対応の見直しを行い、建設的な対応を行ってほしい。引き続き、世 論に訴えかける災害報道をお願いしたい。

○ 番組途中でディレクターが一度ならず二度も画面に映り込んでしまったことは、制作現場に緊張感が足りないと言われてもしかたがないと思う。最近立て続けに J アラートが鳴っているが、なすすべもなくぼう然とやり過ごすことしかできなかった。そういう意味で、冒頭で直接被害の可能性が極めて低いことを強調し、落ち着いて行動することを呼びかけていたのは、とてもよかった。 2回目の J アラートが鳴ったとき、私は車内にいたのだが、高速道路にいるときなどはどのように行動するのがよいのだろうと思った。津屋さんは、高速道路の場合は、「降車するのは危険なので、停止して、車内にとどまってください」と言っていたが、全員がそのように行動すればよいが、もしその情報を知らない人がいた場合には、大事故につながる可能性もあるのではないかと思う。そのような状況も含めて、統一見解を示すことができればよかったのではないかと思う。また、今回は津屋さんと中村さんの2人が解説していたが、ツーショットの場面で、津屋さんに質問が連続し、中村さんが手持ち無沙汰になっていたように見えた。もう少し交互に質問することや、話している人のみを映すなど、工夫したほうがよかった。

### (NHK側)

まず、ディレクターが映ってしまった件については、再度現場を引き締めるように注意する。また、意見のとおり、番組の最後のところで、ツーショットで映っているのに津屋解説員に質問が連続してしまった。今後は質問のしかたやカメラワークに気をつけたいと思う。ミサイルが発射されたときにとるべき行動の統一見解については、番組で示すということは難しかった。車の例など、番組で紹介したものはあったが、それも状況によっては別の事故を誘引する可能性がある。一人一人がその場その場で慎重に考えていくことが重要であるということしか、今の状況では言うことができない。今後もどのようにリスクを回避するのがよいか考え続けていきたいと思う。

○ ここまでの質疑応答を聞いていて思ったことだが、情報が少なく被害の想定ができないのは、行政にも責任がある。Jアラートは行政のシステムであり、行政が警報を必要だと判断することで、Jアラートが鳴っている。そうであれば、Jアラートがどのような場合に出されているのかということを問う姿勢も重要ではないかと思う。行政はこの問題に対して、合理的な説明をする責任があると思うので、そこを追及するべきだと思う。

報道機関として、どのようなリスクがあるのか、国に追及することはとて も重要だと思う。今後の参考にさせていただく。

○ 番組の冒頭で、「ミサイルが直撃する可能性は少ない」と津屋さんが説明していたが、後半で中村さんが「例えば、爆弾を積まないミサイルが落ちてきた場合の被害を想定すべき」と発言していた。可能性が少ないと説明していた場合の被害を想定すべきだと言われて、ミサイルの破片が落下した場合を考えればよいと思っていたので混乱した。この発言で、ミサイルが直撃するかもしれないという印象が残ってしまったので、番組がどのような結論を目指しているのか、共通認識を持って臨んでほしかった。

### (NHK側)

私の想像ではあるが、中村さんは迎撃が失敗するかもしれないという前提で発言していたと思う。また生放送だったために、議論の中で前半に言っていたことと違う発言があったかもしれない。意見は今後の参考にさせていただく。

## <放送番組一般について>

- 10月13日(金)の北海道中ひざくりげ「故郷つなぐ SLのまち〜安平町〜」を見た。旧国鉄の機関士たちが、高齢になってもSLをピカピカに磨き上げ、後世まで魅力を伝えようとしていたのがよかった。地域の人たちもSLをとても大切にしているのが伝わってきた。登場する人たちが皆とてもすてきで、番組自体もほのぼのとした雰囲気でよかった。このような番組を見ると、心がほっとして癒やされる。番組のよしあしとは関係ないが、1点気になったことがある。半月に一度、SLを公開し動かすことになっていたが、石炭をくべているシーンがなく、煙も出ていないようだったので、どのように動かしているのか教えてほしい。番組としては、安平町の魅力がよく伝わっており、私は鉄道好きというわけではないが、一度はSLを見に行ってみたいと思った。
- 実際にSLを動かしていて、そのために非常に努力していることがわかり感銘を 受けた。また、将来のことを考え、後継者をしっかり育てるように町全体で取り組 んでいるのを紹介していたのがよかった。

実際に石炭をくべているのかどうかは制作担当者に確認する。

○ 24年前の映像も用いながら、1両のSLとそれを守る人々を中心に、変わらないものと変わりゆくものを取り上げており、とてもしみじみとした、よい番組だった。24年前もすでに高齢だった村山馨さんが、90歳を過ぎても健在で、変わりなく過ごされていて、とても感銘を受けた。旅人のアナウンサーの前髪が、ずっとはねていたのが少し気になった。この番組はタレントではなく、現地のアナウンサーが旅をするのも1つの魅力だと思うが、スタイリストがいないにしても、もう少しスタッフが気を遣うべきだったと思う。

## (NHK側)

旅人は室蘭局のアナウンサーだった。スタイリストがいる番組ではないが、 指摘のとおり、今後は気をつけていきたい。

- 「マチおこし研究所」がみかんやバナナなどを炭にする活動を行っていて、最初は地味な活動だと思っていたが、小さな子どもたちがとてもおもしろがっていて、このような活動を取り上げて応援しているのはとてもよかった。今後、「マチおこし研究所」がさらにおもしろい活動を展開してくれればよいと思った。 1番すごいと思ったことは、70年以上たっているSLがまだ動いているということだ。月に2回も公開を行っていることも驚いたし、動いている様子は圧巻だった。SLにまつわる人たちが、とてもよい顔で動いているのを眺めていた。しかし、その顔を見ていて、私はここに一緒にいられなかった人たちのことが気にかかった。「鉄道の町」であるがゆえに国鉄民営化に伴い、町を出て行くことを余儀なくされた人たちもたくさんいただろうと思うので、そのことにも触れられればよりよかったのではないかと思った。
- また1つ、町の歴史とシンボルについて知ることができた。SLをどのように残していくのか真剣に取り組んでいるのがわかり、興味深く見た。車庫や転車台など、貴重なものが見られてわくわくした。昔SLに石炭をくべていた工藤隆男さんが、今は炭を作って配っているのは、おもしろいと思った。途中で、子どもたちがSLを描いている場面があった。描いている場面しかなかったが、事前にSLを見に行ったり、歴史を学んだりしているのかが気になった。半月に1度、車庫からSLが出てくるのはすばらしいと思ったが、番組の中で周りに関係者以外映っていなかったので、せっかくのイベントなのだから、もう少し人が集まっているような雰囲気があったほうがよいと思った。

SLのスケッチはとても上手だったので、私も驚いた。おそらく見学する機会があったのだろうと思うが、確認する。SL公開時にギャラリーがいなかった件についても確認しておく。

○ 10月7日(土)の北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ「今日はとことん! 芽室町」(総合 前 10:05~11:00 北海道ブロック) について、芽室町は小さな町だが、全国第1位、全道第1位が合わせて4つもあることを知り、さすが十勝、食料の拠点だと思った。冒頭で、野菜の詰め放題をしていたが、1回いくらでできるのか知りたかった。また、ひざくりげの「芽吹きを守る実りの大地~芽室町~」では、矢村まゆみさんが長い間、熱意をもって農業を続け、最終的には3~クタールまで農地を広げたことが紹介されていた。無農薬あるいは有機栽培というのは、面積を広げるほど途中で挫折してしまう人が多い。その中で、22年間も広大な農地で作業を続けてきた努力が伝えられていたのは本当によかったと思う。地元とのつながりを大事にしてきたことが、続けることができた大きな要因だと思う。「穴場ハンター」では、芽室町ではゲートボールが盛んに行われていること、意外にも北海道で落花生が生産されていることなどが紹介されており、よかった。

### (NHK側)

野菜の詰め放題の価格についての意見だが、制作担当者に伝えておく。矢村さんの農地は無事に次の人に引き継がれたようだ。引き継いだ飛田暁さんについても、取材を続けていきたいと思う。

○ この番組は1つの市町村にスポットライトを当て、知っているようで知らない情報を伝えてくれるので、安心して見られる。特に「ひざくりげ」では過去の映像も交えながら、人や町が移り変わる様子をうまく伝えていた。矢村さんの年の重ね方が非常にリアルで、長寿番組ならではの歴史の深みを感じた。ただ、1つ残念だったのは、番組の大半が矢村さんに関係する話題だったことだ。もう少し違う内容も取り上げてほしかった。「穴場ハンター」は、元気の伝わる楽しい内容で、芽室町を訪れたくなった。この2つの番組の組み合わせはとてもよいと思う。

## (NHK側)

「ひざくりげ」について、矢村さんの内容が多くを占めてしまったことについてだが、25分という短い番組なので、話を絞って制作したかったというディレクターの意図があったと思う。指摘については、制作担当者に伝え

ておく。

- 10月8日(日)のさわやか自然百景「札幌 豊平川」を見た。見ていて穏やかになる番組で、ときどき視聴している。今回の「豊平川」は、自然の豊かさ、そこに住む魚と鳥に注目しており、とてもおもしろかった。札幌にカモメがいるのはなぜなのか個人的に気になっていたので、そのことが紹介されていてとてもよかった。例えばカモメがいつごろから札幌に住みつくようになったのかといった、町と自然の関係についても知りたかった。豊平川についてもっと知りたいと思える内容だった。
- 映像がとても鮮やかで、見慣れた景色がとてもきれいに見えてよかった。札幌市内で暮らすカモメは見慣れたものだが、子育てを追って生態を見せてくれたのがよかった。短い番組だったが、もっと長くてもよいと思った。
- 10月15日(日)のBS1スペシャル「サハリン残留 家族の歳月」(BS1後 10:00~10:50、11:00~11:49)を見た。長時間にわたる番組だったが、とても見応えがあり、時間を忘れて引き込まれる内容だった。豊富な現地取材で得られた映像を用いて、長期間にわたる国境地帯の過酷な歴史の中で、自分の人生を懸命に切り開いた家族の営みを記録した、貴重な番組だった。国境地帯の、非常に複雑で多重的なアイデンティティーを理解してもらうために、さまざまな工夫が施されていた。サハリンを取り巻く歴史的背景について、解説を交えてわかりやすく示した点もよかった。サハリン残留者の家族の戦後というのはまだ終わっていないのだということ、それぞれの地で新たな葛藤を抱えて生きていることがわかったので、今後も取材を続けてほしい。
- ずっしりと重たい内容だったが、とても充実したよい番組だった。国家間のさまざまな思惑に振り回されて過酷な人生を送った人々の姿から、日本という国の歴史が抱える問題が浮かび上がってきて、とても意義のある番組だった。サハリンに残留する日本人1世は、50人足らずということで、今後も高齢化が進み、いずれこの記憶を持った人もいなくなるだろうと思うので、貴重な証言をまとめて映像に残すことは非常に重要だと思う。長い番組だったが、生の証言が詰まっていて、中だるみすることなく、じっくり見られた。
- 9月6日(水)のあさイチ「調べてビックリ!じゃがいものウラ側」を見たが、非常に丁寧に制作されていてよかった。きょうの朝に再放送されており、評判がよかったのかと思ったのだが、再放送の理由がわかれば教えてほしい。

これは以前釧路局にいたディレクターが制作を担当した。再放送は現在、 政見放送が各地で行われているという事情によるのだが、評判がよかったた めにこの回が放送されているのだと思う。

○ 9月23日(土)の北海道LOVEテレビ「やってみようよ!女子キャン・」(総合前 10:05~10:48 北海道ブロック)を見た。キャンプの楽しさや楽しみ方がよく伝わる番組だった。しかし、舞台となった清水町のキャンプ場について、「穴場」と紹介していながら、詳しい場所の説明や情報がなかった。また、日没になったところで、年少者3名が帰る場面があった。これは、年少者が深夜まで撮影に参加してはならないということなのだろうか。せっかく5人で楽しそうだったので、そのような理由で退場しなければならないのであれば、最初からキャスティングすべきではないのではと思った。夏より秋のキャンプがおすすめだということが映像からよく伝わり、いつもはあまり見ない種類の番組だが、大変よかったと思う。

## (NHK側)

キャスティングに関する指摘はそのとおりだと思う。10代ならではの感性を伝えたいという意図があったが、今後の参考にさせていただく。退場の理由については、年少者が働けない時間になったためだ。

○ 9月24日(日)の目撃!にっぽん「執念~三船遭難事件から72年~」を見た。 8月25日(金)の北海道クローズアップ「執念~三船遭難事件から72年~」より 時間が長くなったので、内容が充実し、永谷保彦さんの執念がより伝わってきた。 私は第三者であるが、この番組を制作した人に心から感謝したいと思う。まさに、 NHKでしかできない番組だったのではないかと思う。なぜ行政がこの事件を放置 しているのか、非常に腹が立った。

## (NHK側)

制作担当者に意見を伝えさせていただく。「なぜ忘れ去られてしまったのか」については、本当はもう少し番組で詳しく伝えてもよかったのではないかと思っている。引き続き、樺太関連の番組は力を入れて取り組んでいきたいと考えている。

○ 連続テレビ小説「ひよっこ」が終わって、非常にさみしく思う。うれしくも悲しくもよく泣かされた番組だった。

「ひよっこ」の最終回の前日、9月29日(金)のあさイチ「プレミアムトーク 有村架純」を見た。この番組を初めてゆっくり見たのだが、有村さんの話をとても楽しく聞かせてもらった。「特選!エンタ」というコーナーで出演者が映画の紹介をしていたが、紹介がとても否定的で、言い方や表情に嫌悪を感じた。また、そのあとフラワーデザイナーが出演し、有村さんと一緒に卵の殻に花を生ける場面があったのだが、とても粗雑な進行で驚いた。生けた花も美しくなく、卵の殻が砂だらけで汚かった。

○ 9月29日(金)の「ほっとニュース北海道」を見た。函館にある複合施設について紹介していたが、どういうコンセプトの施設なのか、もっと丁寧に伝えてほしかった。しかし、活気のある施設ができたことは伝わってきた。あのような場所に若い人たちが集まり、何かを発信していくようになればよいと思う。

### (NHK側)

本当はコンセプトも含めて、もう少し詳しくお伝えする予定だったが、本番では少し言葉が足りなくなってしまった。若者があれだけ大勢来ていて、非常に活気があったことには驚いた。新しい地域の核となる拠点に、若者が大勢いるという事実を伝えられたことに意味があったと思っている。

- 10月2日(月)のプロフェッショナル 仕事の流儀「まっすぐ稼げ!あくなき野 心~経営者・松本晃~」を見た。大きなトピックの1つとして、台風とジャガイモ の収穫量の激減ということが取り上げられており、生産現場のことを知ってもらい たいと強く願っていたのでよかった。
  - 10月4日(水)のパン旅。「甘い!新鮮!濃厚!十勝食べ尽くしつ!」(BSプレ汀 A後7:30~7:59)について、この番組を初めて見たが、木南晴夏さんがとても自然体ですてきだった。本当にパンが好きで、おいしく食べているのが伝わってきて、好感が持てた。取り上げているパン屋さんについても非常に丁寧に取材されていた。十勝でパンをテーマにしたとき、小麦の産地だということに注目することが多いが、甘いパンをよく食べるという文化的な背景に注目したのはよかった。農家の人がたくさんドーナツを買っていく場面があったが、なぜそんなに買うのかについても知りたかった。とてもほっこりとした、楽しい番組だったので、ほかの回もぜひ見てみたいと思った。
- 葛飾北斎関連の番組を集中的に編成していたかと思うのだが、とてもよかった。 10月9日(月)の「北斎"宇宙"を描く」(総合 前 9:05~9:54)は特にすばらしく、 私の中で永久保存版になるくらい絶賛すべき内容だった。1枚の絵に北斎の世界観

が見事に映し出されており、とても感動した。関連番組をすべて見られなかったのは、残念だった。

○ 10月11日(水)の「世界プリンセス物語 愛される理由とは」(総合 後 7:30~8:43)について、タイトルを見て、見たことがある番組だと思ったが、EPGや新聞を見ても再放送という情報がなかった。調べてみたところ、ザ・プレミアム「世界プリンセス物語~愛される理由とは~」(BSプレジム 2016年9月17日(土)後 9:00~10:29)と同じ内容だった。このようなことが以前もあった。もちろん地上波放送しか見ることができない人もいると思うので、再放送とすることができないのはわかるが、インターネットで調べなければならないのはかなりの手間なので、簡単にわかる方法があればよいと思う。

## (NHK側)

地上波用に再編集している。全く同じではないので、本放送という扱いになっている。

- ほとんど同じ内容だと感じた。同じ内容だというのがEPGなどで簡単にわかれば、わざわざ録画しなくてもよいし、テレビをつけてから見たことがあると思うこともなくなるので、検討してほしい。
  - 10月11日(水)の発見!体感!にっぽん水紀行「火山と霧が生んだ神秘の水~北海道 十勝・釧路・根室~」(BSプレジアム後9:00~9:59)を見た。オンネトーと錦沼、湯の滝は、近くにあるのにそれぞれ色が全く違うのだが、その理由の説明がわかりやすくてよかった。阿寒川のウォーキングは、「神秘の水」というタイトルどおりの不思議な光景が見られた。魅力的な光景がたくさん紹介されており、ぜひ1度訪れてみたくなる番組だった。出演していたタレントのテンションが上がったときの声がとても高く、せっかくのきれいな景色が台なしになってしまい残念だった。
- 10月12日(木)のクローズアップ現代+「"英雄"か"裏切り者"か? サッカーシリア代表の真実」を見た。民族、宗教、政治問題によくある、代表のユニフォームを着るスポーツ選手を巻き込んだ問題で、考えさせられる内容だったと思う。人それぞれの考え方によって評価が変わってくることをリアルに伝えていて、国際的な報道機関としての役割を果たす、すばらしい番組だった。日本のみならず世界の人々は、1つの価値観を持ってすべての善悪を決めたがる傾向があるが、公共放送の公平さをもった、非常に冷静な番組だった。今後も公平な取材に基づいた、冷静な番組を制作してほしい。

○ 10月14日(土)のWild Hokkaido!「花の山 富良野岳」(総合 前 11:20~11:39 北海道ブロック)を見た。この番組は海外の知人に紹介することがあり、私自身も北海道にどういう見どころがあるのかと思って視聴している。今回の「富良野岳」は、貴重なアーカイブ映像を使用しており、わかりやすい説明もあってよかった。十勝連峰のトレッキングを見て、自分でも登れそうだと思い、実際に訪れてみたくなった。1つ気になったことが、山岳ガイドの人が日本語で説明をしているのだが、番組ナビゲーターのジェームス・プリティさんが英語でリアクションをしている。日本語がわからない人のことも考えると、山岳ガイドの人の説明に英語の字幕をつけたほうがよいのではないかと思った。

### (NHK側)

ジェームスさんは日本語が堪能なのだが、この番組は英語版がメインなので、英語で答えてもらうようにお願いしている。日本語で聞かれたことに英語で答えることは、少し違和感があるかもしれないが、そういう事情がある。総合テレビでの放送は、英語の字幕は出していないが、NHKワールドTVでは、英語の字幕が出ている。

NHK札幌放送局 番組審議会事務局

### 平成29年9月NHK北海道地方放送番組審議会

9月のNHK北海道地方放送番組審議会は、20日(水)、NHK札幌放送局において、 8人の委員が出席して開かれた。

会議では、議事に先立ち、若泉局長から9月1日付で新たに委員に就任した嘉指博行 氏の紹介とあいさつがあり、議事に入った。

まず、「平成29年度後半期の国内放送番組の編成」について草場編成局編成主幹から説明があり、「平成30年度の番組改定」についての意見を伺った。

続いて、北海道クローズアップ「異常気象にどう備えるか~連続台風から1年~」を はじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、10月の番組編成について高木放送部長から、放送番組モニター報告について斉藤副局長から、視聴者意向について荒井広報・事業部長から、それぞれ説明があり、会議を終了した。

# (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

副委員長 豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

委 員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

嘉指 博行 (北海道新聞社論説委員)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村木 秀雄 (いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サホ゜ートステーション総括コーテ゛ィネーター)

山下 徹也 ((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)

### (主な発言)

<「平成29年度後半期の国内放送番組の編成」および

「平成30年度の番組改定」について>

○ 金曜夜間の編成について、現在は午後7時半から「北海道クローズアップ」を北海道ブロックで放送しているが、8時からは全国放送で「歴史秘話ヒストリア」を放送している。しかし、私としては北海道関連の番組をより多く放送してほしい。以前は、8時台も北海道関連の非常によいドキュメンタリーが流れていたが、最近は本数が減ってしまった。地域の番組がもっと放送できるように枠を考えてほしい。29年度後半期から再び定時番組となる「ねほりんぱほりん」は以前から好んで

見ていた。テーマによっては批判もあると思うが、放送を続けてほしい。

○ 私も「ねほりんぱほりん」は興味深い番組だと思っている。初めて見たとき、あのような本音トークがテレビで見られることに驚きを感じた。29年度後半期も楽しみにしている。

また「ドスルコスル」という番組について、私の子どもは小学生なのだが、学校でディベートを行っている。現代社会の諸問題を子ども目線で考える番組というのは、今の学校教育とも一致していてとてもよいと思う。

最後に、「人間ってナンだ?超AI入門」について、とても興味深い番組だと思う。 これから幅広い知識が必要になると思うので、さまざまな知識を与える教育番組を 制作してほしい。

< 北海道クローズアップ「異常気象にどう備えるか~連続台風から1年~」 (総合9月1日(金))について>

- この番組で最も気になったのは冒頭のシーンで、昨年の台風で行方不明になった 父親を探す場面である。心情に共感はできるが、番組の内容を考えると、あの場面 が導入として最初に出てきたことに違和感を覚えた。「まさか自分の町が水害に遭 うなんて」という声が紹介されていたが、今まで私たちが想定していなかった水害 が起こるメカニズムが説明されており、大変参考になった。防災計画あるいは住民 の安全について、いま一度、しっかりと行政と住民で協力して取り組んでいかなけ ればならないと感じた。
- 昨年の台風からちょうど1年というタイミングでの放送は、大変よかった。冒頭で、昨年被災した地域の人々の思いが手書きで紹介された。手書きのままにすることで、生の声という感じが伝わってきて、非常によかった。どちらかというと個人というよりは行政の対策についての内容だったので、個人が日ごろからどのように備えておくべきかという内容の番組も別の機会に放送してほしい。番組後半で、名寄市の町内会の取り組みが取り上げられていた。私の地域でも同じような取り組みを行っているが、個人情報保護法の関係で、情報を得るのが難しく難航している。また、助けられるのを拒否する高齢者もたくさんいる。この問題についても何かの折に取り上げてほしい。最後に、アナウンサーが自分で取材したような発言があったが、放送ではそのような場面は見受けられなかった。アナウンサーが取材に行っていたのか、それともディレクターが行っていたのか知りたい。
- まず構成がはっきりしていて、とてもわかりやすかった。昨年の台風から1年、 さらに再び台風が来そうなタイミングで放送されたのがよかった。手書きの被災者

の声については、私もとてもよいと思った。多少書き間違いなどは気になったが、書いてある内容以上に伝わることがあった。雨の降り方の変化により、今まで想定していなかった水害が起きていると、グラフなど視覚的な情報も交えながら説明されていたので、とてもよく理解できた。芽室川を事例にした現地調査の動画と模型の実験は、非常にわかりやすかった。中小河川が危ないということは知っていたが、理由までは知らなかった。理由を知ることで危険だという認識をより深められた。南富良野町の事例では、「絶対に備えは必要だと思う」という町役場の人の言葉が印象に残った。当たり前のことではあるが、被災した南富良野町の職員が言ったことで説得力が増していた。

### (NHK側)

冒頭をどのようにするかは、私たちも議論を重ねた。結果、自分にもいつ起こるかわからない怖さを感じてほしいと思い、行方不明の家族を探す場面を選んだ。違和感は、冒頭以外でその場面について一切触れていないことによるものだと思う。今回は時間が足りず、冒頭だけとなってしまった。意見は今後の参考にさせていただく。手書きの被災者の声については、意見のとおり文字そのものを含めて情報として伝えたかったので、見づらさはあるが、こちらで活字にはしなかった。こちらの意図が伝わっていてよかったと思う。助けられるのを拒否する高齢者や、個人情報保護法の関係でご近所同士の助け合いが難しいというご意見については、非常に興味深く、今後防災の問題を取り上げる上で参考にさせていただく。アナウンサーが現地に取材に行ったかどうかについてだが、実際にアナウンサーが現地に行って取材を行った。ロケも行ったが、今回は時間の関係で放送できなかった。この番組は、9月1日が「防災の日」であること、昨年の台風からちょうど1年であることを踏まえて、かなり前から入念に準備を行った。防災については、今後も指摘を踏まえて、いろいろなテーマで番組を作っていきたい。

○ 昨年の台風被害からちょうど1年、台風18号到来の前に放送されたことは、意義が大きかった。被害だけを過大に放送するのではなく、現実とこれからの課題をきちんと伝えていた。他の委員からも意見があったが、中小河川に雨が集中するとどのような被害が想定されるかを検証する模型は、非常にわかりやすかった。また、高齢者の避難の問題については、行政主体の対策だけでなく、住民同士でも考えていかなければならないと思った。今年も、台風の勢いが落ちないまま北海道に上陸している。本州並みの台風に対して、どう対策するのか考えていかなければならない。番組最後でアナウンサーが言っていた、「命を守るための知恵と力をいかに分かち合っていくか」がこの番組の伝えたかったことだと思った。

- 防災については、ここ数年で関心が高まっていると感じている。短期集中豪雨が増えていることが、グラフで視覚的に示されていたのは、わかりやすくてよかった。中小河川から土砂が流出して災害を引き起こす仕組みの説明も、とてもわかりやすかった。また、冒頭の行方不明の父親を探すシーンは、心に迫る導入だった。逆に気になったのは、ハザードマップについてで、「作っている最中」という話が何度かあったが、何が加わると完成なのかわからなかった。また、対象となっている自治体のうち10%未満でしかハザードマップが作られていないという話について、予算不足や人手不足が理由として挙げられていたが、ハザードマップで危険性が指摘されると、その土地の評価が下がってしまうという理由もあるのではないかと思った。今後、そういった点からも話題提供があると、関心が高まると思う。
- とても興味深く見た。知りたいことを教えてくれる、かゆいところに手が届く番組だった。言いたいことが2点ある。1つめは、昨年の台風で起こった水害について芽室川を例に説明していたが、とてもよく理解できた。しかし、昨年のように連続で台風が来なければ大丈夫だろうと思っていたところで、スタジオゲストが、「これまで北海道ではなかったことなので、リスクが高まっている」と言っており、いつ起こるか分からない、と気が引き締まった。2つめは、名寄市の事例で、自分一人では逃げられない高齢者を町内会で協力して助けるという話だったが、救助する側も高齢者であることが説明しなくても映像から伝わってきて、日本はこれから高齢者同士で助け合っていかなければならないのだと感じた。また、1年たつのに復旧が2割しか進んでいないという話を聞いて、なぜそんなに復旧が遅いのかについての番組も見たいと思った。さらに、ハザードマップについて、対象の85の自治体のうち8つの自治体でしか完成していないという話があったが、完成させている自治体がなぜ完成させることができたのかについても知りたいと思った。

なぜ8つの自治体がハザードマップを完成させることができたのか、という視点は、制作段階では持っていなかった。それを追究することで、残りの自治体ができていない理由やどうしたらできるのかという解決策につながるのではないかと思う。今後の参考にさせていただく。私たちは、最終的にこの問題を解決するには、命を守るための知恵をいかに分かち合うのかが重要だと考えている。自然災害の場合、どんなにお金をかけて対策を行っても足りないことがある。そのときには逃げるための知恵、人と人がどう助け合うのかということが重要になってくる。紹介した取り組みの中にも、課題を解決する種のような知恵が詰まっていたと思う。今後もそのような知恵を紹介

していきたい。ハザードマップに関して、何が加わると完成なのかということについてだが、何かが加わるというよりは、情報を精査し、ブラッシュアップしていく作業が続けられて完成するのだと思う。

## (NHK側)

意見を伺い、完成した方のハザードマップと比較すればわかりやすかったのではないかと思った。紹介した暫定版のマップは1色だけだったが、本来多くのハザードマップは浸水の深さの違いにより色分けがしてあり、危険度が一目でわかるようになっている。このルートならば安全に避難できるのか、本当にここが避難所でいいのか、科学的に検証を重ねることで完成していく。

## (NHK側)

ハザードマップが完成しない理由に地価が関係しているのではないかという意見だが、そういったことを懸念する人たちがいることは事実だが、今回はそこについては踏み込まなかった。また、高齢者を比較的年配の人が助けるという事態については、北海道だけでなく、全国的に直面している課題だと感じている。今後とも大きな課題として番組でも取り扱っていきたい。

- この番組の一番伝えたいことが、台風被害の原因なのか、対策なのかがわからなかった。さらに対策を考えるうえで、個人が行う対策と自治体が行う対策があると思うが、それを明確に分けて紹介してもよかったのではないか。どちらも紹介したせいで中途半端になってしまった印象を受けた。また、一人暮らしの高齢者が番組を見たとき、ハザードマップやタイムラインという横文字が出るだけで難しく感じられてしまうのではないか。どのように対策すればよいのか高齢者が理解できたか疑問である。また、アナウンサーの質問に対するスタジオゲストの返答が短すぎるのが気になった。もう少し一つ一つを丁寧に説明してもよかったのではないかと思う。最後の「命を守るための知恵と力をいかに分かち合っていくか」という言葉も、きれいにまとまりすぎていた。引き続き取材を続けて、より多くの情報を届けてほしい。
- 1年前の連続台風で行方不明の父を、現在もなお探す冒頭のシーンに胸が締め付けられた。被災者のメッセージを見て、台風による災害はもはやひと事ではないのだと警鐘を鳴らされた思いがした。他の人の意見にもあったが、雨量のグラフや河川が氾濫するメカニズムの説明はとてもわかりやすかった。ただ、雨量に関して「本州並み」という表現があったが、それがどれぐらいの降水量なのか番組で比較してほしかった。

今回の番組の中で取り上げた、なぜ水害が起きたのか、今どんな取り組みがあるのか、どんな対策が求められるのかということは、1つずつが1本の番組になるぐらいの重要なテーマだと考えている。今回の場合は総合的にお伝えしたが、指摘のとおり、個人の対策、行政の対策についての番組も重要だと考えており、改めて別の番組として制作したい。また、高齢者にとってわかりやすく対策を説明するにはどうしたらいいのかについても、今後の参考にさせていただく。それから「本州並み」という言葉についてだが、指摘のとおり、もっと工夫すべきだったと反省している。言葉で流すのではなく、視覚的にわかりやすく提示できればよかった。今後の参考にさせていただく。

## <放送番組一般について>

- 8月4日(金)放送の北海道クローズアップ「ヒグマを叱(しか)る男〜世界自然遺産と漁師〜」を見た。これまでも生物と自然との共存をテーマにした番組はあったが、今まで以上にスケールが大きく、迫力のある番組だった。世界遺産の中に番屋があり、そこを拠点に漁を行っていることを初めて知った。「模索」という言葉が何度か出てきて印象に残った。大瀬初三郎さんの元で働く若い青年が、自然の中でどのように生きていくのかを語らなかったときに、「模索」という言葉がふに落ちた。次の世代に自然とどう共存していくかという大きな課題を伝えていくことが模索なのだと感じた。
- すばらしい番組だった。そこで生活をしている人間も自然の一つであるという大瀬さんの考えは、ユネスコの世界遺産の基準に対して一つの大きな問題提起をしてくれたと思う。
- タイトルの付け方が非常にすばらしい。「ヒグマを叱(しか)る男」というのはとてもインパクトがあり、視聴を促す秀逸なタイトルだと思う。番組の途中で、唐突に観光客へのインタビューが流れたが、すごく上から目線で語っているように感じた。どのような内容のインタビューを行ったのか、事前に前置きがあったほうがよかった。

#### (NHK側)

「模索」という言葉については、実を言うとそこまで計算されたものでは

なかった。大瀬さんが知床の自然やヒグマとどう向き合うのか、ずっと答え を探し続けてきた人だったので、「模索」という言葉を使った。引き続き取材 を続けて、頂いた意見も参考にしながら、番組を制作したいと考えている。

○ 8月25日(金)放送の北海道クローズアップ「執念~三船遭難事件から72年~」を見た。正直、私はこの事件を全く知らなかった。留萌の人すら知らない人が多く、番組を放送したことには大きな意義があったと思う。関係者の高齢化も進んでおり、生の証言を記録することができる時間は残り少ないと思う。慰霊祭の直後に永谷保彦さんが亡くなられたことを知り、このタイミングで番組を制作することができたことは本当に幸運だったと思った。関係者があれほど懸命に活動しているのに、なぜあまり人々に知られていないのか、また留萌の行政がどのようにこの活動を支援しているのかが気になった。

### (NHK側)

制作担当者は主に旭川を担当しており、別の番組の取材をしているときに、地元の人からこの事件について伺い、なんとか番組にしたいという思いで制作した。永谷さんと会えたのが、亡くなられる1か月ぐらい前だった。最後の1か月に密着させていただき、貴重な証言を得られて本当に良かった。戦争の体験について、生の声をきちんと記録しておくことの重要性を改めて感じた。なぜこんなに知られていないのかということに関しては、北方領土問題という大きな問題があるために、埋没してしまったと考えている。だからこそ、きちんと放送しなければならないと思う。

- 私は偶然この事件を知っていたのだが、北方領土問題に比べ注目されてこなかった、三船遭難事件に注目した意義は大きいと思う。人々がこの事件について知らないということに関しては、学校で地域の歴史を教えるような授業が減ってきているのではないかと思った。
- 私もこの事件を全く知らなかった。偶然だとは思うが、永谷さんの最後の1か月に密着し、記録を残すことができた意義は大きかったと思う。「こういう非道なことは明るみに出して、風化させたくない」という永谷さんの思いを引き継いだ、とてもよい番組だった。ふだん戦争の番組を見ることはあまりないが、最後まで興味を持って見ることができた。

#### (NHK側)

地元の人も知らない歴史というのは重要なテーマだと思っており、引き続

き伝えていきたい。

○ 9月8日(金)放送の北海道クローズアップ「演じるな、自分を生きろ 89歳"おんな蜷川"の熱血指導」を見た。アマチュアの劇団は私の地域にもあるが、コミカルな題材が多い。劇団「河」が熱く、魂を込めた演技をしていてすごいと思った。語り部役の柴田睦美さんに焦点を当てたことはよかったと思う。淡々としているが心を震わせる語り、かつての熱さや時の流れを感じさせる音楽もよかった。ただ、劇団がなぜ解散したのか、そしてなぜ今復活したのかについてあまり語られていなかったので、もっと知りたいと思った。劇のストーリーをアニメで表現したのはよかったが、実際に演じている劇とトーンが合っていないように見えた。そのため、実際に演じている劇を見たとき、アニメのどのシーンを演じているのかがわかりづらかった。

### (NHK側)

昔、解散した理由については、演じる人たちが年齢を重ねて、仕事との両立が難しくなったことが原因だったと聞いている。今回復活した理由については、劇団「河」にほれ込んだ人が、記録に残しておきたいということで本を作ったことがきっかけだった。本をきっかけに、かつて劇団の照明をしていた豊島勉さんが仲間に呼びかけて復活したのだが、経緯がやや複雑だったので、番組ではあまり触れなかった。アニメと実際の演劇のトーンが異なっていて、どのシーンをやっているのかわかりづらかったという意見に関しては、あの劇そのものが語りをベースにしたものということもあるのではと考えている。

- 演劇に人生を捧げた89歳の演出家、星野由美子さんの生き様と、演劇で自分を変えた柴田さんの生き様がよく描かれており、制作者の熱い思いを感じるすばらしい番組だった。失礼かもしれないが、私は星野さんを知らなかった。マイナーな人たちの熱い思いを伝えることは、公共放送の重要な役割だと思う。現代の若者に対する大人たちの姿勢に大きな疑問を投げかける番組だった。ただ、劇団復活のために奔走した豊島さんが、あまり取り上げられていなかったことが気になった。
- 私は劇を見るのも演じるのも好きだが、劇団「河」のことは知らなかった。昔の 公演が白黒映像で流れていたが、白黒であれだけ迫力が伝わるのはすごいと思った。 柴田さんが演劇をしているときの自分の状態について話していたが、とても共感で きた。

豊島さんにもう少しスポットを当ててもよかったのではという意見だが、 今後の参考にさせていただく。

○ ヒューマンドキュメンタリーとして、非常に見応えがあった。一つだけ引っかかった点は、何をこの番組は伝えたかったのかということだ。なぜこの時代に劇団「河」を復活させなければならなかったのかという動機づけが弱く、何を訴えたいのかが最後まで理解できなかった。また、タイトルにもある"おんな蜷川"という言葉は、蜷川幸雄さんを知らない人には意味が伝わらない。タイトルに使うのであれば、本編で少しでもよいから蜷川さんについて説明したほうがよかったのではないかと思った。

## (NHK側)

番組を通して描きたかったことは、星野さんと柴田さんの関係、そして星野さんが酸素ボンベを着けた状態にもかかわらず、なぜ懸命に指導を続けているのかということだった。視聴者それぞれに感じてほしいという思いで、あまりテーマを絞らなかった。意見は参考にさせていただく。

○ 9月15日(金)放送の北海道中ひざくりげ「芽吹きを守る実りの大地〜芽室町〜」を見た。30年続いている伝統の番組で、町や地域の紹介だけにとどまらないところが、すごくよかった。22年前に取材した矢村まゆみさんが、長い時間をかけて作り上げてきた幸せな暮らしを病気のため手放さなくてはならないという話は、とても印象に残った。また、矢村さんの夫が登場するのだが、一言も話す場面がなかった。その無言の姿から移住する人たちへの思いが伝わってくる感じがしてよかった。芽室町の移住者受け入れに対する学校の取り組みは、他の地域にとっても参考になると思った。

### (NHK側)

「北海道中ひざくりげ」は、今年30周年ということで、かつて訪れた場所をもう一度訪れて、昔と今を伝えている。この番組は、人生の悲喜こもごも、長年作り上げてきたものを手放さなくてはならない中で、自分が得たものを次の世代に引き継ごうとしている姿を描きたかった。

○ 矢村さんのことは以前から知っていたが、農業を辞めることを番組で初めて知り 驚いた。事業継承の問題については、私の周りでも起こっていて、これから大きな テーマになると思う。今後は飛田さん夫婦のように、完全に新規で始めるのではな く、前の世代が残したものを引き継ぐという形が増えてくると思うので、矢村さん の後を継ぐ飛田さん夫婦についても、現在どんな課題があるのか、これからの目標 は何なのか、詳しく知りたかった。

### (NHK側)

事業継承については、大事なテーマだと考えている。今後も取り上げてい きたい。

○ 北海道クローズアップの「ヒグマを叱(しか)る男」、「89歳"おんな蜷川"の 熱血指導」、そして北海道中ひざくりげ「芽吹きを守る実りの大地~芽室町~」は、 年配の人から若者への継承が描かれており、私の好きなテーマで、非常に興味深か った。しかし、この継承というテーマの番組が続いたので、無理にテーマに当ては めようとしていないかと少し不安に思った。

## (NHK側)

期せずして短期間に先輩から後輩への継承というテーマの番組が続いてしまった。意見は今後の参考にさせていただく。

- 台風18号について、農業の立場から、収穫を間近に控えたタイミングで心配していたが、しっかりと報道していただき、時宜を得た情報を得ることができた。
- 私は台風が北海道に上陸して通過するまで総合テレビを見ていたが、すべての番組で刻一刻と報道していて、大変参考になった。しかし、札幌はそんなに大きな被害はなかったように感じた。台風報道について、放送する条件などがあれば教えてほしい。

#### (NHK側)

台風18号の報道に関して、どういうケースのときに特別編成の報道を行うかについてだが、まずは台風の強さと大きさ、暴風域の広さ、それから雨の見通し、台風の進路を考慮している。今回の場合には、台風の進路上、北海道に来るころに暴風域が再発達するのではないかと予測しており、そのとおりになった。それによって、胆振、渡島半島、十勝、場合によっては釧路まで含む地域が暴風と大雨の被害に遭うと予測したため、編成を大幅に変えてお伝えした。1年前の番組審議会では、台風報道に関して大変厳しい指摘を頂いた。その意見を基に必要な情報をどのように伝えるのか、北海道7局で考えてきた。そして今回の台風18号の報道では、これまで以上に減災、

防災に力を入れて、被害を出さないための放送を心がけた。総合テレビでは、雨、風が強まり始めた午前6時台から、大きな雨雲がオホーツク海に抜ける午後3時ごろまで、合わせて14回にわたって特設ニュースを編成した。内容としては、激しい雨・風の状況、あるいは避難指示、避難勧告、それから河川の増水状況などを中心にお伝えした。「土砂災害警戒判定メッシュ情報」「洪水警報の危険度分布」を活用して、今どこが危険なのか、視覚的にわかりやすくお伝えした。また映像を縮小し、常に画面の隅に情報を発信する逆し字では、交通情報や避難所情報をお伝えした。さらにラジオでも早朝から夕方まで、断続的に北海道の情報をお伝えした。特に避難所にいる人たちは、テレビを見られない人も大勢いるので、ラジオでも台風被害の全容がわかるよう心がけた。さらに、「ライフライン情報」というコーナーを立ち上げ、避難指示などが出ている自治体の避難所や交通情報、停電が続く地域などをお伝えした。

○ 「土砂災害警戒判定メッシュ情報」のデータ元がどこか教えてほしい。

## (NHK側)

気象庁が自動的に作成している。気象庁のホームページでも見ることができ、放送でも気象庁のホームページで公開していることを伝えた。「洪水警報の危険度分布」についても、同様に気象庁のホームページで見ることができる。放送では最新の情報を画面に写していたので、説明している間に色が変化することもあったが、刻一刻と変わる様子をお伝えした。

- 今回の報道に関して、漠然と今までと違うと思っていたが、説明を聞いて、何が 今までと違うのかよくわかった。
- 昨年を経て、説明のように報道の仕方を変えたことはすばらしいと思う。ホームページを見ることができない人もいるので、テレビで情報を公開することはとても 重要だと思う。今後も減災に向けた報道を続けてほしい。
- 8月14日(月)NHKスペシャル「樺太地上戦 終戦後7日間の悲劇」(総合後8:00~8:43)を見た。これは非常に重たいテーマで、見ていてつらくなる内容だったが、この番組が終戦の日の前日に放送された意義を強く感じた。生存者による証言を基に、取材と裏付け調査が丹念になされており、とてもよく理解できた。この悲劇について、これからの若い世代に語り続けていかなくてはならないと思う。戦争とはどういうことなのかを考えさせる、非常によい番組だった。

根気強く、丹念にインタビューを行った。樺太に関する番組は引き続き放送していきたい。

○ 8月15日(火) NHKスペシャル「戦慄の記録 インパール」(総合後7:30~8:43)を見た。すごい番組だと思った。1点、気になったことがある。連続テレビ小説「ひよっこ」で主人公のみね子の叔父、宗男がインパール帰りだったが、これはこの番組を見越しての設定なのかということだ。宗男の英国兵とのエピソードはとてもよかったが、インパールと聞いてわかる人が何人いるだろうと思っていた。しかし、この「ひよっこ」の放送を通して、インパールが何かということに興味を持ち、この番組を見た人がいただろうと思う。これが意図して行ったものだとすると、本当にすごいと思うので教えてほしい。

## (NHK側)

「ひよっこ」の宗男の設定については、NHKスペシャルとは関係はない。 この設定は、インパールに行った人の中で茨城県出身者が多いという史実が ベースになっている。

〇 8月29日(火) ひるブラ「満喫!絶景花畑~北海道・美瑛町~」(総合 後 0:25 ~0:45) と8月30日(水) ひるブラ「野菜王国 秘密は土とトラクター! ~北海道・上富良野町~」(総合 後 0:20~0:43) を見た。よく通る場所だが、番組を通して新しい発見があった。アナウンサーとリポーター、小窓にゲストという形がとても新鮮で、楽しく見ることができた。ゲストによるかとは思うが、小窓から目立ちすぎず、よい感じで現場と掛け合っていた。1点、アナウンサーの黙っているときの顔がまじめというか真顔というか、もう少し表情があるとよいと思った。

### (NHK側)

アナウンサーの表情についてだが、生中継番組であるため、時計を見たり、 次にすることを考えたりしてしまい、表情が硬くなってしまったのだと思う。 そこを含めてスキルアップするよう、意見を伝えさせていただく。

○ 9月2日(土) 穴場ハンター 旅ガイドスペシャル~十勝編~(総合 前 10:05~ 10:48 北海道ブロック)を見た。その時々のよい場面を放送していて、とても楽しく見た。かなり前の放送の映像もあったので、これを「旅ガイド」として放送するのは大丈夫なのかと気になった。

「旅ガイドスペシャル」は、北海道LOVEテレビという枠で放送した。 9月の北海道LOVEテレビは、帯広特集月間として放送を行っていたので、 ぜひ帯広に足を運んでほしいという意図で制作した。もちろん現在営業して いない場所を除いて放送しているが、何年も前のものを「旅ガイド」という 形で放送するのかについては、今後検討したいと思う。

> NHK札幌放送局 番組審議会事務局

## 平成29年7月NHK北海道地方放送番組審議会

7月のNHK北海道地方放送番組審議会は、19日(水)、NHK札幌放送局において、 9人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、いくぞ~!北の出会い旅「春到来!活気づくオロロンラインを行く」 をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、8月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告が行われ、 会議を終了した。

## (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

副委員長 豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

委員 齋藤 拓也 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)

中田久美子 (東海商事株式会社 取締役社長)

蛭田亜紗子 (小説家)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村木 秀雄 (いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポートステーション総括コーディネーター)

山下 徹也 ((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)

### (主な発言)

<いくぞ〜! 北の出会い旅「春到来!活気づくオロロンラインを行く」 (総合 6月30日(金)後7:30~8:43)について>

○ 新しく加わった星麻琴アナウンサーは元気があっていい印象を感じた。編集もテンポがよく、テロップの文字の工夫や効果音なども楽しめた。ゲストのダンディ坂野さんとスギちゃんは、なぜこの2人なのかという気はしたが、違和感はなく、おもしろかった。日本海のオロロンラインは、自分はなかなか行く機会のない地域だったので、いつか行ってみたいと興味を持っていた。増毛町で桜を見つけたときに「まだ桜が咲いている」という場面があったが、ロケ日を視聴者に知らせたほうが分かりやすかった。また、観光案内所で昔の写真や映像とともに、歴史的な流れなども説明していたのはよかったが、高倉健さんの映画のロケ地だったので、その実際の映像もあるともっとよかった。地域の人たちが元気でやっているという感じが伝わってきて、番組全体としてとても楽しく見た。

- 吉幾三さんの人柄や人情味が番組全体に出ていて、とても親しみを感じた。その 地域の歴史も伝えていたところが参考になった。復興を願って南富良野町で「いく ぞ〜!農園」を作ったということだが、番組企画の農園だけではなく、実際に町の 復興がどのように進んでいるのかの紹介があればもっとよかった。また、その地域 の特色として特産品の農産物などの紹介があるといいと思った。
- 全体的に楽しく見た。「オロロンラインを行く」という番組タイトルであり、稚内までの地図も出てきていたが、その途中までしか行かなかったので、意外な感じがした。吉さんのレコードのジャケットが増毛で撮影されていたくだりなどとても興味を持って見た。ダンディ坂野さんの名前を板野さんだと勘違いしていたという最後の落ちには爆笑した。一方で、ぶっつけ本番の旅ということで、撮影交渉などをその場でしているはずなのに、観光案内所に入っていったらスギちゃんがすでにいたので、せっかくの番組のコンセプトを崩しているのではないかと感じた。また、番組では出演者のトークの内容をほとんど文字テロップでも伝えていたが、そのねらいなどがあれば教えてほしい。

桜が咲いていた場面への意見については、撮影日も一つの情報だと思うので、次回以降参考にしたい。番組のテーマが町の「栄枯盛衰」だったことから、それに合わせてゲストの人選も行った。南富良野町の「いくぞ〜!農園」では、今後ロケを継続し、町の人たちとの関わりも出てくると思う。町全体の復興がどうなっているかの紹介があるとよいという意見も生かして制作していきたい。この番組で、吉さんは基本的にぶっつけ本番でやっており、観光案内所の場面もそのつもりで、出演者は本当に知らないまま入ったのだが、そこにゲストがいるというのは違和感のあることだと思うので今後の参考にしたい。コメント部分は分かりやすく、なるべくスーパーでも伝えるようにしている。

○ とても楽しく見た。ゲストがなぜダンディ坂野さんとスギちゃんなのか不思議に思っていたが、先ほどの説明でよく分かった。吉さんのレコードのジャケットの写真が増毛で撮影されていたことに驚いたが、この番組の中で本当に必要な情報だったのかと少し感じた。番組のタイトル通り、オロロンラインで稚内まで行ってくれるかと思っていたので、途中で終わってしまったのはとても残念だった。観光という面では、食などのほかにすばらしい風景もあるので、そこも紹介してほしかった。吉さんのアドリブ的な進行のままいくという流れには感心したが、少し時間を長く感じてしまうような作りだったので、食や風景などを交えて地域性をさらに出しな

がら、緩急をつけて番組を構成したほうが、より見やすくなったと思う。全体としては、地域の人々の地元に対する思いや郷土愛がよく伝わるいい番組だった。

- この番組を今回初めて見た。冒頭で珍道中になりそうな予感がして心配になったが、それぞれのゲストが別行動になる2日目の場面も挟みつつ、最終的に旅が吉さんの歌で終わり、番組の中でもスギちゃんとダンディさんの人柄が何となく分かり、一生懸命やっていたのが印象に残った。各地で元気に頑張っている人を探して話を聞いたりして、その土地の人々の思いや苦労、頑張っている姿が伝わってきて、派手さはあまりなかったが、いい印象の残る番組であり、過去の映像を交えながら地域の歴史を振り返ろうとする場面もよかった。一方で、内容が盛りだくさんなことと、場面がややめまぐるしく変わっていく部分があり、見ていて散漫になってしまったと思うとともに、全体として長く感じられた。番組名で「オロロンラインを行く」と銘打ち、地図でも紹介しておきながら訪れることのない町もあったので、どのような基準で訪れているのか疑問が残った。「いくぞ~!農園」は冒頭でもう少し説明があれば、取り組みの意味や番組の中で継続して行っていることが分かってよかった。
- ゲスト2人のギャグがスペッていた部分があったが、番組には違和感なく溶け込んでいて、全体的に楽しく見た。留萌の場面では、建物やニシン漁の網元の方の暮らしぶりがかいま見えるとともに、過去の漁の映像も交えて伝えており、興味深く見た。吉さんのレコードのジャケットも、何の接点もないと思っていた増毛と吉さんのつながりがあっておもしろかった。一方で、この番組はその土地で暮らす人との出会いがメインで、地域の人をクローズアップする作りになっていると思うが、土地の特徴や観光資源ももう少し取り上げて、旅情を誘う場所も見せてほしかった。そこに行ってみたいと視聴者に思わせるような番組であってほしい。

### (NHK側)

オロロンラインで稚内まで行かずに途中で終わったということについては、指摘のとおり、中途半端と思われたかもしれない。今後の参考にしたい。また、めまぐるしいという一方で長く感じるという意見があったが、一つつ場面をせき止めて、印象づけるような編集や構成にするように、工夫できればよかった。「いくぞ~!農園」については、番組内で継続している企画なのだが、唐突感があったということなので、次回に生かしてもう少し丁寧に紹介したい。

○ ふだんはこの番組を見ていないが、今回おもしろく見た。しかし、なぜふだんは

見ないのか考えると、内容がぎっしり詰まっているというか、余白のなさというか、疲れる感じがして、私にはそこがつらく感じるためふだんは見ないのだろうと思った。稚内まで行かなかったことについては、「オロロンラインはこのルートで、今回はここまで行きます」という感じで示せればよかった。取材対象や話題が次から次に変わり、73分という時間に詰め込み過ぎのように思った。ただ、このような番組は結局、好きか嫌いか、見るか見ないかという面があると思うので、個人の感性や好みで分かれてしまうところもあると思う。

- 番組をくりかえし2回見てきたが、最初見たときは放送から50分くらいしたところで集中力が途絶えてうとうとしてしまった。その後もう一度見たが、やはり同様になってしまい、番組の時間が非常に長く感じられた。それは、番組の展開が速く、おもしろく感じたところですぐに場面や話題が変わってしまうという印象を持ったことにあるように思う。出会う人や地域の魅力的なところをもっと掘り下げて伝えてほしかった。最もがっかりしたのは、スギちゃんが登場した場面であり、せっかく高倉健さんの映画の名シーンに使われた場所なのに、サプライズで登場するならもう少しロケ地を意識した演出で登場させてほしかった。「出会い旅」というタイトルの割には、何に出会ったのかが記憶に残らない感じがした。この番組で何を伝えたいのかという番組コンセプトが少し弱いのではないか。一緒に旅をするアナウンサーももう少し、地域の人や場所のよさを引き出すように関わってほしい。「いくぞ~! 農園」については、私も唐突感を感じたので、もっと説明がほしかった。展開が速過ぎるので、いいことをしていると思うのだが、復興という気持ちが伝わりづらく感じた。
- 吉さんのキャラクターによって、どのような展開になるのか分からない楽しさが、この番組の魅力だと思う。今回のゲスト2人の掛け合いもテンポよく、楽しく見た。 出演者のしゃべりについて文字テロップを出してフォローしていたが、多過ぎるように感じた。増毛の観光案内所で、映画を再現した場所などでそのシーンを意識した服装をしていたが、何の説明もなくて不自然に感じた。また、小平町では、なぜ陶芸をやることになったのか、そこまでの説明が弱くて不自然だった。留萌で「ニシン御殿」と表現していたが、「番屋」が正しい呼び方ではないかと思う。オロロンラインを地図で示していたが、視聴者は稚内まで全部を行くと期待して見てしまうので、今回は増毛・留萌・小平・苫前の4か所を示すだけでよかったのではないか。この番組を初めて見たので、「いくぞ~!農園」は私も唐突過ぎるように感じた。

#### (NHK側)

文字テロップについては、文字にしても意味がないところや雰囲気で伝わ

るところを除き、基本的にスーパーする作りにしたが、指摘を踏まえて今後参考にしたい。「いくぞ~!農園」は、吉さんのアイデアで台風被害の被災地に元気を届けようとやっている。被害のあった地域を忘れずに、定期的に見ていきたいという思いでやっており、そういう部分も含めて丁寧にフォローして伝えていきたい。番組の時間が長く感じたという意見については、今後もっとメリハリをつけるなど長く感じさせない工夫をしていきたい。

○ 字幕の件で確認だが、字幕をオン・オフに設定できると思うが、それとは別のものなのか。音声を聴き取りにくい人のためのサービスでもあると感じた。

### (NHK側)

今、話していたのはオン・オフできる字幕放送とは別であり、番組内の文字のテロップのことだ。字幕放送は、テロップが出ている時には二重になってしまうので、出さないようにしている。

## <放送番組一般について>

- 7月7日(金)北海道クローズアップ「イカが消えた!?~水産王国・北海道に迫る危機~」では、テーマが難しくなりそうなところを、さかなクンがゲストだったことで、興味を持って見られるようになったと思う。賛否両論あるかもしれないが、さかなクンがゲストだったことで番組がおもしろくなった。取材もいろいろな視点でなされており、とても興味深い内容だった。ただ、「イカが消えた」という番組タイトルだが、イカが取れなくなった理由、その対応・対策として何が必要なのかということが、いまひとつ分かりづらく感じた。観光の話もあったが、もっとイカに特化して、実はどういう影響があるのかなど示してほしかった。全体としてはよく取材されており、初めて知ることがたくさんあってよかった。
- スルメイカについては漁獲量の今後の展望について話が出ていたが、ほかの種類 の魚についてはどうなっているのかということを、もっと知らせてほしかった。さ かなクンがコメントを求められた時に急に振られたような感じで、見ていて違和感 を覚えた場面があった。

#### (NHK側)

今回のテーマはさまざまな要素が絡んでおり、ボリュームがあった。イカ

だけに限らず、北海道のさまざまな魚も漁獲量の問題があり、そのような中でどう向き合っていったらいいのかを今回主眼としたが、まずイカがなぜ不漁なのかを納得していただけるように伝えられたらよかった。例えば、スタジオでの解説の中でも補足できたと思うので、その点でも意見を今後に生かしたい。北海道全体の漁業を取り巻く状況は厳しいものの、漁業者や研究者の方々が一生懸命取り組んでいて、この環境変化にどう対応するのか、その一生懸命さを伝えたかった思いもあり、厳しいだけではなくて乗り越えようとしている人たちの取り組みや努力をきちんと伝えたいということで、今回番組を制作した。漁業は非常に大きなテーマなので、引き続き取材を続けていきたい。

○ さかなクンというタレントを起用することで興味を持ちやすい雰囲気を出そうとしているのが好印象だった。しかし、緊張しているからなのか、ぎこちない部分がところどころ見られたので、事前のフォローがもう少しあったほうがよかった。イカ以外の事例も紹介されており、さまざまな魚で取り過ぎによる減少が今問題になっているので、それを取り上げたことは視聴者に働きかけるのでいいことだと思うが、そのような事例がイカにどう結びつくのかという話にはならずに番組が終わってしまったので、イカに関してはモヤモヤする思いが残った。

### (NHK側)

ゲストの緊張を解きほぐしながら放送に臨んだ。今後、生放送でゲストの 方々に最高のパフォーマンスを出してもらい、分かりやすくプレゼンしてい ただけるよう、考えながらさらにやっていきたい。

- サケ漁の復活や、ITやAI活用ということで内容はすごく興味深かったが、タイトルのイカに引きつけられて見たので、「今年はイカは増えるだろう」だけで終わってしまって物足りなく感じた。さかなクンはタレントとしては好きだが、彼を生かせる番組にはなっていないのではないかという印象を持った。
- さまざまな魚の漁獲量が減少している原因や現状が分かりやすく伝わっていた。 ただ、タイトルはイカでなくてもよかったように思う。新しいITやAIを活用することで対応が進んでいるという事例に興味を持った。農産物と異なり、海の環境を変えるのは難しいと思っていたが、「今、研究する余地がある」というのは新鮮な情報だった。スタジオ解説の先生の手書きのパネルは、手書きのよさはあるが、少し違和感があった。せっかくいいコメントやキーワードだったので、もう少し丁寧に表示してほしかった。

○ 「イカが消える」という深刻な情報を伝えていながら、キャラクター的にバラエティー色の強いさかなクンというのは、見ていて非常に違和感があった。さかなクンばかりに目がいってしまって、内容が全然頭に入ってこなかった。

## (NHK側)

さかなクンは北海道の漁港や漁協、漁師ともすごくつながりのある方であり、なぜ今回のゲストなのかということの意味合いをもっと伝えられていたらと思った。そうした背景のゲストが北海道の漁業について語るのだということを出せれば印象が変わったのではないか。意見を生かして今後のゲスト選定やゲストにどういうコメントを頂くか、考える際のヒントとしたい。

○ われわれ視聴者はさかなクンがコメンテーターとして出ることは番組を見るまでは分からなかった。新聞のテレビ欄にも書かれておらず、いつもの「北海道クローズアップ」だと思って見ているところへいきなり出てくるとびっくりする。そうであるならば、「さかなクンが語る水産王国・北海道に迫る危機」といったタイトルをつけたほうが、「今日はさかなクンが出る」と思って、より視聴者の興味を引けるのではないかと思う。

### (NHK側)

ぜひ今後の参考にしたい。番組の告知スポットでもさかなクンが出演する ことを番組の売りとして伝える工夫ができたらよかった。

○ 7月14日(金)北海道クローズアップ「動き出した アイヌ遺骨問題」は、大きな驚きを感じた。番組ではオーストラリアの先住民族アボリジニの事例も出ていたが、翻って日本では大学研究者の人たちが中心で、国の関与がどうなっているのか、実際どういう動きをしているのかをもう少し知らせるべきだった。また、100年前から先住民族の遺骨で人種の違い、知能・身体能力、技術の進歩といったことを調べているということだが、どういう結果になっているのかには触れていなかったと感じた。スタジオ解説の教授が発言の中で「コレクション」という言葉を使っており、もう少し配慮してほしかった。

## (NHK側)

国の関与がどういう形なのかということについて取材して、回答を得た部分もあったが、番組内で放送しきれないところはあった。スタジオ解説での「児玉コレクション」という言葉は、北海道大学名誉教授の児玉作左衛門という方が遺骨を収集したというところから来た言い方であり、解説者自身に

は差別的な意図はないと思うが、視聴者は違和感を覚える言葉だとも思う。 生放送番組なので、そのあたりも事前に打ち合わせしたほうがよかったと思った。

- これだけ多くの遺骨が学術目的という名において集められ、分散していることに 非常に驚いた。日本の学者の中に返還に対しての異論があることにも驚いたし、死 しても尊厳は保持されるはずなのに、いまだ議論が必要だと考えている人たちがい るということにはショックもあった。オーストラリアの取り組みなども分かりやす く紹介されており、先祖の遺骨の取り扱いについての違和感も、番組の中で視聴者 が真摯(しんし)に受け止めることができ、訴求力のある番組だった。われわれ北 海道民にとって、アイヌの方々は身近な存在であり、日本人全体にはあまり意識さ れていないかもしれない「少数民族問題」というのが浮き彫りにされた、問題提起 に富むすばらしい番組だった。
- 大きな関心を持って見た。今問題になっているアイヌの遺骨問題の経緯について、歴史的背景、専門家の見解、取材記者のコメントを交えながら説明されており、見応えがあった。国内では、特に旧帝国大学を中心に多くの遺骨が依然として保管されていることが番組で明らかにされ、驚いた。現在の大学では厳しい研究倫理が求められているが、研究倫理上、現在の手続きでは到底許されない方法で収集された遺骨が返還されていないということ、研究の対象として保管されていることに大きな違和感を覚えた。オーストラリアでの政治的な謝罪や返還の取り組みも紹介されていたが、日本ではこのような視点が相当希薄だということも番組を通してよく伝わった。
- この番組の特色は、オーストラリア・アボリジニの事例を現地取材して取り上げた点にあると思う。同化政策が1960年代まで続いて、痛ましい歴史を持つアボリジニと国家との間には深い溝があったと思うが、それからわずか半世紀足らずでアボリジニの子・孫と政府と博物館との関係が築かれ、解決に向かって前向きに進んでいくことにとても驚いた。オーストラリアの首相が謝罪して、政府が過去と真摯に向き合っている姿が印象的だった。それに対して今の日本のアイヌ問題は責任の所在があいまいであり、どうしたら前進していくのだろうとため息が出た。アボリジニの事例はとても参考になった一方で、その話題に時間を割いた分、アイヌ問題への踏み込みが物足りなかった。また、遺骨返還の問題は、アイヌの人たちの世界観や死生観ともつながってくると思うので、アイヌの人々の考えや文化といったものにももっと踏み込んだ内容にしてほしかった。

遺骨を調べることで何が分かるのかということへの研究者側の意見ももう一歩踏み込んでひもといて伝えられたらよかった。また、研究者の倫理と人権などをどう折り合いをつけていくかは大きなテーマであり、今回の番組で最も気を遣ったのは、過去は許されていた行為を今の価値観によって一方的に断罪していいのかということを考えた。一方的な見方にならず、「研究倫理と人権をどう折り合いをつけていくかが今問題になっている」ということを提示した。

○ 7月1日(土)北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ「今日はとことん!東川町」(総合前 10:05~11:00 北海道ブロック)について、まず、ひざくりげの「カメラで残す わが故郷~東川町~」は、写真の町と言われるようになったのは町民自らの活動の歴史があったからこそということを過去のひざくりげの映像から確認することができた。「一個人の思いが町の歴史を物語り、時代をつなぐものになっていっている」という言葉に非常に感銘を受けた。また、「写真甲子園」についての情報ももう少し盛り込んで、それがどう変わってきたかということも伝えてほしいと思った。

「穴場ハンター」では、東川町の暮らしやすい環境のすばらしさが魅力的に伝わっていた。ただ、東川に多くのカフェがあるという場面で、説明が簡潔すぎたのでもっと詳しく伝えてほしかった。また、生中継の会場でスイーツをたくさん並べることでカフェが多いということを強調したかったのは分かるが、どこの店のスイーツで、どういう特徴や味があるかを丁寧に紹介してほしい。手作りのスイーツを並べた単なるディスプレイで終わらせるのではなく、せっかく手描きのこだわりあるマップも紹介されていたので、それを生かした魅力的な紹介のしかたができたと思う。

○ 以前の番組審議会でも伝えたが、「北海道中ひざくりげ」の初回放送が6月23日 (金)にあり、今回の「穴場ハンター&北海道中ひざくりげ」では、ひざくりげが 再放送の形になる。以前、指摘したときに、「より多くの人に見てもらいたいという ねらいがある」という回答だったが、初回放送を見ていた人が今回また同じものを 見たらチャンネルを変えてしまうと思う。そうだとすると、ねらいとは逆の方向に なるのではないか。せっかく生中継で現地入りまでして、盛り上げて放送している のであればなおさら、「北海道中ひざくりげ」と「穴場ハンター」のカップリングは、 新鮮味があるうちに初回放送としてやるべきではないかと思うので、もう一度意見 として伝えたい。

本当は2回見るに堪える番組であれば一番いいのだが、意見のように「すでに1回見ているからチャンネルを変えてしまおう」と思われるのはねらいと逆になるので、今後の課題として重く受け止める。

補足すると、時間帯によって視聴者層が異なる面もある。課題の一つとして受け止め、視聴者の年齢や生活時間帯などの視点からも研究したい。

- 7月15日(土)北海道LOVEテレビ 北海道中ひざくりげ30周年スペシャル「南こうせつが奏でる天売島 希望の歌いつまでも」(総合 前 10:05~10:48 北海道ブロック)は、南こうせつさんが天売島で20年前に開いたコンサートから、時の流れをうまく表現できていた。島民のエピソードも交えて、南こうせつさんの歌詞に込められた思いをメロディーに乗せて、じっくりと聞かせ、心に響く感動的な番組だった。天売島に向かうフェリーの場面からスタートして、島から離れるフェリーでエンディングを迎える構成も、旅番組ならではの深い感動が余韻として続く、秀逸な番組だった。
- 〇 7月15日(土)のおはよう北海道 土曜プラスでは、「"求人"はあるのに"仕事"に就けない」というリポートを見た。就労支援を行っているところはほかにもさまざまあると思うので、そのような現場について今後も紹介してほしい。

#### (NHK側)

リポートの制作者は、「職のミスマッチ」という課題を継続して取材して おり、どうしたらミスマッチを減らせるのかを、いろいろと取材した中で今 回伝えた。実際に活動しているNPOの方々などにどのような苦労があるの か、もう少し話を伺ってもよかったと思う。

- 6月25日(日)今夜も生でさだまさし「~北の国から2017網走~」は、視聴者からのはがきを読んでという進行がほとんどで、それだけで盛り上げて生放送をもたせるのはすごい、さだまさしさん恐るべしと改めて思った。網走監獄の中からの中継で、網走監獄が一般に見られるようになっていることを知ってもらえたのは、地元にとっては大きな意味があったと思う。とにかく、生放送でずっとやっているというのがすごかった。
- 7月11日(火) ハートネットTV 「広がる "農福連携" ~新しい地域のカタチ~」は、6月16日(金) 放送の北海道クローズアップ 「障害者の参加で農業が変わる~

道内に広がる農福連携の試み~」とはまた違う番組の作りになっていた。ハートネットTVは、福祉にかなり興味のある人が見ると思うので、その期待にしっかり応える内容になっていた。農福連携に興味を持ち、もっと深く知りたいという人に対して、「北海道クローズアップ」に続く第2弾ということでは、課題などもきちんと伝わり、より実践的な中身になっていてよかった。

#### (NHK側)

福祉の専門番組として「北海道クローズアップ」よりも内容的に一歩踏み 込んで伝えたという面で、番組の住み分けができたと思う。

○ 7月12日(水)ぐるりニッポン 灯台紀行「チキウ岬灯台」(BSプレミアム後 7:30~7:59 全国)は、初めて見たが、オープニングと音楽がすばらしく、きっといい番組なのだろうと期待していたとおりの番組だった。チキウ岬は船からでないと全体像が見られないので、地元の人でもあまり見る機会がないが、雲海や上空からの映像などすごくきれいな映像が見られて、私の周りでもこの番組は話題に上っていた。

また、このごろEテレがすごくおもしろい。教養と子ども向け番組がほとんどだろうと思っていたところ、「100分 de 名著」、「やまと尼寺 精進日記」、「レイチェルのパリの小さなキッチン」、「香川照之の昆虫すごいぜ!」など個性的な番組が増えてきたので、これからも楽しみにしている。

○ 7月16日(日)明日へ つなげよう ふるさとグングン!「おいしい・楽しい・かっこいい!~アイヌ文化で地域おこし~北海道白老町」は、アイヌの人々と白老町の若者たちがいかにして多文化共生の町を作ることができるのかということだった。「おいしい・楽しい・かっこいい」というキャッチフレーズでアイヌの文化を見直して地域おこしをしようということだが、アイヌの人たちがそれに対してどう思っているのかあまり見えてこなかったのが気がかりだった。取り組みを始めたところに価値があるのは伝わってきたが、さらに、その中での葛藤や継続していく上での問題などもぜひ知りたいと思う番組だった。

# (NHK側)

若い人から見てもアイヌの文化には魅力があるというところから始まっており、アイヌの人たちの魅力や文化を掘り起こしていこう、それが地域再生に生かせるというスタンスで徹頭徹尾やっていた。意見のあったアイヌの人たち自身がどう思っているのかというのは足りなかった部分もあると思うので、番組の担当者に伝えたい。

○ NHKの番組で具体的にそういうことがあったわけではないが、先日、アウトドア 防災ガイドの講演を聴いたときに、今回の九州の豪雨のときなど被災地からアナウ ンサーなどが伝えるときのリュックの背負い方などが正しくないという話があった。 防災上誤ったことを伝えることにならないよう、そういうことも気にして放送して ほしい。

# (NHK側)

アナウンサーやリポーターが災害現場から中継する場合には、TPOをきちんとわきまえ、違和感のないきちんとした姿でということを第一に考えている。そのうえで、災害報道を伝えるときの格好で視聴者に誤解を与えないように、より心がけていかなければならないと感じた。今後もそのような点に注意したうえで伝えていくよう現場に周知したい。

NHK札幌放送局 番組審議会事務局

# 平成29年6月NHK北海道地方放送番組審議会

6月のNHK北海道地方放送番組審議会は、21日(水)、NHK札幌放送局において、 8人の委員が出席して開かれた。

会議では、議事に先立ち、空席となっている委員長、副委員長の互選を行い、新しい委員長に小林米三郎委員、副委員長に豊島琴恵委員を選出した。

続いて、中泉局長から6月1日付で新たに委員に就任した齋藤拓也氏と蛭田亜紗子氏の紹介とあいさつがあり、議事に入った。

議事はまず、北海道スペシャル「"鉄路縮小"の衝撃~私たちは何を選ぶのか~」を はじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

続いて、7月の番組編成、放送番組モニター報告と視聴者意向報告の説明が行われ、 会議を終了した。

# (出席委員)

委員長 小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

副委員長 豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

委員 齋藤 拓也 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)

蛭田亜紗子 (小説家)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポートステーション総括コーテ゛ィネーター)

山下 徹也 ((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)

和田 年正 (北海道新聞社論説委員)

### (主な発言)

<北海道スペシャル「"鉄路縮小"の衝撃~私たちは何を選ぶのか~」

(総合 6月2日(金)) について>

○ 鉄路縮小についての「北海道スペシャル」は、去年放送のあった1回目の続報であり、前回は道庁からの出演者がなかったが、今回は高橋はるみ知事がこの問題では初めてのテレビ出演ということで、その意義は非常に大きかった。視聴者からの意見募集も行い、冒頭で出た意見が「3年後に鉄道がなくなるかもという現実を話し合ってください」というもので、番組の始まりにふさわしく、それをスタジオ討論の出演者も見ていたと思うのでよかった。中央にある大きなモニターで映すことも非常に分かりやすかった。海外の取材で、フランスやドイツといった双方異なる対照的な事例も取り上げ、力を入れて取材しており、去年の第1回よりも見応えが

あった。糸井羊司アナウンサーの進行もよく、真剣に見ることができた。

- 以前の番組審議会で、鉄道問題については「日曜討論」のような番組をという意見が出たが、それが具体的になったような番組だった。スタジオの討論者だけではなく、取材した外国や道内の事例が織り交ぜられており、非常に見やすくできていた。特にドイツの事例はおもしろかった。バスと鉄道、タクシーも含めた公共交通がそれぞれの強みと弱みを生かした役割分担をという提言が出ていたが、それは今まで見かけなかった意見であり、とても重要なことだと思った。
- 道民全体で考えるべき問題だということが、番組の構成や内容から語りかけてくるように感じ、非常に充実した中身だった。討論もさることながら、「外国の事例を紹介してほしい」という番組審議会の意見を生かしていたと思う。今の北海道にとって一番参考になるのがドイツとフランスの事例だという意味で取り上げたと思うが、適切だったと思う。特にドイツの「公共交通で移動するのは一つの権利である」という言葉は理念としても学ぶところがあり、そこをもう少しクローズアップするとともに、スタジオでも議論できるとよかった。総じて、さまざまな話を一生懸命まとめようとしていて好感をもった。これからもきちんと情報を発信し続けてほしい。

#### (NHK側)

以前の審議会で頂いた意見も参考に生かして、継続して取材をしてきた。 ドイツとフランスの事例は、番組の中で議論が活発になる一つの材料となっ たのではないかと考えている。人口減少も進む北海道で公共交通というもの をどう維持していくのか、それは道民一人一人の考えることであるというメ ッセージは重要なことだと取材をしても感じたが、番組全体としてそれが伝 わっていたのであればよかった。

広く道民全体がどういうことを考えているかということを伝える意味でも 世論調査を行い、その結果も紹介した。また、海外の事例を見ることで、「公 共交通で移動する権利」といった学び取るべき基本的な理念があったと思う し、実際に効果を上げたバスとの接続の事例なども今後の参考になると思う。

○ 視聴者からの意見・質問を紹介しながら、国、道、JR側の考えを引き出す糸井 アナウンサーの力量はすばらしかったと思う。海外事例の紹介もあり、分かりやす かった。ドイツの事例は、道民にとっても理解を深める助けになったと思う。視聴 者の意見も取り入れながら内容を膨らませていったことはとても分かりやすく、視 聴者に対して訴求力のある番組だった。最後の場面で、流通経済大学の板谷和也教授の締めの発言がとても前向きな形で明るめだったので、私としてはいい気持ちで番組を見終えることができた。

○ 路線見直しの発表から半年ほどが過ぎたタイミングで、各関係者を集めて、さまざまな立場の基本的な見解を示す機会をメディア側が作ったという点で、公共放送の役割がよく果たされていた。番組の冒頭で、北海道庁や知事のリーダーシップを求める視聴者の声を紹介する形で、この問題でテレビに初めて出演した知事の見解を問うなど、この機会を生かして意見を引き出そうという姿勢も価値のあるものだった。ただ、道のビジョンが実際にどのように実行されていくのか、どういう姿勢を持っているのかということが見えなかったので、今後も引き続き関係者を議論の場に招いて、その姿勢を確認し続けてほしい。

世論調査やアンケートの結果、視聴者の声などを織り交ぜて紹介し、とても盛りだくさんの情報で学ぶところが多く、問題の複雑さそのものが見える場になっていた。一方で、情報量が多かったので、視聴者は難しいという印象を持ったかもしれない。他国の事例を紹介するときに、先進諸国の公共交通についての国民的な合意や理解がどのように形成されてきたのかを掘り下げることで、社会全体の問題として考えるという材料を提供するとさらによいと思う。

○ それぞれの意見を引き出そうとする努力をとても感じたが、議論や討論と言えるところまでは達していないと感じ、若干残念に思った。出演者は奥歯に物が挟まったような、表層的なことばかり言っているように感じた。生放送の難しさもあると思うが、もう少し突き詰めて話をしてもらう展開があってもよかった。視聴者のメッセージの必要性を感じる一方で、もっとNHK独自の意見や調査を盛り込む時間の使い方をした方がよいと思った。海外事例の紹介から、新しい観点や違う視点を見ることができてよかった。また、もう少し問題に切り込み、視聴者が自分たちの問題として考えるきっかけによりするためにも、視聴者の怒りや問題意識といったものを訴えかけていく内容にする必要があったのではないかと思う。

# (NHK側)

今回の一つのねらいは、当事者の代表が集まり、活発な議論をするということだった。当事者が今思っていること、考えていることを表明することで、議論の場が始まっていくということで、引き続きこのような場を設けていきたいと思う。公共交通を社会全体としてどう捉えるべきなのかというのは、北海道の問題を超えた全国的なテーマだと思うので、ローカルな視点とともに、巨視的な視点も持ちながらこのテーマに取り組んでいきたい。

- 見応えのある長時間番組であるとともに、糸井アナウンサーの進行はすばらしかった。出演者の全員から偏りなく意見や報告を聞く流れの中で、時には知事に対して厳しく深く聞き直すところもあり、分かりやすく、長さを感じずに見ることができた。海外事例は、北海道での可能性だけではなく、現実の難しさや住民の意識の違いなど、両方が分かりやすく伝わった。また、これまでになかった天塩町の相乗りの取り組みや、路線存続を懸けて立ち上がったボランティアの動きなど、具体的な住民の活動に刺激をもらえた。住民自らが真剣に考えて、地域の人たちとつながっていくことが、これからの北海道にとって大きな意味になるのではないかとも感じた。
- このテーマはNHKがずっと取り上げてきたもので、広く北海道民の鉄路存続の 議論を醸成してきたという役割を強く感じている。今回の出演者の顔ぶれを見て、 ある程度の方向性を示すことができるのではないかと期待したが、関係者は従来ど おりの発言で、新しい視点や斬新な発言もなく、今までの発言を繰り返し述べてい るという印象を持った。当事者意識に欠けている印象だったので、糸井アナウンサ ーがもう少し突っ込んで質問し、それぞれの立場を掘り下げて、議論を活性化して ほしかった。また出演者の人数はもっと絞ってもいいように感じた。海外事例に学 ぶことはよいと思う一方で、そのリポートに使う時間を議論する時間にもっとあて た方が有意義になったのではないかと思った。

出演者がこれまでの見解を話しているという感じから、さらにもう一歩深い議論をするためには何が必要だったのかということを、意見を参考に考えていきたい。取材の報告が、スタジオの議論と有機的につながるように、北海道が抱えている課題を乗り越えるための一つの提示になるように、厳選しながら引き続き取材を進めていこうと考えている。

鉄路の問題は、これまでに「北海道スペシャル」、「北海道クローズアップ」で取り上げ、今回はその第3弾にあたる。BS1で6月27日から深夜に3夜連続で、今回の番組も含めて全国放送する。北海道の問題を、まさに全国各地の地域がこれから抱えていくだろう先行例として、全国の視聴者に見ていただき、参考にしていただければと思っている。

# <放送番組一般について>

- 5月19日(金)の北海道クローズアップ「ニセコ 地価上昇の裏で」では、香港の 現地取材なども交えて問題点を端的に描けていて、見応えのある番組だった。北海道 だけの問題ではないので、北海道発の「NHKスペシャル」などで、このような問題 を全国に発信してほしいと思うほどの力作だった。
- ニセコの現実を目の当たりにして、大変ショッキングな内容だったと思うと同時に、 北海道民として看過できない事態だと感じた。その実態を知り、国による対策が緊急 不可欠であると感じた。投資の背景として、何が目的なのかをもう少し明らかにして、 富裕層の動向や、世界リゾートで見られる行動パターンなどを、さらに突っ込んで明 らかにしてほしかった。自治体をはじめ、道や国はこの現実にどのような対策を講じ ていくのかを、継続して取材して明らかにしてほしい。ニセコエリアの裏側の実態を 発信し、警鐘を鳴らすことができており、大変意義があった。

# (NHK側)

北海道だけの問題ではないと私たちも思っており、全国発信に展開できない か模索している。

実態を掘り起こし、警鐘を鳴らすのが今回の番組の目的の一つだった。意見に出た背景の内容も含めて、継続取材し、明らかにしていきたい。

○ 5月26日(金)の北海道クローズアップ「子どもたちを守りたい〜医療的ケア 支援の現場から〜」では、まず、医療的ケアを必要としている子どもの道内と全国の数にとても衝撃を受けた。昨年6月に児童福祉法が改正されたということだが、どのように改正されたのか、表などを交えて改正前と改正後の比較の説明があればよかった。ご家族の苦労は大変なもので、そこに支援の手を差し伸べないと、在宅ケアが崩壊してしまうということが、この番組で十分理解することができた。このようなことに取り組んでいる看護師がいるという事実に、少し救われたような気持ちになった。解説の記者は、相づちがオーバーリアクションになっていて落ち着かない様子だったのが気になった。

#### (NHK側)

前回の「北海道クローズアップ」を担当した記者が継続して取材してきた中で、今回の第2弾の放送に結実した。

児童福祉法改正の前と後でどう変わったのかということの説明が必要だった のではないかと、番組を見て私も制作担当に伝えた。基本情報も含めて、初め て見る人にもしっかり分かるような形で伝えたい。スタジオで解説した記者は まだ駆け出しの若手であり、指導していくが、今後とも温かく見守っていただ きたい。

- 6月16日(金)の北海道クローズアップ「障害者の参加で農業が変わる〜道内に広がる農福連携の試み〜」では、農業に焦点をあて事例を紹介したことが勉強になった。 障害者の職業としての場をきちんと作っていくのはすごく大切なことだと思う。「任されていることがある」「役に立っていると思う」などの当事者のコメントがあり、明るい希望が持てる内容だった。支援事業所の形式や工賃の説明で分かりづらい部分があり、もっと丁寧に説明してほしかった。
- 自分が携わる仕事とも関係する内容であり、今そうして注目されることなのかとい う思いで、少し驚きながら番組を見た。内容もとても勉強になった。

#### (NHK側)

分かりづらいとの指摘があった部分は、もう少しきちんと説明すべき箇所だったと私も感じている。

- 感動するとともに、すばらしい事例の紹介だった。利潤を追求する法人と、障害を持った方々の自立を目指すという連携に感銘を受けた。このような番組は公共放送であるNHKの使命だと思うし、視聴者に届けることで、ノーマライゼーションがより達成されるのではないかと思う。静岡県浜松市の野菜の水耕栽培での事例では経営者の姿勢に感動したが、今後、きちんとした社会的な仕組みや規制面もしっかり見ていかないと、課題が生じるかもしれないので、もし続編があるとすれば、そのような面も踏まえ、さらに深い内容に期待したい。
- 「農福連携」というのは初めて聞いた言葉であり、興味深く見た。耳慣れない言葉の説明から入り、付加価値をつけていく取り組みや成功事例を紹介する中で、ビジネスとしてなぜ成り立つのか、そしてそれがどのようなメリットを農業の側、福祉の側にもたらしているのかが分かりやすく説明されていた。農場や作業場の現場の様子を映像で伝え、その中での接し方や、取り組みで目指していることが分かりやすく伝わってきた。知的な障害のある若者が自殺をするといった痛ましい問題も起きているので、社会との接点がありえることをぜひ伝えていってほしい。また、農を広く捉えた場合の、林業や畜産業といった広がりについても、いろいろな事例を通して知りたい

という関心をかきたてられる内容だった。

### (NHK側)

帯広局の記者と共同で番組を制作した。北海道は農業が盛んであり、畜産、 酪農、林業などさまざまな形での組み合わせがあると思うので、引き続き取材 していきたい。

- 連携というのは福祉のためのみの働きかけとイメージしていたが、農業にとっても ビジネスにつながるということを事例から改めて知った。これからの参考になる画期 的な事例だと思う。ただ、特殊な事例ではないかとも思うので、現在うまくいってい る裏にあるこれまでの苦労や過程にも興味を持った。受け入れ先のニーズと福祉の事 業所をどう結びつけるかというマッチングについて、もう少し詳しく伝えるとよかっ た。さまざまなことを考えさせられる内容だった。
- 6月3日(土)の北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ「今日はとことん!長沼町」では、「ひざくりげ」の出演者が、生放送の「穴場ハンター」にも登場するなど、つながっていたと思う。「ひざくりげ」で出ていたマサカリカボチャなども、今どうなっているのかすごく知りたいと思った。今年度はスタジオから飛び出して「穴場ハンター」を放送しているが、外に出たことでより一層のばたばた感がいい意味でよくて、前よりももっと印象がよくなった。

#### (NHK側)

4月、5月と当審議会で出た意見を参考にして制作している。今後とも意見 を生かしてより良いものを発信していきたい。

- 二つの番組をカップリングさせて過去の映像をもう一回振り返るという形式の番組は、初めて見た。過去の映像は膨大にあると思うが、ふだん目にする機会はあまりなく、やはり過去にあったことが現在とどういう接点があるのかという視点が必要だと思う。一つの番組をただ単体で再放送するのではなく、過去を振り返る時、どういうことがあって、当時はどのようなことが語られていたのかを、もう一度見るというのは歴史を感じてとてもおもしろかった。町の活性化の現在の取り組みも紹介されており、行ってみたいと思うような内容だった。
- 6月17日(土)の北海道LOVEテレビ「軽音甲子園~音楽が僕らを変えた~」は、 去年の放送に続いて2回目になるが、いろいろなエピソードが取材されており、前回 よりも番組がおもしろくなっていた。

- 軽音楽大会の裏側を見ることができ、また高校生が軽音に打ち込む背景や顧問の先 生の話なども盛り込まれていておもしろかった。
- 今回は、音楽を通して仲間と活動し、だれかに聞いてもらうということに前回よりも重きが置かれていた。それがコンクールのステージであり、披露する場があることで自信をつけたり、コミュニケーションできるようになったりしたということで、高校生の成長ぶりやドラマがあってとても感動した。
- 前回よりずっとよい構成で作られており、見ていて本当に楽しい番組だった。家族 そろって見て、同世代の子どももとても感動していた。思春期のまっすぐな気持ち、 あるいは揺れ動く感情を、音楽を通してスレートに表現している今時の高校生の等身 大の姿が映し出されていて、共感できる部分が多かった。複数の生徒にスポットを当 てエピソードを交え、伝説的な喫茶店の話もよいアクセントになっていた。今回は、 高校生が音楽で何を訴えたかったのかがうまく表現できており、秀逸なヒューマンド キュメント番組に仕上がっていて感動を受けた。

去年放送した番組の第2弾であり、去年頂いた意見を生かして、今回制作に取り組んだ。ディレクターとしては、高校生たちが曲へ込めたメッセージや、バンド活動への思いを、番組のテーマにしたかった。こちらとしても、若い感性で番組を作ってほしいという思いだった。高校生もいろいろな思いや悩みを抱えている中で、音楽に打ち込んでいることが伝わったのであれば、よかったと思う。

○ 6月17日(土)の北海道LOVEテレビ 北海道クローズアップ選「町を刻む絵地図〜北見の40年を見つめて〜」は、なぜこのタイミングでの再放送なのかと思っていたら、地図を描いた方が亡くなっていたことを、番組内のテロップで知った。番組でしっかり撮影していたからこそ貴重な映像として残ったので、「北海道クローズアップ」で撮っていて本当によかったと思う。

# (NHK側)

結果的にそのようなタイミングになったが、もともと6月の北海道LOVE テレビはオホーツクエリアをテーマにした番組を特集しようという一環で放送 した。エリア特集をすることでより注目して見てもらえればと思っている。

- 最近の「NHKスペシャル」は力作が多く、5月28日(日)放送の「変貌するPKO 現場からの報告」では南スーダンの問題に正面から切り込んでいて、日本とは正反対のオランダのことをきちんと紹介していた。日ごろニュースでは伝えきれないことをこういう番組でやっているのだろうかという印象を持った。
- また、6月11日(日)のNHKスペシャル ニッポンの家族が非常事態!? 第 2集「妻が夫にキレる本当のワケ」では、特に妻帯者は身につまされたのではないか と思う。これも力作だった。
- 男女の脳の違いに夫婦のすれ違いの原因がある、と単純に割り切って伝えることに 疑問を感じた。また、科学というもっともらしい理由づけをすることで、男女の性差 を単純化して、分かりやすい結論に持っていっている感じがした。こういう話題はも う少し慎重に作ってほしい。
- 6月19日(月)のクローズアップ現代+「波紋広がる"特区選定"〜独占入手・加計学園"新文書"〜」は、スクープだと思うが、「NHKニュース7」や「ニュースウオッチ9」でも取り上げてから、「クローズアップ現代+」につなげるという放送のしかたをしてもいいのではないかと感じた。
- 6月17日(土)のおはよう北海道 土曜プラスでは、「ひきこもる あなたへの 絵はがき」というリポートで、ひきこもりの人へ絵はがきを送りつながりを作ろうと しているNPOを取り上げていた。それに携わっている方が、絵はがきへのメッセー ジをすごく考えながら書いている話など、日々の現場の様子が映像とともに伝わって きた。

制作担当者が思いを込めて提案し、制作した。この担当者は、東京にいた時から「ひきこもり」をテーマに取材してきたが、北海道にも事例がないかということで取材を始め、今回実を結んだ。

NHK札幌放送局 番組審議会事務局

# 平成29年5月NHK北海道地方放送番組審議会

5月のNHK北海道地方放送番組審議会は、17日(水)、NHK札幌放送局において、10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「平成28年度北海道地方向け放送番組の種別ごとの放送時間」について報告があった。

続いて、北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ「きょうはとことん!松前町」をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、6月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告が行われ、 会議を終了した。

# (出席委員)

委員長 藤野 彰 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授)

副委員長 まさきとしか(作家)

委 員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

中田久美子 (東海商事株式会社 取締役社長)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村木 秀雄 (いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長)

柳谷 君子 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポートステーション総括コーテ゛ィネーター)

和田 年正 (北海道新聞社論説委員)

#### (主な発言)

<北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ 「きょうはとことん!松前町」(総合 5月6日(土))について>

○ 「北海道中ひざくりげ」は、4月28日(金)後7:30に初回放送があり、それを「穴場ハンター」と抱き合わせで再放送するのは、順序が逆ではないかと感じた。「とことん!松前町」をうたうのであれば、5月6日に「穴場ハンター」とともに「ひざくりげ」を初回放送して、後日、単体の番組として再放送すべきではないかと思った。「穴場ハンター」に地元の人を招いてライブ感を出したり、「ひざくりげ」の旅人も出演していたので、それが再放送だとすでに見ていた視聴者には新鮮味に欠けると思う。また、のりだんだんという料理の紹介では、せっかくなので食べて感想を聞かせてほしかった。マグロを取り上げた場面では、通常冷凍と急速冷凍の

味の違いをもう少し丁寧に説明したほうがよかった。

- 「北海道中ひざくりげ」では、桜に魅せられたいろいろな人たちがいるということや、桜を守り続ける活動があることから、桜の名所と言われる場所の努力を感じた。子どもたちが桜のパンフレットを配る姿、町の人たちが桜の時期を楽しみにしている様子が見えてよかった。「穴場ハンター」では、金子鷗亭が松前出身ということや書道が盛んというのも知らなかった話題であり、番組名のとおり地元の人でなければ分からないようなことが多く紹介されていて楽しめた。一部の話題でもう少し丁寧に紹介や説明をしてほしかったところがあった。生中継であり、天気が雨で残念だったが、放送局からではなくて、武者屋敷からの中継で雰囲気があってよかった。「ひざくりげ」と「穴場ハンター」2つの番組の中で、おいしいものがたくさんあり、桜も魅力的で、ぜひ松前町に行きたいと思わされた番組だった。
- ゆったりしている時に番組を見たが、そういう時にちょうどよい番組だった。おいしい食べ物やきれいな桜の風景を見たりして、リラックスして見ることができた。なぜ松前が桜の名所なのか、地域の人が心を込めて桜を育てているからだということがよく伝わってきた。「穴場ハンター」の中継はばたばたした感じがあまり好きではないが、今回は、そこから「北海道中ひざくりげ」のしっとりとした感じにスムーズにつなげられていた。番組の雰囲気が変わるが、その雰囲気がとてもよかったので、そのまま番組に集中できた。ぜひ松前の桜を見に行きたい気持ちになった。

#### (NHK側)

「北海道中ひざくりげ」が再放送だったということについてだが、今年度は金曜の午後7時半に「ひざくりげ」を編成している。今年で放送30年を迎えた番組であり、道内のみなさんにとっても思い出のある番組だと思っており、多くの人に見てもらいたいというねらいだ。実際に4月28日(金)後7:30に放送した時の札幌地区の世帯視聴率は10%を超え、多くの人に見ていただけたので、それは成功したのではないかと思っている。一方で、「ひざくりげ」と「穴場ハンター」のカップリングによって、町を立体的に描くというのもこれまで続けてきたことであり、今回の形としている。今後は、「ひざくりげ」と「穴場ハンター」の連携をより深めて、一つのつながりのある大きな番組として制作していきたいと思う。

料理の紹介については、生放送時間との関係などもあり、実際に食べるところまではしなかった。今後も食べ物や地域の物産を紹介していくので、放送時間や演出の検討をしていきながら、より魅力的に見えるように考えていきたい。また、今回、現場のライブ感を大事にするために、紹介だけではな

くて、地元の人に生放送中に何かやっていただく部分も盛り込んだため、その時間配分の関係もあった。今後ブラッシュアップして、丁寧に見せるところとテンポよく見せるところを精査していきたい。

当日の天候が雨だったため、当初予定とは異なる中継場所から放送を出すことになったが、雰囲気がよかったという意見がありよかった。今年度は、放送局のスタジオからではなく、今回のようにその町の地域の人たちがいるところに行って生放送するという形でやっていきたいと思っている。

- 晴れている時なら書道部も違う形で見せることがあったと思うので、雨だったのが残念だったが、番組のライブ感が出ていたのはよかった。前回の「小樽」の時には昔の番組だけだったが、今回は昔と今とがうまく入り交じっており、「北海道中ひざくりげ」が始まる冒頭で、昔の番組との関連を分かりやすく丁寧に説明していたところや、「ひざくりげ」で町を訪れていたアナウンサーが「穴場ハンター」に出演して伝えているところもよかった。松前町の桜の紹介にあたり、有名スポットだけでなく地域の人との関わりも紹介されていたことや、桜以外にも1年を通した四季の中での魅力なども番組全体の中で紹介されていたことがよかった。また、松前高校書道部の生徒たちが、書道パフォーマンスで番組を盛り上げていた。歌詞を書いた場面では、その歌詞をもっと読めるように映してあげればなおよかった。私は、松前には何回も行っているが、それでも知らないことが出てきており、全体的に非常に楽しめるよい番組だったと思う。
- いろいろな話題をちりばめ、あれもこれもという気配りで入れ込んでいたが、すぐほかの話題に移ってしまうので、番組を見続けるのが厳しかった。「北海道中ひざくりげ」と「穴場ハンター」という2つの番組は、内容の量がありすぎてつらかったという感じがする。「ひざくりげ」を初回放送の時に見ていたので、その重複感というのもあった。「松前だもんね」と桜に愛着を持つ町民の一言が聞けるところに魅力を感じた。
- 「北海道中ひざくりげ」は、14年前の番組と関連づけられた説明が非常に分かりやすくてよかった。地域住民の思い出の風景を映像で再現して見せた場面では、幻想的な感じですごくきれいだった。「穴場ハンター」について、私は雨はそれほど気にならなかったし、中継場所が放送局ではなく現場であることがとてもよかった。書道部のパフォーマンスもすごくよかったが、「穴場ハンター」から「ひざくりげ」につなぐコメントを書いたのは、やや分かりにくかった。出演の藤岡みなみさんはいつも感じがいい方だと思って見ているが、今回もよかった。

○ 桜のために町民全体が自分たちに何ができるか、子どもを含めて関心を持っていることが、桜の名所となったことにつながっていると思った。高齢になっても元気で語る桜を守り続けている方の姿を見ることができてよかった。ただ、病気になっている老木の桜が増えているという場面では、その原因や治療方法にももっと触れてほしかった、そうすれば他の桜の名所の参考にもなったと思う。松前高校は生徒数も多くはない中で、書道部が有名で頑張っており、もっと多くの人に知ってほしいと思いながら番組を見た。

#### (NHK側)

「北海道中ひざくりげ」で、昔と今とのつながりを出すねらいは、過去の映像を見て懐かしむというだけではなく、時間を経て何が変わって、何が変わらなかったのかを伝えたいということだ。今回は、14年前の「ひざくりげ」で紹介した方が、今も桜を守り続けて活躍していると現代につないだ。今後は、人物に限らず、地域や現象なども、過去の映像と比較して今はどうなっているのかも見つめ、その地域の豊かさの元は何なのかということも描いていけたらと思っている。

- 「穴場ハンター」と「北海道中ひざくりげ」の両方とも、回を重ねるごとに進化していると思う。双方の番組の雰囲気は違うのだが、立体感がより出てきており、その町の魅力を想像させる感じが番組を見るたびに向上している。また、この番組審議会で出た意見をそのつどしっかり反映してくれているとも感じた。「ひざくりげ」では、桜で観光客が集まるだけではなく、地元の住民、子どもから大人まで盛り上げようとしていることがさまざまな場面から感じられ、そのシンボルである桜は、昔の方々の努力があり、その価値を現在の住民が理解して引き継いでいることも感じられてすばらしかった。「穴場ハンター」ではオープニングから興味深い取り組みや加工品を取り上げて、番組への期待感を盛り上げていた。また、古きよきものを守り続けるところと、新しい技術を開発しているという、両方の努力が感じられる場面もあり、松前の魅力が十分に伝わるもので、満足のいく構成だったと思う。
- 「穴場ハンター」と「北海道中ひざくりげ」の両方ともとてもおもしろかった。 特に「穴場ハンター」は、放送局のスタジオからではなく、その地域の会場から伝 えたことで、番組に奥行きと広がりが出て、土曜日の午前中にふさわしい元気と明 るさが出ていてよかった。生放送ならではのハプニングやトラブルでも味わいにで きる勢いがこの番組にはあり、MCを務める藤岡みなみさんの力はすごいと改めて 感じた。一方、インタビューするリポーターの元気が少し足りなくて、もっと楽し

そうに伝えた方がよかった。元気で楽しげな「穴場ハンター」に対して、「ひざくりげ」は落ち着いた雰囲気であり、その雰囲気の違いが効果的だった。「ひざくりげ」では、過去と現在の対比が効果的にできており、桜を愛する地元の人々を紹介することで、「ふるさとがあるっていいな」ということを視聴者に伝えるメッセージ性があり、北海道愛も感じた。一方で、先ほどの意見にもあったように、「ひざくりげ」は金曜日の夜にすでに放送されていたので、先に見ていた人はチャンネルを変えてしまうのではないかと思う。そうすると、後半の「穴場ハンター」を見てもらえなくなるので、とてももったいない。番組自体はおもしろかったので、そこは課題だと思う。

○ 盛りだくさんの内容であり、楽しく見た。「ひざくりげ」と「穴場ハンター」を番組全体として見ると、一方で時期物の桜をテーマにして、一方で町のいろいろな話題を取り上げているという形で、バランスは取れていたと思う。ただ、「穴場ハンター」は、グルメの話題にやや偏り過ぎているという感じがした。「穴場」ということなので、食べ物が毎回出てくることは当然としても、食べ物以外のことももっと入れてもらえると、よりメリハリが出たと思うので、そこはもう一工夫あったほうがよかった。

### (NHK側)

番組全体で見ると、「穴場ハンター」から「ひざくりげ」へ移るときの渡し方と、「ひざくりげ」から「穴場ハンター」に戻ってきた時の受け止め方を有機的につなげて、次が見たくなるような工夫をしているが、金曜の「ひざくりげ」初回放送を見た視聴者が、土曜日の「穴場ハンター&北海道中ひざくりげ」という形で番組を見る意味や演出のしかたをもっと考えていきたい。「穴場ハンター」で食べ物以外のネタももっと入れ込んだほうがよいということについては、「ひざくりげ」と「穴場ハンター」で町を立体的に描くというのが番組の大きなテーマであるので、今後、さらに多面的に見せられるように戦略的にやっていきたい。

# <放送番組一般について>

○ 4月21日(金)の北海道クローズアップ「仕事を続けたい〜働く世代とがん〜」では、私の職場にも抗がん剤治療をしている方がおり、どのように対応したらいいのかと思っていたので、非常に興味深く見た。1人の方の実際の事例では、具体的

な状況のイメージがよくつかめた。また、先進的な企業の事例やハローワークの対応も出ており、大変なところや具体的にどうしたらいいのかということを分かりやすく伝えていた。この番組を見て、育児休暇や子育て世代への対応との共通点を感じたので、多様なテーマや視点から発信することが、自分の興味や環境とも重なって共感を得ることにつながると思う。そうして多くの人に届けていくことが大事だ。

#### (NHK側)

「ほっとニュース北海道」の「がんと生きる」というシリーズで紹介した中で、最も反応が大きかったのが「働く世代のがん」についてだった。意見にあったように、育児や介護などと仕事を両立させることでの共通点はあると思うし、そういう人が働ける環境を作るということが、今後労働人口が減っていく中で大事だという意識で番組を制作した。

- 北海道は中小企業が多いと思うので、登場したのが中小企業の事例で参考になる 部分があり、北海道で放送する番組の事例としてとてもよかったと思う。視聴者か らのメッセージがやや唐突に出てきた感じがしたが、すごく見やすい紹介のしかた だった。
- 時間単位の有休のことなども、導入するのは簡単だと思うが、まだまだ知られていないと思うので、細かい対応も含めてぜひ広がってほしい話だ。また、副作用がきついのは一時期で、その後緩やかな経過をたどることも多いという話は、身近にそのような立場の方がいないと知らない話であり、とても参考になった。

### (NHK側)

視聴者からのメッセージは、集まった声をどうしたら効果的に伝えられるかということで、番組審議会での意見もふまえて検討した。今回初めてスタジオの中にボードを設けて、そこに生放送で来た声を印刷して貼るということをやった。どうしたらより見やすく伝えられるかを試行錯誤してやっているので、今後もいただいた意見を生かしていきたい。

○ 私の職場にもがんを患って働いている方がいる。がんを患う人と共に働いていく ことは、今は日常にありえることだと思う。知らなかった取り組みの紹介や実情を 知るところや、病気を抱えながら働く人へのヒントになる部分もあった。ただ、病 気の状態、本人の気持ち、職場の理解、一緒に働く人の人間性などさまざまな要素 がある中で、お互いに協議をしていくことが重要で、それに尽きるのではないかと 思うので、もう少し新たな対応策やヒント、具体的な制度や仕組みの前向きな変更 によって改善できることは何かということがあってもよかった。

○ 最近、支え合うことの大切さをこのように考えさせる番組が多い気がして、うれしく思う。今回も非常に考えさせられた。仕事を辞めざるをえなくなったがん患者の事例は、本当に切実だと思った。出産や育児、介護で、辞めたくないけれども辞めざるをえない人たちがいて、その過程がリアルに伝わってきた。なぜ仕事を辞めざるをえなくなったのか、あと少し当事者の言葉で振り返って語ってもらえたら、さらにこの問題がリアリティーを持って伝わってきたのではないかと思うが、その方の以前の職場の声が聞けたのはとてもよかった。スタジオ部分はとても安心して見ることができ、キャスターの糸井羊司アナウンサーはよくやっていて好感が持てる。出演の記者も自然体で、声も聞きやすかった。視聴者からの意見を印刷し張り出して紹介したところもよく、そのように丁寧に扱ってもらえると、意見を出した人にとってもうれしいし、視聴者にも分かりやすいと思う。

# (NHK側)

「本人の気持ちや、それを理解する周りの人間性と上司の理解があることに尽きる」という意見があったが、まさにそれが大事なことだ。しかし、多くの企業にそのようなことがないために、本人が希望を伝えられなかったり、周りの人や上司がそれを十分に受け入れられなかったりする。また、人が少ない中小企業では、仕事のフォローや代わりの人を雇用することが大企業と比べて難しい面もある。制度を整備するだけでは解決できない、職場の理解という両面があると思うので、そのことがうまく広がっていったらいいと思う。

- 5月12日(金)の北海道クローズアップ「命を絶つ若者たち"見えない孤立"からどう救うか」では、自殺者の年齢別増減において全国ではどの年代も減少しているのに対して、北海道では10代の自殺者が2割も増えているという報告にショックを受けた。グラフを用いてデータを示したことで、そのインパクトが十分に伝わり、番組に興味を持って視聴してもらう動機づけになると強く感じた。若い世代の自殺の動機のキーワードが"見えない孤立"ということだったが、その背景の説明や、孤立に陥るまでのプロセスがどうなっているのか、もう少し丁寧に解説してほしかった。糸井アナウンサーの進め方は上手だが、ゲストの解説者にももっと余裕を持って話をさせられるとさらによくなると思う。
- グラフで全国と北海道を比較して見せたことで、一気に身近な問題、わが事として捉えることにつながったと思う。原因のところで、大人の余裕がなくなってきて

いることが言われており、私もそこは大きな要因だと思った。重要な点なので、さらにもう少し言葉を加えて説明すると、より理解が進んだと思う。学生からの兆候やサインを待つだけではなく、大学から動いているということがあり、教育の関係者にも一つの指針や参考になる事例の紹介があってよかった。

#### (NHK側)

北海道の自殺者が10代だけが増加に転じていたということで、それは一体どういうことかと問題意識を持って取材した。その原因はまだ解明されていないが、若者の兆候やサインに私たちが目を凝らし、そうしていくことで原因に近づき、実際の対策につながっていくのではないか、現在進行形で取り組んでいくべきことだという思いで番組を制作した。今後とも継続取材していきたい。

- 北海道で10代の自殺者が増加していることを知らなかったので、グラフで示したことでよく分かった。番組全体として、何が悪いということより、今どんな対応をしているかにポイントが置かれていたところがよかった。自殺の防止という点では、NPOやまちづくり関係の活動をしている人たちも何らかの形で関係してくるところがあると思うので、そのようなことも含めて引き続き取り上げてほしい。今回だけではないが、スタジオで糸井アナウンサーが少し挑発的に質問をしているように感じ、それがとてもいい時もあれば、一方でゲストが詰まるときもあるように思う。糸井アナウンサーには今後も期待している。
- 最近は、見えない差別など「見えない」という言葉がキーワードになると思うが、 見えない悩み、見えない孤立ということだった。番組で紹介した大学の事例のよう に、何もなくてもアンケートを取り、そこから生徒の兆候をつかみとるなどの支援 もあるのだと思い、自分の仕事についても考えさせられた。「相談することはいいこ と」といった発言があったが、そういう認識を広めていくのはとても重要なことだ と思う。
- 丁寧に事例を挙げて紹介していたが、何となく感覚的に腑(ふ)に落ちず、若者 たちの実態が見えてこない部分があった。それは番組のせいではなく、実態が見え ないところが、若者の自殺者が多く、そしてなかなか防ぐことができないという問 題そのものなのだと思った。そのため、実態が見えない状況の中で、何とか探ろう という番組の姿勢に非常に好感を持った。結論に着地することが大事なのではなく、 結論が出なくても問題提起をするという姿勢も、いまのような時代ではとても大事 だ。ただ、自殺を図った時のイメージ映像は少し伝わりづらいものだった。子ども

が大人に迷惑をかけて心配してもらうことが難しい社会になってしまったことは大きな問題であり、そういう社会になったことを視聴者に伝えるような番組作りを期待している。

# (NHK側)

イメージ映像については、意見を生かして、今後、状況や心情により合ったものにしていきたい。

○ 4月22日(土)北海道LOVEテレビ WildHokkaido!「函館山」 (総合 前 10:50~11:09 北海道ブロック)では、短い番組時間の中で函館のことを とても分かりやすく紹介していた。日本国内向けの番組とは違ったカメラワークの ように感じ、どのように制作されたのか聞きたい。函館山は夜景で紹介されること が多いが、函館山の自然に焦点を当てて紹介していてよかった。

# (NHK側)

「Wild Hokkaido!」は、「さわやか自然百景」の膨大な自然映像の蓄積を活用して制作しており、日本人の制作スタッフが撮影した映像だ。外国人の撮影スタッフが撮っているように思ってもらえたのだとしたら、国際放送番組でもあるので、番組でいい雰囲気が出せていると思う。

○ 4月25日(火)の「ほっとニュース北海道」では「白老デラックス」という企画で、白老のアイヌ民族博物館と中継でつないで、たっぷり伝えていた。紹介のしかたはよかったが、常々、アイヌ関係の事柄をメディアが取り上げるときに疑問に感じていることがある。それは、出演された方々のバックグラウンドを伝えてほしいということだ。非常にデリケートなところであるが、自らのバックグラウンドを明らかにしていいことを前提に取材を受けてくれた人については、それを紹介していくことが重要だと思う。アイヌ文化振興ということで国立アイヌ博物館が2020年に設立予定だが、肝心の現在のアイヌの人たちの顔が全然見えてこない。そこはやはり、メディアが取り組まない限り前進していかないと思う。本人の同意が得られれば、「私はアイヌ系で」ということを視聴者に伝えることが、アイヌの存在を社会に認知してもらうことにつながっていくのではないか。これまであいまいになっていたところをもう少し明確な形で道民、国民に知らせていくことが求められていると思う。そこがあいまいだと、差別の問題などもよく分からないまま、くすぶったまま続いていくのではないかという危惧を覚える。今後、本人の同意のもとで、伝えられる範囲内で情報を伝え、バックアップやサポートをするといいと思う。

今回の「白老デラックス」は、各地域の課題や話題、魅力などを道内順番に紹介するシリーズの一つだ。何をどう伝えるかという視点とメッセージをはっきり分かる形にしようということで、取材のしかた、体制の作り方を議論し、さらに工夫して伝えたいと思っている。意見のように、アイヌの方々の現状をどう伝えるか、あるいは出演者がどのような方なのかということも、事実をよく確認したうえで、どこまで紹介すればいいかということと合わせて、今後の放送に生かしていければと思う。自らのことを伝えるのを控えたいという方もいるので、その点は、本人と相談しながら、可能な範囲で対応していきたい。

- 5月5日(金) 香川照之の昆虫すごいぜ!「2時間目 モンシロチョウ」(Eテレ前 9:00~9:30) は、初回のトノサマバッタに続いての放送であり、続編を希望していたので、その続編がついに放送されてうれしい。とてもおもしろい番組であり、ぜひ3時間目も制作してほしい。
- 5月7日(日)NHKスペシャル「世紀の発見!日本の巨大恐竜」では、全身骨格 発見の難しさが今まで腑に落ちていなかったが、CGとイラストで分かりやすく説 明されており、よく分かった。長期間取材を続けた努力がよく出ていた内容だった と思う。
- 身近なところで全身骨格化石のむかわ竜が発見され、世界的に評価されているということで驚いた。特に骨格を基に恐竜を肉づけしてCGでよみがえらせる技術はとても興味深く、感心した。また、発見に携わった方々の感激の表情が番組で伝わってきた。引き続き取材し、番組で紹介してほしい。
- 骨格発見へのわくわくする思いやドキドキする思いがそのまま伝わってくるような迫力のある番組で、これまでの取材の蓄積がすごく生かされていた。CGを含めて、恐竜というのはやはりテレビ番組にマッチすると思った。また、「ほっとニュース北海道」で「巨大恐竜"むかわ竜"研究最前線」という関連したリポートも放送しており、NHKならではの総合力でやれることでよかった。これに限らず、引き続き道民にいい放送を提供してほしい。

また、別のニュースで一点気になったのは、「イヌサフランをギョウジャニンニク と間違えて食べて死亡」したということを伝えていたが、見分けた方の一番のポイ ントは、においだ。全く違うにおいなので、それをニュースでもきちんと伝えてほ しかった。また、テレビであれば、2つを映像で見せて、違いを分かりやすく説明 できると思うので、分かりやすく伝え続けてほしい。

# (NHK側)

「ほっとニュース北海道」で放送したむかわ竜の企画だが、番組で取材している中で、派生して出てくる部分がある。記者とディレクターが引き続きうまく連携して、双方の番組に生かしていきたい。イヌサフランとギョウジャニンニクの違いの見分け方として、両方の写真を並べて、根元の違いによって判別することを映像で伝えた。においの違いということも、今後の参考にしたい。

- 5月8日(月)の「ほっとニュース北海道」では、精神障害者の家族の支援について、当事者でもある方のことを取り上げていた。社会でどう支えていったらいいのかということは、同じ立場にある人が立ち上がるということもあると思うが、みんなが考えていかなければいけないと改めて思わされた。引き続き取材し、発信を続けてほしい。
- 5月14日(日)NHKスペシャル「和食 ふたりの神様 最後の約束」は、寿司と天ぷらをMRIや赤外線サーモグラフィーで見せて技術を分析していた。主人公2人の人間性も興味深くて、とてもおもしろかった。
- 5月16日(火)ひるブラ「春全開!家庭菜園のテーマパーク~北海道・恵庭市 ~」は、曇天での中継となったことが残念だが、紹介のあった家庭菜園の施設が札 幌近郊にあることを伝えたのはよかった。また、17日(水)「北の大地を支えるレ ンガ~北海道・江別市~」は、とてもいい天気で、すばらしい北海道の映像を放送 できてよかった。スタジオゲストについてだが、中継現場で誰かが話している時に、 スタジオゲストがつぶやいたり話しかけたりすると、進行上の流れが途切れてしま い、見ているほうとしてはイライラ感が募る。スタジオと中継現場で会話をする時 は会話し、スタジオゲストの独り言やつぶやきのような時は、それを受け止めずそ のまま進行するというすみ分けが必要ではないかと思った。
- 恵庭の回では、もっと動物の場面を見たかったと思ったが、いつもと違った野菜の作り方や実践的な内容まで楽しめた。先の意見にもあったように、スタジオゲストと中継現場のやりとりが重なって進行が中断されると私もイライラしてしまうので、やりとりについてはもっと考えてほしい。

#### (NHK側)

スタジオゲストを小窓に映して中継現場とやりとりする演出については、 番組制作者の間で議論や工夫をして今に至っている。担当者に意見を伝える。

> NHK札幌放送局 番組審議会事務局

# 平成29年4月NHK北海道地方放送番組審議会

4月のNHK北海道地方放送番組審議会は、19日(水)、NHK札幌放送局において、 10人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、北海道クローズアップ「最新報告 どうなる "鉄路縮小"」をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

続いて、5月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告が行われ、 会議を終了した。

# (出席委員)

委員長 藤野 彰 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授)

副委員長 まさきとしか(作家)

委 員 井田芙美子 ((株)いただきますカンパニー 代表取締役)

小林米三郎 ((株)小林本店・小林酒造株式会社 代表取締役社長)

豊島 琴恵 (旭川大学短期大学部生活学科教授)

丸藤 競 (函館市地域交流まちづくりセンター センター長)

村木 秀雄 (いわみざわ農業協同組合 代表理事組合長)

柳谷 君予 (NPO 法人ワークフェア オホーツク若者サポ゚ートステーション総括コーテ゛ィネーター)

山下 徹也 ((株)グローバル経営センター 代表取締役専務)

和田 年正 (北海道新聞社論説委員)

#### (主な発言)

<北海道クローズアップ「最新報告 どうなる"鉄路縮小"」

(総合 3月17日(金))について>

○ これまで鉄路の問題を番組で取り上げてきているが、今回はJR北海道の鉄道事業本部の会議にもカメラが入り、伝えられたのはよかった。その議論の内容が今頃まだこのような段階なのかと驚くとともに、まだ沿線自治体も協議に乗るかどうかの話をしているのかというところで、双方建設的な話し合いやアイデアを出していくきっかけに番組にはなってほしい。意識を変えていくきっかけを今後も提起していくことを期待している。また、貨物の役割も大きいと思うので、JR貨物はどう思っているかという視点からも今後伝えてほしい。いろいろな視点から丹念に番組を制作することを期待している。

- 現段階における路線見直しを取り巻く状況がよく理解できた。それぞれの立場のかみ合わなさに、歯がゆい思いだった。次回はもう一歩踏み込んで、例えば有識者のワーキングチームの提言書の内容を明らかにし、メリット・デメリットに分けて、NHK独自で検証作業をして、視聴者に問うようなこともしてほしい。また、司会を務めるアナウンサーの異動の報告が最後にあったが、なぜ番組内で伝えることにしたのか伺いたい。
- 特に目新しい情報がない中で、問題提起をし続ける番組の存在意義というのは確かにあったと思う。問題を解決していく時間があまりにもない中で、廃止が検討されている鉄路がなくなっていくことは避けられないように私は感じている。そのような中で、地域住民と自治体がいかによい条件を引き出せるか、地域を破壊しないように鉄路を存続し、それが持続可能なものになるための案を地域で出せるような方向に番組を進めてほしかった。地域住民が自ら解決策を提言していく姿勢でないと進まないので、地域の人たちが建設的な方向に向かっていけるような番組作りをしてほしい。司会のアナウンサーの転勤の報告をなぜ番組内でしたのかについては、私も伺いたい。

去年11月18日にJR北海道が路線見直しを発表し、その2週間後の12月2日(金)に北海道スペシャル「"鉄路縮小"の衝撃~どう守る北海道の公共交通~」を放送した。今回は、その最新報告および中間報告ということで、発表からちょうど4か月のタイミングで、何が進んで、どうなっているのかを伝えたいと思い、制作した。意見のとおり、JR北海道だけが考えて解決できる問題ではないので、自治体、地域住民、道、国などさまざまな立場が手を取り合って考えていかなければならないということも伝えたい。貨物という視点も、今後も取材して伝えていきたい。

また、司会のアナウンサーの異動のあいさつだが、NHKでは新年度に向けて、例えば朝や夜のニュースなどのさまざまな番組でもあいさつしている。北海道クローズアップを2年半にわたり担当しており、あいさつしたが、転勤のことだけではなく、「この問題を、番組では引き続き追っていく」ということも含めて本当は伝えたかったのだが、言葉足らずになってしまったと思う。

道庁の専門家チームが出した報告書の中身を分析して提言するというのは示唆に富む指摘だが、伝え方も含めて熟考して慎重に行う必要があると思っている。貨物については、北海道の経済にとって重要であるとともに、実

はその貨物があるために、レールへの負荷による鉄路保守の負担もあるので、 簡単に説明できない難しさはあるが、いろいろな課題を提起する中で、今後、 その一つとして取り上げていきたいと思う。

- 周辺自治体へのアンケートで、JRとの協議に応じるかどうかがあったが、その 回答の伝え方に加えて、JR、国、道それぞれに何を求めるかというまとめが、非 常に分かりやすかった。歯がゆさを感じるという意見も出たように、その背景にあるものが複雑で見えにくく、何が問題で、それぞれがなぜはっきりとものを言えないのかということが理解できなかったが、アンケートを通して情報をまとめて伝えられたことで理解が進んだ。今後、地域が一体となって取り組んでいくようになればいい。放送番組モニター報告にもあるが、JRだけに任せておいてはいけないということを、番組を通して視聴者も感じられたと思う。
- 25分という短い番組時間でありながら、現状や問題を理解できた。歯がゆく感じたという意見が出たが、その背景にある構造的な問題、すなわち今の枠組みだけで捉えることことには限界があると思うので、例えばスウェーデン式の上下分離方式などの海外事例や開発予算の枠組みで道路の予算を鉄道整備にいくらか振り替えることはどうかなど、本当にこの枠組みでいいのかという視点がないと問題解決に向かわないのではないか。国家的な問題だと思うので、北海道発の「NHKスペシャル」で全国放送して十分いいと思うとともに、NHK全体で取り組んでいただきたい。また今後は、北海道知事や本省のキーマンに番組の中で話を聞くようなことも求めたい。
- 番組自体は現状の整理がよくできていて分かりやすかった。このテーマについては、課題に対して丁寧に放送されるほどに、どうしてこうなる前に何とかならなかったのだろうかと腹立たしい気持ちになってしまうというのが正直な感想だ。また、司会のアナウンサーが「これは道民皆さんの問題です」「みんなで考える問題です」と決まり文句のようにさらりとまとめたことには浅い感じがした。地域住民に納得してもらえるような具体的な代案をJR北海道は示していかねばならないし、そこも伝えてほしい。また、検討会における出席者それぞれの動きや意見が、どのように反映され、どうつながっていくのかや全体像が分かりづらいように感じた。鉄路縮小そのものに焦点を絞って放送する番組はこれからも必要だと思うが、そのような直接的なテーマ設定とは違った視点で、例えば地方創生のような形で、地域の生き残りのヒントや勇気をもらえるようなことも取り組んでほしい。
- 放送回数を重ねていく中で、沿線だけの問題ではないと感じたし、北海道全体で

考えていくという芽生えが出てきていると感じている。特に昨年の台風被害によって鉄道が止まり、農産物の輸送または地域経済に大きな影響を及ぼした中では、道民一人一人が「この問題は全体で背負っていかねばならない」という方向に変わってきていると思う。沿線55自治体へのアンケートのうち36の自治体が現時点では「協議に応じられない」という結果を見たときに、本当にこれでいいのかと思った。今後、このテーマの番組は継続すると思うが、国の政策、道の方向性、そしてさまざまな立場の関係各所がどのように変わっていくのかを伝えるとともに、道民全体の問題だということを念頭に継続して伝えてほしい。

#### (NHK側)

30年前の国鉄分割民営化にさかのぼって構造を捉えるとともに、北海道の公共交通をどう守るのかという意識を持って取材している。今の枠組みの中だけで解決することは厳しいという現実を示したうえで、それでは本当にどうしていったらいいかということを、番組を通してさまざまな視点から考えていきたい。また、鉄道を利用する沿線住民や自治体だけでなく、北海道全体として考えること、さらには国や道の知恵を結集して取り組むことは欠かせないと思う。JR北海道と沿線自治体の協議について、なかなかそこに踏み出せていないという現状の実態もアンケート調査を通して伝えた。去年9月にNHKスペシャル「縮小ニッポンの衝撃」という番組で、人口減少や財政の厳しい自治体について伝えたが、鉄道の問題も象徴的であり、北海道が直面する本当に厳しい地方の現実を、北海道だけの問題ではなく、人口減少社会の中でこれから日本全体が直面していく事例だという意味で、真剣に取り組むとともに、いろいろな形で番組で伝えていきたい。

道庁がこれからどうリーダーシップを発揮していくのかというところも 含めて、継続して取材していきたい。

- 最新報告という番組タイトルにふさわしく、今どうなっているのかがよく分かった。さまざまな立場の方への取材があったが、「このような状態になる前に、なぜもっと深い議論が始められなかったのか」という言葉に尽きると思った。JRや沿線自治体だけでなく、みんなで考えようという視点では、路線バスなどに比べて鉄道はまだ十分にできていないことが問題だと思う。そのようなことについても思いを至らせてくれる番組であった。
- 番組タイトルに最新報告とあるように、派手さはないが、JR、国、道、自治体 が今何をしているのかを伝える意味で完成度が高い番組だった。さまざまな情報が

ある中で、どの部分を紹介し、伝えるという選択が的確であり、それぞれのつなぎが非常にスムーズだったことがその要因だと思う。スタジオに出演した記者は堂々として、声も聞き取りやすくよかった。司会のアナウンサーの異動のあいさつについて意見が出たが、北海道で伝えてきたわけなので、私はあいさつがある方がいいと思っている。

○ JR北海道の鉄路縮小の発表から4か月の中間報告でまとめたということで、今どの程度困難な状況にあるかという全体の構図がよく整理されていたし、会議の映像には臨場感があった。全体状況の説明も要領よく作られていた。道庁のリーダーシップがいまひとつ見えないことがずっと続いていると思うので、今後はそこを具体的に取り上げてほしい。社員の士気が落ちているということもあり、JR北海道の組織内のことも今後どうなっていくのか引き続き取材してほしい。この問題について北海道全体における危機感の共有が、以前より高まってきているが、まだ十分ではないと思うので、議論を盛り上げることがNHKはじめメディアの重要な責任だと思う。道庁やJRといった当事者を入れて専門家と議論する、例えば「日曜討論」の北海道版のような番組を検討してはと思う。それぞれのキーマンが意見をぶつけ合い、それを道民に伝えるというのが必要だ。

#### (NHK側)

道内の皆さんの意見も日々変化すると思うので、そういう声を今後も生放送で紹介しながら、そして当事者それぞれに問いながら伝えたいと思うとともに、番組を通して一人でも多くの人が自分の問題として道内の公共交通の将来を考えるきっかけになるように、引き続き取り組んでいきたい。

意見をこれからの取材に役立たせていきたいと強く感じた。記者の出演については、現場で取材している記者だからこそ伝えられる臨場感や、実際に当事者に肉薄した記者だからこそ選べる言葉遣いが出せるように高みを目指してやっている。引き続き頑張りたい。

# <放送番組一般について>

○ 4月7日(金)の北海道クローズアップ「ファイターズ 連覇を目指して」は、スポーツもののタイミングの難しさを感じた。せっかく対談などでいろいろと語っていたが、番組後の北海道日本ハムファイターズの戦いぶりを見て、全部中身が自分

の中で飛んでしまった。勝っていればすごくよかったのにと思った。

○ 新年度になり糸井羊司キャスターが新しく務めるというところで、新鮮な感じでよかった。冒頭の入り方も通常とは異なる作りで、すぐに視聴者の心を捉えるようなものであるとともに、ファイターズファンにはたまらない内容だったのではと思う。球春到来を告げる開幕直後の放送のタイミングということもよかったし、北海道の球団として地域に根づくための取り組みを伝えたこともよかった。そして、糸井キャスターはきちんと番組を締めることができていて感心した。

# (NHK側)

今年度最初の放送であるとともに、糸井アナウンサーに変わって1本目ということで、北海道中の人が関心を持って見ることができ、元気のいい番組にしたくて、このテーマを選んだ。去年と同じままでは連覇はできないので、どんどん挑んでいくという積極的な球団の姿勢もあり、私たちも新年度スタートからぜひ応援していきたいという思いで、この日の放送とした。

- 非常によくまとまっていて、放送の時点では番組に入っていけたのだが、意見に もあったように今の成績ではこのような番組はなかなか厳しい面もある。巻き返し の続編に期待している。
- 出た意見に同じく、途中経過を見た中では残念な結果になっている。地域に根づく取り組みを紹介したのはよかった。ゲストについては、いつも同じ人ではなく、さまざまな人に出演していただいた方がいいと思った。

# (NHK側)

さまざまな人に出演してもらうことは考えて制作しており、最近で言うと 1月にBS1で放送したスポーツ追体験ドキュメント「大谷翔平が語る 優勝への15奪三振」では、元メジャーリーガー投手の斎藤隆さんが対談の聞き役だった。

○ 冒頭、開幕直前の盛り上がりを紹介する映像は、つなぎがとても上手で、みんなの期待を表していた。応援大使という取り組みを知らなかったので興味深く見るとともに、応援したい気持ちになった。内容はおもしろかったが、開幕後チームの調子が悪く、タイミングが残念だった。また、日本ハムのことを知らない人への説明という点でもう少し丁寧に伝えてほしいところがあった。

- 4月8日(土)北海道LOVEテレビ 穴場ハンター&北海道中ひざくりげ「きょうはとことん!小樽市」(総合 前 10:05~11:00 北海道ブロック)では、「ひざくりげ」が30年前の再放送ということで驚いた。理由の説明があったとは思うが、かなり唐突な感じがした。昔の番組を出すのも悪くないが、その次の「穴場ハンター」のネタにつながるのかと思っていたが、そういうことが一切なく「穴場ハンター」に入っていったことが残念だった。次の松前町のロケ日程などを番組の最後に知らせていたのはとてもよかった。
- 「北海道中ひざくりげ」で30年前の映像を懐かしく見た。当時の映像を見ると商い一つとっても、大きく時代は変わったことを実感した。30年前のアーカイブスを放送するということは、その時代を振り返り、今を見つめ直す機会にもなってとてもいい。ただし、意見にも出たが、直後の「穴場ハンター」で「ひざくりげ」についてふれたり、関連づけたりすると思ったが、それがなかったので、そういうつながりがあるともっとよかった。一方で、まさに穴場という話題も取りあげていたのはよくて、懐かしさと新しさを両方楽しく見たので、これからも楽しみにしている。
- 私も唐突感が否めなかった。つながりがなく、少し番組に入っていきづらかった。
- 30年前の「北海道中ひざくりげ」が流れたことに驚いた。「穴場ハンター」とつながるはずだと思って見ていたが、つながることはなく、ある意味斬新だった。30年前の映像を丸ごと見る機会はなかなかないので興味深く見るとともに、今後もこういう放送があってもいいと感じた。昔の映像が流れると何となく年末のイメージがするので、年末にこのような取り組みがあってもおもしろいのではないか。「穴場ハンター」ではテロップの出し方が今回はあまりよくないように感じた。また、スタジオで「値段も手ごろ」と紹介したものがあったが、具体的に説明してほしかった。

1987年から放送が始まった「北海道中ひざくりげ」が今年度で30周年ということで、今回は放送1年目の30年前の番組を放送した。過去番組のアーカイブス放送だけではなく、今後は当時の場所や人が今どうなっているのかも含め、時代の流れとともに紹介するという番組も予定している。「穴場ハンター」は年間10本放送する予定だ。「ひざくりげ」と「穴場ハンター」のつながりがなく唐突だったという指摘があったので、今後工夫をしていきたい。

- 4月15日(土)にっぽん紀行「"みんなの本屋"へようこそ〜北海道 留萌〜」(総合 後6:05〜6:33)では、「北海道クローズアップ」で放送した時と比べ、人の気持ちを大事にすることが大切というように心の部分がより強くなったように感じた。新しいエピソードが加わるとともに編集も変わり、一度「北海道クローズアップ」で見たネタが、また新鮮な気持ちで見られてとてもよかった。友人にも番組を薦めたところ、多くの人に「本当によかったね」と言ってもらえた。このような番組を制作してくれたことが、とてもうれしい。
- 「北海道クローズアップ」よりも落ち着いた雰囲気で、感動的に仕上がっていた。 ナレーションと進行に中江有里さんを起用することによって、視聴者の視点が中江 さんの視点となって、自然と番組に引き込まれた。ページがめくられるように始ま るオープニングなど工夫があり、楽しく見ることができた。それぞれのエピソード が見ていて心温まると同時に、地域にとって本屋のある環境がいかに文化的で大切 かということを教えてくれるすばらしい番組だった。

テーマとしては「地域の本屋をどうする」という視点でも見られるものだが、地域の人のつながりや心の面をより深めて、地域と人を描く「にっぽん紀行」という番組として挑戦しようと制作した。こうしたテーマも引き続き、「北海道クローズアップ」のような番組でも、一方で「にっぽん紀行」のような番組でも伝えていきたいと思っている。

- 人口2万人の街で本屋を経営するのは大変なことだと思っている。7年前に本屋がなくなり、その状態を何とかしたいという思いが地域の中で表れていることを受け止め、地域全体で盛り上げる努力をしていることに感心した。子どもへの読み聞かせボランティアの場面で「ご飯は体の栄養、本は心の栄養だ」と話していたのには、まさに小さな子どもたちにこのようなことを聞かせてやりたいと思いながら見た。
- いろいろ工夫して、地元の人を登場させて飽きさせない構成になっていて、おもしろく見た。また、この番組は地域住民の視点から捉えていたが、書店業界の地方における今後のビジネスモデルがこれでできたのかどうか、書店側が今回の成功をどう見ているのか、どのような経緯で出店を決めたのか知りたいことがいくつか出てきた。

「北海道クローズアップ」で、大手書店がなぜ留萌に出店できて、黒字を 守れているのかということも伝えた。今回は紀行番組なので、議論の末そこ は紹介することをやめて、人の言葉や心を中心に据えた。

- 3月10日(金)北海道クローズアップ「待機児童ゼロを目指して〜保育所拡充への模索〜」は、全国的に問題になっていることであり、ようやくこの問題が北海道で放送され、もう少し早い時期にやってもよかったと思う。私の周囲でも、人手不足という問題がありながら、子どもが小さいためにパートでも勤めができないジレンマに陥っている企業が多くある。聞いた話では、企業単独ではなくて協同組合形式などの設立を予定している企業などもいくつかあるので、子育て家庭の生計を支える働き方、企業の労働力確保などさまざまな課題があるので、そういう問題をさらに深めて制作していくことがいいのではないかと思う。
- 3月26日(金)小さな旅「冬霧の海で〜北海道 北斗市〜」では、実際にホッキ貝を取っている漁師の姿がよく分かるとともに、夫婦の絆がかいま見られた場面は心温まってよかった。北斗市は観光地として苦労している部分があるが、このような番組で取り上げられることは街のイメージアップにもつながるのではないかと思う。
- 〇 4月1日(土)人生デザイン U-29 アンコール「保育所経営」(総合 前  $10:55\sim11:19$  北海道ブロック)は、もともと好きな番組でもあり、とてもおもしろかった。「北海道クローズアップ」でも取り上げていた人だが、別の番組を作るのであれば、ほかの人を取材する方がいいのではとも感じた。

# (NHK側)

ある番組からほかの番組に展開するような形で制作するマルチユースとして制作した。今回は、「人生デザイン U-29」で取材していく中で、待機児童問題を真正面から取り上げた方がいいということで「北海道クローズアップ」に展開した。

○ 4月1日(土)NHKスペシャル「足元の小宇宙Ⅱ 絵本作家と見つける"雑草"生命のドラマ」は、作家の世界観をすばらしい映像で描けており、わくわくしながら見た。一つ一つの言葉が生き生きとしていて、見ている人を魅了したのではないかと思う。音楽もナレーションもぴったりで、芸術的にも、あるいは植物の専門書としても見応えがあり、元気をもらった。

- 4月8日(土)おはよう北海道土曜プラスでは、「マジックで笑顔を」という特集 で、古谷敏郎アナウンサーが手品を実際に披露する場面もあるなど親しみを持てて よかったが、少しその放送時間が長すぎた面もあるように感じた。
- 4月15日(土)北海道LOVEテレビ 世界ふれあい街歩き「函館スペシャル」 (総合 前 10:05~11:04 北海道ブロック)は、北島三郎さんがナレーションで、あ たかも北島さんが歩いているような演出だった。初めて番組を見たが、まさにその 人目線で歩いているかのように映像が進んでおり、放送後にホームページでチェッ クしたくらいおもしろかったが、少し違和感のある部分もあった。
- 4月17日(月)プロフェッショナル 仕事の流儀「独り、山の王者に挑む〜猟師・久保俊治〜」は、興味を持って見た。とても丁寧に取材しており、実際に撃たれた後のシカなども映した踏み込んだ映像だった。カメラマンが動いてしまい一喝されるシーンも放送しており、正直なドキュメントに好感を持った。久保さんのにおいの表現から、猟とは何かが映像を通して伝わってきた。生のシカ肉を漬けにして食べる場面があったが、野生鳥獣の生肉摂取については厚生労働省ガイドラインもあるので、生肉をおいしそうに食べたくなるような感じの映像はより配慮されるべきだったのではないかと思った。
- 「プロフェッショナル 仕事の流儀」はここ2週続けて秀逸で、とても楽しんだ。まず、4月10日(月)「遠くを見ない、目の前を生きる~噺家 春風亭一之輔~」は、冒頭に貫地谷しほりをもってきたのが、「ちりとてちん」を見ていた人は手を打って喜んだのではないかと思う。ニュースなどでのNHKの演出はあまり好きではないが、こういう演出はどんどんやってほしい。すばらしかった。次の「独り、山の王者に挑む~猟師・久保俊治~」は、久保さんの著書があるのだが、あの世界に映像で入り込んだような感じだった。入念な取材で緊密に制作されていた。彼の世界、すなわち、あえて血を出して命を奪う、それを通じて命というものを考えさせることを映し出していてよかった。先ほどの生肉への意見については、私も気づいたが、あそこで何かことわりを入れるのも世界が崩れると思うので、番組のホームページなどでフォローするのがよいのではと思った。
- 4月14日(金)ほっとニュース北海道では、「防衛省の資金で研究 是か否か」 ということで、防衛省が資金を提供して大学が研究をするという問題について道内 の状況を紹介しており興味深く見た。北見工業大学が軍事的研究に加担してはなら ないと決めたことについて取り上げられていたが、大学の中で方針がすんなり受け

入れられているのかが知りたいと思った。機会があればぜひ取材して伝えてほしい。

### (NHK側)

このニュースについては、こだわりをもって取材してきた記者の独自ネタだった。意見を現場に伝える。

○ 3月30日(木)の夕方のニュースで「井戸に女児転落 救助続く」という項目で、ヘリコプター中継していた。井戸の中の救助において、声をかけたりするときに、ヘリコプターの音で救助の妨げにならないのかと思った。空撮する必要があったのか疑問に思った。

# (NHK側)

一般的な方法として、ヘリコプターから撮影する場合には、例えば、高度とか水平距離を常に見ながら、これ以上近づいたら地上にも迷惑がかかるというところで歯止めを設けて、接近し過ぎないような形でやっている。地上の救助活動に支障のないようにというのは非常に大事なことなので、そうした配慮がなされていることを改めて確認していきたい。

○ 昨今、ポテトチップスの欠品に関してメディア全体の報道が大きいと感じている。 その結果、必要以上の買い占めが起きる状態を引き起こしているのではと思う。一 方で、台風の影響がこうして影響することを消費者に知ってもらういい機会だとも 思うので、北海道農業の現状についてこれを機会に一歩踏み込んだ報道をするとと もに、「北海道クローズアップ」などでも取り上げて、こうした買い占めに対して適 切な情報発信をしてほしい。

# (NHK側)

昨夏の連続台風から1か月というタイミングに「北海道スペシャル」で農業への被害について伝えた。地元の人も私たちも収穫時期には影響が出るだろうと思っていたが、おそらく多くの人はそれを知らなくて、慌てている面があると思う。重要な農業がこれからどうなっていくのか、漁業についても同様に意識しており、どこかのタイミングで「北海道クローズアップ」などで伝えられたらと思っている。

○ 視聴者意向の資料に「妊娠中のお腹の大きな女性アナウンサーがとても見苦しい。 やめさせてほしい。」という視聴者の意見があり、ものすごく心が痛んだ。妊娠中の アナウンサーにどのような対応をしているのか伺いたい。

妊娠によって、本人の意に沿わず番組から降板するというような対応は当然行っていない。出産・育児には身体の負担もかかるものなので、ある期間を過ぎると、出産や育児のための休暇を取る権利が本人に生じて、上司や番組担当とも相談して、本人の希望のうえで休暇を取っていくというのが基本だ。

NHK札幌放送局 番組審議会事務局